

自大正十五年至昭和五年五ヶ年間灌溉期間(六-九月)平均

五ヶ年平均 最小流量	同平均流量 五ヶ年間ニ於 ケル最小流量	同上平均 洪水量	同上洪水量
六月	四六・五(個)	六八・六四	一五〇・六
七月	四二・〇	六八・四二	一五五・六
八月	四三・二	六九・四〇	一六四・八
九月	四四・八	七七・七八	一六六・二
一方里當五ヶ年間最濁水量		九・四個	三〇〇
平均濁水量		一三・七個	
同 平水量		二二・〇個	
同 平均洪水量		五〇・〇個	
同 最大洪水量		九三・七個	

右信電調査ノ一平方里當リノ流量ニ依リ鳥居川ノ水量ヲ計算セバ濁水量九六・八個平水量二二六・六個
 洪水量九六八・二個ナリ。

第二節 用水權ノ概況

富士里村平岡附近迄ハ耕地尠ク用水堰無クシテ唯信濃電氣株式會社ノ四水力發電所(註)ノミア
 リ。

註 鳥居川發電水力許可地點

名 稱	許 可 水 量			許 可 年 月 日
	最 大	平 水	濁 水	
信電第一發電所	八六	五五	三四	大 一四、七、一〇
同 第二	七五	五五	二三	大 一五、一、二六
同 第三	七〇	一八	特別 二二	大 一五、二、二〇
同 第四	一	三五	特別 三七	昭 三、
備考 發電樣式	取入發電			

第四發電所取入口ノ直グ下ヨリ左岸ニ二ノ倉堰、右岸ニ小玉堰ノ用水堰ヲ初メトシ、大小約三十條
 ノ用水堰アリ流域約一・八七六町反ノ水田ヲ灌溉シ、千八百八十三戸ノ飲用、雜用、竝ニ四十四ヶ所ノ
 水車ニ使用セラル。用水堰ノ中主ナルモノハ十四條ニシテ、其ノ主ナル堰ノ支配區域竝灌溉面積ヲ上
 流ヨリ順次ニ掲グレバ次ノ如シ。

堰ノ名稱	灌溉面積	支 配 區 域
二之倉 堰(左)	六四町	柏原村大字二之倉
小 玉 堰(右)	(約三〇〇町)	富士里村 宮腰、辻屋、落陰、石橋 高岡村 岸澤、新井、中郷村 西黒川、小玉

堰名	位置	面積	受益村
原	堰(右)	(約五〇町)	富士里村 原、落合
川原	堰(左)	一三町	柏原村
芋川	堰(左)	二九五町	三水村
倉井	堰(左)	二二八町四反	三水村
普光寺	堰(左)	五〇町一反	三水村
今井	堰(左)	一四九町	鳥居村 川谷、大倉、蟹澤
日影	堰(右)	五三町八反	鳥居村 上今井
大倉	堰(左)	二二町八反	鳥居村 大倉、淺野
蟹澤	堰(左)	五四町四反	鳥居村 大倉
石村	堰(右)	一五七町四反	鳥居村 大倉、蟹澤
堀	堰(左)	七町六反	鳥居村 淺野、石
新	堰(右)	三町九反	鳥居村 蟹澤、淺野

各堰ノ設置年月日ハ詳ナラザレドモ、古老ノ言ニ從ヘバ最古ノ倉井堰ハ天正年間ニ築造セラレ其ノ他ノ諸堰ハ同時代ヨリ少クトモ元祿年間迄ニ築造セラレシモノト推定セラル。

取入方法ハ各堰トモ、河中ノ轉石及山芝ヲ用ヒ堤狀トナシテ堰止メ、水門ヲ設ケズシテ引水スルモノニシテ、不完全ナル引水ナルモ、之ニ依リ各堰相讓リテ引水シ得ルモノナリ。

鳥居川筋ノ用水調ハ正確ナル調査ナキヲ以テ之ヲ論ズルヲ得ザルモ、參考ニ各村ノ河川引用調ニ依

リ明カナルモノヲ掲グレバ次ノ如シ。

堰名	最大水量	平均水量	最小水量
二之倉堰	二二・五個	一九・九八個	一八・〇〇個
芋川堰		三一・二〇	
倉井堰		一七・〇〇	九・〇〇
普光寺堰		六・〇〇	四・〇〇
今井堰		一二・〇〇	
日影堰		七・〇〇	
大倉堰		五・〇〇	
蟹澤堰		一〇・〇〇	
堀堰		六・〇〇	
石村堰		一〇・〇〇	
新堰		三・〇〇	

備考 倉井堰以下ノ平均水量ハ五月一日ヨリ九月三十日迄ノ所謂灌漑期ノ平均流量ニシテ、最小流量ハ其ノ他ノ期間即チ非灌漑期間ノ平均流量ナリ

本川ノ用水ハ順次落水トシテ下流ノ用水トナルヲ以テ、以上ノ引水調ヲ以テ本川ノ用水ノ過不足ヲ論斷スルコト能ハザルモ、若シ各堰其ノ引水調ニ表ハレタル流量ヲ獨占的ニ引用ストセバ、上記小玉堰其ノ他ノ堰ノ用水量ヲ除ケル數字ニ於テモ既ニ百數十個ヲ引用スルコトニナリ、二之倉堰上流ニ於

ケル平均流量ヲ浚ゴト倍數ニナルヲ以テ渴水期ニ於テハ全ク引水困難ノ事情ニ陥ルコトニナルナリ。

第三節 鳥居川筋ノ分水慣行

各堰ノ用水取入ハ轉石ヲ以テ堰止メ自然流下ニ等シキ方法ヲ以テ引水スルニ過ギサルコトハ上述ノ如シ。

各堰間ノ分水方法ヲ見ルニ、分水ニ關シテハ一定ノ協定無ク而モ番水制度モ無ク、所謂定流ニテ、各堰用水ハ用水ヲ必要トセバ隨意ニ川筋ニ土俵ヲ積ミ引入ヲ圖リ得ルモノナリ。下流ノ者ガ用水ヲ必要トセバ「下ケ水」ト稱シ、下流ノ者ガ上流側ノ水利惣代ニ申出テ——三日前ニ申出ヅルヲ普通トス——上流ハ之ヲ拒ムコト無ク承諾シ、關係各堰立會シテ分水ス。コノ「下ケ水」ノ程度ニ就キテハ一般ニ規定スル所ナキモ、芋川堰ニ於テ例ヘバ分水量ハ上層ノ土俵一俵ヲ約四尺乃至五尺以内取拂ヒ、分水期間ハ一回多クテ三日間ヲ例トスル等——一回ノ分水費ハ約二十數圓ナリ——ヲ規定セル例アリ。

更ニ、通知無クシテ水ヲ盜ム場合アリ、此場合ハ常ニ堰番ニ於テ默許ノ形式ヲ採リテ水ヲ落スモノニシテ若シ上流側ガ水ヲ必要トセバ直チニ之ヲ堰止メ引水シ得ルモノナリ。

此外、倉井堰ニ關シ「通シ水」ナル慣行アリ。通シ水トハ下流ヨリ上流芋川堰ニ下ケ水ヲ要求シ堰ノ取拂ヒヲナシタル時本堰取入口ノ量水標ニ依リ假リニ上流堰取拂ヒ前水深一尺アリトセバ取拂ヒタル後一尺以上ニナリテ除々ニ堰ノ一部ヨリ水ヲ落シ、初メノ一尺ヲ維持スル迄落水セシムルヲ云フ。即チ餘分ニ上流ヨリ來リタル水ノミ分水スルヲ許スモノニシテ下流ノ引用者ヨリ下ケ水ヲ乞フモ舊慣ニ依リ本拂ヲ爲サザルナリ。

鳥居川筋ノ分水ハ大略上述ノ如キ慣行ニシテ、本川ハ洪水多ク毎年堰ノ流出スルモノ尠ナカラザル事情ニテ固定堰ニ依リ引水ヲ許サザルモ、全川ヲ通ジテ各堰ハ其ノ必要水量ヲ各自引水シ得ルモノニシテ、必要ニ應ジ自ラノ堰ヲ堰止メ或ハ上流堰ヲ堰切りテ引水スルヲ原則トス。

尙鳥居川ハ大正十一年五月一日河川法準用セラレ、縣費支辨河川トナレリ。

第二章 各用水堰ノ配水慣行

鳥居川筋用水權ノ内容ヲ吟味スルニ先立チテ、各用水堰ノ堰筋ノ配水慣行並制度ヲ一瞥ス。問題ヲ明瞭ナラシムル爲ニ便宜上用水堰ヲ上流ニ位スルモノ、中流ニ位スルモノ、下流ニ位スルモノニ分チ、上流ニ位スルモノトシテハ二之倉、小玉兩堰ニ付、中流ニ位スルモノトシテ芋川、倉井兩堰、下流ニ位スルモノトシテ今井、石村兩堰ニ付各配水慣行ヲ概説ス。

第一節 上流堰ノ配水慣行

(イ) 二ノ倉鳥居川用水

本堰ハ鳥居川筋最上流位ニ位シ、前述ノ如キ轉石ヲ用ヒテ鳥居川左岸ヨリ引水シ、柏原村大字二之倉部落一圓六十四町六反ノ水田ヲ灌溉シ、百十戸——此中、八割ガ水田灌溉關係者ナリ——ニ飲用、雜用水ヲ給ス。配水ハ自然灌溉ニモ等シキ定流ニテ、用水不足ノ際モ番水ノ慣行無ク、區長ヲ水惣代トシテ配水ヲ司ラシメ、用水必要ノ際ハ伍長（五人組ノ頭）ト協議ノ上本川ヲ堰止メテ充分ナル引水ヲナス。番水ハ各戸平等ニ賦役セシメ、材料モ戸數割ニ賦課ス。

水利費ハ區ノ組費年二、二四八圓——地價割四分、戸數割四分、平均割二分——ノ中百五十圓ヲ占ム。水路幹線延長二五〇間ハ村有地ニシテ、用水維持管理者ハ村長ナルモ、修理等ニ對シテハ村費ノ支出無ク、全然引水及維持ニ至ル迄水利關係者ノ負擔ナリ。

河原堰モ大體二ノ倉堰ト同様ノ配水方法ヲトレルモ水惣代ヲ置カズ關係者三十人——用水權ニ關シテハ小作人ハ地主ト同等ノ地位ニアリ——ガ集リテ協議シ、堰上ゲハ耕作者ガ賦役シ、地主ハ賦役セザル代リニ材料ヲ負擔ス。

(ロ) 小玉堰

小玉堰ハ最上流位ノ二之倉堰ノ真下ヨリ右岸ニ引入レ、前記富士里、高岡、中郷三箇村八箇部落ニ灌溉用水、飲用、雜用水ヲ供ス。但シ取入口附近ノ御料、中村兩部落ハ同用水ノ潤ス所ナルモ地勢上優利ノ地位ニアルヲ以テ申合組合ノ外ニアリテ唯取入口ノ修理ニ付出資スルニ過ギズ。

鳥居川ヨリノ引水ハ前記ノ如ク轉石ヲ堰狀ニ積立テ、引水スルモ之ニハ各部落ヨリ水惣代或ハ水路掛ガ人夫一名——流末ノ小玉ハ二人出ス——ヲ連レテ堰上ゲ。

鳥居川ヨリ引水シ來レル用水ハ幹線ニ導キ各部落ニ導水スルモノニシテ、各分水堰ニ定規ヲ置キ其大サヲ一定ス。例ヘバ高岡ト小玉ノ分水定規ハ五分五ニシテ、高岡ハ二部落、小玉ハ一部落ニ灌溉スルモ高岡側ヘノ水路ハ自然流下ナルヲ以テ斯ク定ム。

幹線ヨリノ分水ハ本流ノ場合ト等シク定流ヲ本則トスルモ、一方番水ヲ認メ、之ハ各部落ヨリ選舉セル水利係——之ハ小玉、辻屋、宮腰、落陰ノ四部落ノ中ヨリ選舉ス——ノ見圖ラヒテ以テ行フモノニシテ、用水不足シ勝ナル流末部落タル小玉、辻屋、宮腰、落陰ガ取入口迄廻リテ水ヲ引來リ順次各堰口ヲ切落シテ引水ス。之レ水上ハ何時ニテモ——夜間——引水ノ機會アルヲ以テ川下ノ隨意ニ水引ニ來ルコトヲ拒マザルナリ。

用水路敷ハ村有地ニシテ富士里、高岡、中郷ノ三箇村ガ共有シ、名目上三箇村長ガ共同シテ管理スルモ町村ヨリ費用ヲ出スコト無ク、又此用水ニハ古クヨリ振元ト稱スルモノアリ、地勢上各村ノ集合

シ易キ地位ニアル辻屋ガ代々コノ水元ニナリ事實上ノ水利事務ノ管理ヲセリ。

鳥居川本流ノ堰上ゲ費用ハ年數百圓ニシテ各部落ニ平均ニ割當、各部落ハ田地價割ニ費用ヲ割當、人夫ハ住民ニ一律ニ賦課ス。

各部落ノ水引キノ費用ハ各部落限リニ於テ負擔シ、小玉ニ付テ見ルニ其ノ費用年三百圓ニシテ水引人夫賃一回六十錢——此用水費ハ水田所有者ノミ負擔シ賦役ハ住民全部出役シ、他部落ノ住民ニシテ本掛ノ水田ヲ小作セルモノハ費用ヲ負擔スル義務無ク又出役ノ義務モ無シ。水利事務ノ處理ニ關シテハ村民全體ノ承認ヲ得ザレバ處分スルコト能ハザル慣例ニシテ、各部落ノ水惣代——多ク區長ナルモ引水困難ナル部落ニ於テハ水路掛ヲ置キ小玉ニ於テハ年手當三圓、人夫當付料一回三錢ノ收入ヲ與ラ——ハ代理ニ過ギザルナリ。

第二節 中流堰ノ配水慣行

(イ) 芋川堰

本堰ハ鳥居川ノ中流ニ位スル堰ニシテ、古里村大字富野ニ於テ左岸ヨリ取入レ、三水村大字芋川、赤鹽東西組、東柏原東西組二九五町歩ヲ灌溉シ、關係部落ノ飲用、雜用水ヲ供ス。

堰上ハ每年四月上旬、堰割ト稱シ、關係部落惣代、用水係、組長、小頭等立會ノ上區間ヲ定メ工事

人夫等ノ割當ヲナシ爾來各部落ハ人夫ヲ出シ擔當區間ノ浚渫修繕ニ着手シ四月末ニ終了シ揚水スルヲ例トス。

配水ハ番水ニシテ芋川ハ午後七ツ時(午後四時)ヨリ翌朝七ツ時迄、赤鹽、東柏原二部落ハ午前七ツ時ヨリ午後七時迄隔日ニ引用シ、灌溉期間ヲ通ジ赤鹽、東柏ハ樋ノ止メニ隔日十五、六人宛出シテ各自部落ニ引用ス。——樋止メハ上流芋川地域ノ引入口ヲ全部止メ晝間ヲ監視スルナリ。

人夫ハ部落内ニ全部ニ(女子、子供ノミノ家ハ割當ズ)順次區長又ハ伍長ヨリ割當、料金ヲ支拂フ。水利費用ハ全部ニ亘ルモノ即チ揚ゲ水、堰渫へ、修繕等ハ總額ヲ九十六圓トシ之ヲ芋川五四、赤鹽二八、東柏原一四ノ割合ニ分賦ス。

各區ハ之ヲ區費(或ハ協議費トモ稱ス)トシテ之ヲ各區民ニ分賦スルモノニシテ赤鹽ハ戶數割三、地價割七トシ、東柏原ハ五分、五分トセリ。尙用水係ハ各區一人宛、任期ハ二年乃至三年各區民ノ選舉ニ依ル。

(ロ) 倉井堰

本堰モ亦鳥居川中流位ニ於テ取入ル、堰ニシテ、芋川堰取入口ノ下ヨリ左岸ニ取入レ、鳥居川引用水中最古ノモノニシテ、灌溉、飲用、雜用ニ供セラル。用水不足ノ際ハ鳥居川筋ニ於テ唯一ノ慣行タル「通シ水」ヲナスモノニシテ下流ノ引用者ヨリ下ゲ水ヲ乞フモ取拂ヲ許サザルナリ。

配水ハ番水ニシテ灌漑部落上流ヨリ倉井、赤鹽上組、川谷ノ内上流倉井ハ午後四時ヨリ翌午前四時迄(夜間)赤鹽上組、川谷ハ午前四時ヨリ午後四時迄(晝間)トス。其ノ引水方法ハ下流ヨリ人夫ヲ出シ「樋ノ止メ」ト稱シテ分水點ヨリ取入口迄ノ間ノ水路ヨリ引用スル各分水口ヲ全部閉ヂ、晝間之ヲ監視シ下流ノミ占用スルモノトス。

人夫ハ通常五人ヲ出シ、其ノ割合ハ川谷二人赤鹽三人トシ、上流位ノ倉井ハ人夫ヲ出サズ。費用ノ分賦ハ費用ヲ分水點ヲ中心ニ其ノ上流部、下流部ニ分チ、上流部ノ費用ハ全體ヲ七十トナシ、之ヲ倉井四二、赤鹽上組一七、川谷一一ニ割當下流部ノ費用ハ下流二部落ノ各自負擔トス。此等ノ割當ヲ各部落ニ於テハ、人夫ハ各戸順番ニ出役セシメ、費用ハ區費トシテ戸數割及地價割ニ依リ徵收ス。

第三節 下流堰ノ配水慣行

(イ) 今井堰

鳥居川大字川谷ニ於テ取入レ、鳥居村川谷、蟹澤、大倉小計七十町歩、豊井村上今井六十町歩計百三十町歩ヲ灌漑シ約三百八十戸ノ飲用、雑用水ヲ供ス。

配水ハ番水ニシテ「樋止メ」ニ依リ、上今井ニ付テ見レバ、平時ハ上今井ハ大倉ト上原トノ間ニア

上今井	四八・〇	外ニ樋止メ費用全部ヲ負擔ス
大倉	一一・五	
蟹澤	一八・五	
川谷	二・〇	川谷ハ水源地ナルヲ以テ賦課シ

備考 全體ヲ八十トシ上記ノ如ク割當タルナリ

各區ノ水利費出資法ハ上今井ニ付テ見レバ、地價割八・五、戸數割一・五ナリ。

用水路敷ハ鳥居村、豊井村ノ共有ニシテ、兩村長管理者トナレリ。水利事務ニ付テハ各區ニ水惣代ヲ置キ、上今井ハ水利監督一名(年俸百圓)常用工夫二名(一名年俸九十圓)ヲ常置セリ。

(ロ) 石村堰

鳥居川ノ下流位ニアリテ右岸ニ取入レ鳥居村淺野、神郷村豊野、石村一五七町四反歩ヲ灌漑シ、關係部落ノ飲用、雑用ヲ供ス。

川筋ニ於ケル取入レハ用水不足ノ際各區水惣代或ハ土木係關係川筋ノ水利惣代ニ堰切三日前ニ申出、分水ヲ依頼シ、日程ヲ定メ各區一名宛人夫ヲ備ヒ双方立會ノ上分水ヲ行フモノニシテ、分水量ハ

ル分水點迄行ヒ、渴水時ハ最上流迄行フモノニシテ、時間ハ晝間午前五時ヨリ午後七時迄ナリ。水利費ノ分賦ハ部落間ニ於テハ次ノ如ク割當ツ。

水面ヨリ土俵一俵ヲ撤去シ、期間ハ三日間ヲ例トス。之ヲ下ケ水ト稱シ通例今井堰ヲ二回下水ヲシタル後ニ芋川堰ニ上リテ下水ヲ乞フモノナリ。

石村堰内ニ入り來リタル水ハ番水ニシテ、晝ハ石村、豊野ガ隔日ニ引水シ、夜間ハ淺野ガ引水スルモノニシテ、部落内ニ入りテハ定流トナリ、番水セズ。

費用ノ負擔關係ハ淺野地内ノ維持管理ニ要スル費用ニ付キテハ三字テ之ヲ負擔シ、豊野地内ニ於テ要スル費用ニ付テハ豊野ト石村ダケテ負擔シ、石村ニ於テ要スルモノニ付テハ石村ダケテ負擔ス。各字ニ於テハ土地所有者ガ之ヲ地價割ニ依リテ負擔ス。管理者ハ鳥居、神郷兩村長ガ任ジ、各字區長ガ水惣代トナルコトハ他堰ト同様ナリ。

第三章 用水權ノ内容

第一節 用水權ノ範圍

用水權テフ用語ノ意味ハ必ズシモ明瞭ナラズ。用水權ハ古來ヨリノ用水、惡水等ノ用語ヨリ出デ、之ニ關スル權利ヲ指稱ス。故ニ用水權ヲ灌溉、排水ニ關スル權利ト解釋スル場合ハ之ヲ狹義トシ、灌溉、排水ノ外水車用、火防、飲雜用ノ利用等ヲ含メテ農事ニ關係アル水利ニ關スル權利ヲ總稱スルヲ廣義トス。之、在來農村ニ於テ水ノ利用ニ付上述ノ諸種利用ガ利用ノ主體タル農家自身ニ對シ互ヒニ

密接ナル關係ニ於テ結バレ其ノ利用ノ内容ニ從ヒテ分離シ得ザリシ事情ニ依ル。

鳥居川筋ニ於ケル用水權ノ範圍如何ヲ見ルニ上記ノ配水慣行ニ於テ述ベシ如ク鳥居川ノ流水ヲ灌溉及飲料、雜用ハ使用シ居ルコトニ於テ同一ナリ。而シテ水ノ利用、管理、費用負擔等ニ於テ灌溉、飲雜用ノ利用ニ從ヒテ、權利義務關係ヲ分ツコトナシ。

故ニ鳥居川筋ニ於テ用水權ノ範圍、内容ヲ檢討スル場合ハ廣義ノ内容ヲ意味スルモノトスルヲ適當トセン。斯クセバ、其ノ使用ハ灌溉期ハ勿論非灌溉期ニ及ブ。

第二節 用水權ノ内容並效果

用水權ガ本川ニ於ケルガ如ク多年ノ慣習ニ依リテ成立セシモノハ其ノ決定ハ極メテ困難ナリ。其ノ内容ノ檢討ニハ、引水ノ方法及慣行等ヲ調査シ實際ニ付權利者ハ如何ノ水量ニ對シテ權利ヲ有スルヤ、他ノ利用者トノ關係即チ對岸ノ權利者トノ關係、上下流ノモノトノ關係、舊來ヨリ用水權ヲ有セシモノト新ニ權利ヲ得タルモノトノ關係如何ヲ判斷シ、其ノ結果ニ依リテ内容ヲ云々セザルヲ得ズ。

先ヅ水量ニ付キ檢討セン。

鳥居村外關係九箇村ハ數百年來——天正年間既ニ堰ヲ築造セシコトハ上述ノ如シ——鳥居川ノ流水

ヲ灌溉用及飲料等ニ使用シ所謂慣行ニ依リ鳥居川ノ水利使用權ヲ有セシモノナルコトハ明カナリ。然ラバ、此使用權ハ鳥居川ノ流水全部ヲ引用スルモノナリヤ或ハ一定量ニ付特殊ノ權利ヲ有スルモノナリヤ、他ノ用途ノ使用者ト共同互讓シテ流水ヲ使用スル權利ヲ有スルモノナリヤ。用水權成立ノ基礎ハ上述ノ如ク慣行ニ依リシヲ以テ其ノ權利ノ内容モ亦「慣行ニ依リ認メラレタル範圍ノ水量」ニ對スル使用權ヲ有スルナリ。乍併、慣行ニ付キテハ精密ナル調査ヲ要スルモノニシテ、單ニ「用水取入ノ設備ガ大部分轉石ヲ堆積シ不完全ナル水路ニ依リ殆ンド自然流下ニ等シキ方法ヲ以テ引水セリ」ト云フ理由ヲ以テ「河川ノ流水全部ヲ引用スルコト不可能ナリ」トシ「專用ノ權利ナシ」ト云フヲ得ズ。農業水利ト雖モ堰堤、樋門、用排水路ノ土木工事ニ人智ヲ盡シテ之ニ備ヘ農業經濟ノ許ス限リ水ノ經濟的利用ヲ焦慮シツツアルモノニシテ、本河川ニ於テモ上記ノ用水取入ハ農村事情ニ於テ下流ノ使用權ヲ尊重スル慣行ノ結果ニシテ、或ハ年々ノ洪水ニ備フルモノトシテ、農村事情ノ然ラシムル所以ヲ知ラザル可カラズ。寧ろ、取入設備ヨリモ慣行ニ於テ用水不足時ニ土俵、葎等ヲ以テ一滴タリトモ餘サザル可ク堰止メ下流ノ分水要求ニ對シテモ分ツ義務ヲ有セザル慣行アランカ蓋シソハ專用權タル内容ヲ有スルモノト云ハザル可カラズ。

更ニ用水ノ過不足ノ測定トシテ實測水量ニ依リ其ノ所要水量ト流量トノ比較ニ依リ權利ノ内容ヲ知ラントスレドモ過不足ハ單ナル用水路ニ入り來ル水量ト或基礎數ヨリ算定セル所要水量トノミニテ判定スルコトハ此亦農村事情ヲ辨ヘザルコト甚シキモノニシテ、我國水田ノ場合ハ掛ケ流シ或ハ落水等ノ關係、損失量、病蟲害等諸種ノ事情ノ實地調査無クンバ之ヲ強要スルヲ得ズ。扱テ鳥居川ノ慣行ニ付テ見ン。各堰トモ引水設備ハ轉石ヲ以テシタル堰ニシテ、用水ヲ必要ニ應ジ土俵、葎等ヲ以テ堰止メ得ルモノナリ。斯ル堰ノ構造ニテハ常時河水ノ全部ヲ引水スルコト不可能ナルヲ以テ、水量ニ對スル關係ハ用水不足時ニ於テ土俵、葎等ニ依リ河水ヲ堰止ムル場合河水ノ全部ヲ引用スルヤ否ヤノ問題ヲ生ズ。

而ルニ本川ニ於テハ番水ト稱シ時間的ニ一定率ノ分水ヲナス慣行ナク、用水不足時ニ於テハ倉井堰ヲ除キ總テ下流側ヨリノ堰落ヲ默認シ、下流ノ要求ニ依リ分水スルコトニナレリ。從ヒテ此默認ガ單ナル上流側ノ好意ニ依ルモノナリヤ。下流側ニ當然權利アルモノナリヤニ依リ上流側ノ引用權ノ内容ニ差異ヲ生ズ。

之ニ付テハ上、下流間ニ何等分水ニ關シ協約無キヲ以テ其ノ權利義務關係ヲ判斷スルニ苦シムト雖モ、上流側ニ於テ自然地理的ニ有利ナル地位ニアリ、下流側ニ時折分水ヲ許スモ其ノ引水ニサシタル支障無キ事情ニアリ、斯ル自然地理的關係ガ基トナリテ下流側ニ分水ヲ認ムル慣行ヲ生ゼシモノニシテ、今日上流堰ガ全部流水ヲ堰止メテ落水ヲ許サズトスルモ事實上ハ可能ナリ。サリ乍ラ、川筋ニ番水慣行無ク、堰落ヲ認ムル慣行ヲ有スル水利事情ニ鑑ムレバ、條理トシテハ各堰互讓シテ引水スル内

容ノ權利ト見ルヲ妥當トセンカ。コレ堰ノ構造ニ依ル權利内容ニ非ズシテ全ク分水慣行ニ依ル權利内容ナリトス。更ニ、倉井堰ニ於ケル「通シ水」ノ慣行モ、之ガ堰落シヲ許サズ倉井堰ノ上流ヨリ流ル、用水ニ付倉井堰ノ一定量ヲ除ケル部分ニ付テノミ下流ニ落シ一定量ニ對シ特殊ノ權利ヲ有スルモノノ如キモ、倉井堰ノ引水ニ付既ニ上流ヨリ引水ヲ必要トシ、之ニ關シ一定ノ權利義務無キヲ以テ他ノ堰ト同ジク、其ノ引水方法、並慣行ニ基キ一定量ノ引水ニ付特殊ノ權利ヲ有スト斷定シ得ズ。

測量ニ依ル水量決定ニ關シテハ、精細ナル調査無クンバ、「鳥居川」ノ實測水量ハ用水取入口附近ニ於テ九十七立方尺餘アリ、鳥居村外九箇村ノ各用水ハ七十四立方尺アラバ支障ナキヲ以テ全部ニ付權利ヲ主張シ得ズ」ト云フ渴水時ニ於テ下ケ水、通シ水、貫水等ノ方法ヲ以テ其ノ分配ニ苦心シ下流取入口ノ如キハ一滴タリトモ餘サザルニ尙早害ヲ受クル用水ノ地理的事情ヲ説明シ盡スモノト云フヲ得ズ。又斯ル用水不足ヲ用水ノ分配方法ノ不統一ナル社會的事情ニ歸セシムル無理ヲモ生ズルナリ。次ニ他ノ利用者ニ對スル關係如何ヲ見ン。

鳥居川筋ノ引水ハ河水全部ニ對スル權利ニ非ザレ共、一定量ニ對シ特殊ノ權利ニ依ルニモ非ズ。慣行ニ依ル範圍ニ於ケル權利ヲ有スルコトハ前述ノ如シ——斯クセバ、一定率ヲ定メズ上流ヨリ流レ來ル水ヲ互讓シテ使用スルモノナルヲ以テ其ノ河川事情全般ノ影響ヲ受クルコト大ニシテ其ノ權利ハ水源ニ迄及ブヲ條理トス。即チ權利ノ保全ハ川筋全體ニ其ノ利害關係ヲ負擔スルモノニシテ、斯ル權利

内容ナル以上假令當時全川ノ流量ニ於テ用水量ニ對シ充分ナリトスルモ配水等ノ水利關係ニ利害關係ヲ有スルコト大ナリ。故ニ、斯ル權利内容ト斷定セバ水源ノ問題ハ當然下流側ノ關心タラシメザレバ不可ナリトス。

依是觀之、下流ヲ無視シテ水源ニ一定ノ制限ヲ附スルコトハ一定量ニ對シ特殊ノ權利ニ依ル引水ヲナスモノニ非ル場合ニ於テモ尙不適當ノ處置タリ。

第四章 用水權ノ主體

第一節 主體ヲ決定スベキ標準

用水權ハ土地所有者ニ屬スルヤ又ハ部落住民ノ共有ニ屬スルヤ或ハ村ナル公共團體ニ屬スルヤ。

用水權ノ主體ヲ認識スヘキ標準ハ用水路ノ管理權ノ歸屬又ハ費用ヲ主擔スル者ノ區別或ハ用水設備ノ所屬等ニ依リテ決セントスルモノナキニ非ズ。

乍併、「用水路敷ノ所有權ノ所屬ハ用水權ノ主體ヲ定ムルニ關係無シ」(大正二年十二月二十五日行政裁判所判決)

「水路ノ維持修繕等ノ費用ハ部落團體ニ於テ之ヲ支辨シ村長ニ於テ管理スルモノトスルモ其ノ流水ノ使用權ハ直接ニ水ヲ使用スル個人ニ屬ス」(大正七年七月松山地方裁判所判決)

等ノ判決例ニ於テ示サル、如ク必ズシモ水路敷ノ歸屬、其ノ管理者ノ如何經費主擔ノ如何ガ直チニ水利使用ノ權利ノ主體ヲ決定スルモノニ非ズ、其等ノ主體タルモノモ亦必ズシモ水利使用ノ權利主體タラズ。

用水權ノ權利ノ態様カーニ當該水流ノ使用ニ關スル慣行如何ニ依リ定マルモノナル以上ハ、其ノ主體ノ決定モ亦水流ノ使用ニ付慣行ハ何者ヲ自己ノ責任ニ於テ處置スルモノト爲スヤヲ審究セザレバ斷定シ得ズ。上記ノ諸事項ハ用水權ノ主體ヲ認定スルニ當リ考慮ニ入ル可キモノニシテ、決定ノ標準ハ利用ノ責任ノ歸屬ニ存スルモノトス。

用水權ノ主體ヲ決定スルニ先立チ考慮スベキニ、三事項ニ付記ス。

第二節 用水權ト水路敷トノ關係

各堰ノ水路ハ從前其ノ所屬不明ナリシモ、大正七、八年ノ頃國有地拂下ヲ行ヒ整理セシ折村有地トナシ各村地域ニ存スル部分ヲ各其ノ村ノ所有トセリ。故ニ同一水路ニテ三箇村ニ跨レル場合ハ各村地域ヲ流ル、部分ニ付當該村ガ其ノ所有權ヲ有シ、全體ニ付テハ三箇村共有ノ形式ヲトルナリ。例ヘバ小玉堰ニ於テ、富士里村ヲ流ル、部分ハ富士里村ノ所有、高岡村ヲ流ル、部分ハ高岡村ノ所有、中郷村ヲ流ル、部分ハ中郷村ノ所有トナリ、小玉堰ノ水路敷ハ三箇村ノ共有トセリ。

他ノ諸堰モ皆同様ナリ。

故ニ水路敷ノ管理ハ各村ガ形式上之ヲ行フコトニナレルモ、水路ニ流ル、用水使用ノ權利ノ主體トハ後述ノ如ク別ニシテ、今井堰ニ於テ其ノ水路敷ガ豊井村、鳥居村ノ二箇村ニ跨リ、兩村ノ共有ニ屬スルモ、特ニ兩村ニ於テ契約ヲ爲シ「水路敷ハ各村ニ拂下グルモ用水ニ關シテハ村勝手ニ之ヲ處置セザルコト」トナシ用水ニ關スル權利義務ヲ別ニ定メタルモノスラアリ。

第三節 用水權ト耕地トノ關係

用水權ハ水ヲ灌溉及飲雜用ニ利用スル權利ナルヲ以テ水掛リノ土地所有者及關係村ノ住民ヲ其ノ對象トス。水田ニ引水スル權利關係ハ耕地ノ所有權ニ伴ヒテ移轉シ耕地ヲ離レテ水ノミ支配スルコト無ク、飲雜用ニ對スル權利關係ハ村ナル地域團體ノ現在住民タル以上之ヲ使用スルノ權利アリ、其ノ資格ヲ問ハズ。關係村落ノ地域内ニ土地ヲ所有セルモ他部落ニ生活ヲ營メルモノハコノ飲料ノ權利無シ。

サスレバ、用水權ニ對シ小作人ノ地位ハ該村落ニ居住セル小作人ニアリテハ飲料ノ使用權ヲ有シ、他部落ニ生活シ該村落ニアル耕地ヲ小作セルモノニアリテハ飲料ニ使用スル權利ヲ有セズ。灌溉用水ニ關シテハ小作人ハ直接權利ノ對象トナラズシテ土地所有權ノ賃貸借ノ效果トシテ斯ル使用ヲナシ得

ルモノナリ。

第四節 用水權ト費用負擔トノ關係

用水組合員タル持分ト用水權トノ關係ヲ見ルニ、各堰トモ用水費ハ區ノ協議費ノ中ニ含メ他ノ諸費用ト合一シテ徵收シ、之ヲ地價割ヲ主トシ、戸數割、平均割ヲ加味シテ關係土地所有者及部落住民ヨリ徵收スルモノアリ、或ハ引水ノ費用ハ地價割ニヨリ土地所有者ノミニ負擔セシメ、引水ノ賦役ハ部落住民ニ平等賦役シ、其ノ材料モ戸數割ニスルモノアリ。

何レニ於テモ費用負擔關係ニ於テ引水費用ヲ土地所有者ノミニ負擔セシムルコトナク、何等カノ形式、割合ニ於テ部落住民モ之ヲ負擔ス。

サリ乍ラ一般ニ負擔割合ニ付テ灌溉用、飲雜用ノ兩權利ヲ明分スルニ足ル根據ヲ缺ク。

引水ニ對スル權利ハ部落住民、土地所有者ニ於テ變り無ク、兩者ニ何等カノ區別アリトセンカツハ内部ノ持分關係ノ差トスベシ。サリ乍ラ、用水組合ニ於テ費用ノ負擔ノ差異ハ直チニ用水權ノ大小ヲ來スモノニ非ズ、費用ヲ多ク負擔スルモノガ其ノ割ニ引水上ノ特權ヲ有スル要因無ク、用水權ニ付テハ各人同様ナリト見ルヲ得ベシ。

更ニ、用水路ノ修理ノ費用ニ付テハ之ニ關シテモ關係土地所有者及部落住民ガ負擔スルヲ例トシ、

村費ヲ以テシ或ハ其ノ補助ヲ與フルコト無シ。

小作人ノ負擔ニ對スル關係ハ、小作人ハ引水ノ賦役ニ出テ、用水費ニ對シ戸數割ノ負擔ヲ爲スモ、地價割ノ引水費ヲ負擔セズ、飲雜用ニ使用スル住民ノ負擔ト同一ナリ。

次ニ新ニ用水ヲ必要トセル者ガ申合組合ニ加入スル場合如何ヲ見ルニ、開墾ヲ制限セル例無ク、又加入料ヲ採ル例無ク、自由ニ引水シ得ルヲ一般トス。

第五節 用水權ノ確認

鳥居川ハ大正十一年五月一日ヨリ河川法準用セラレシヲ以テ、用水權ハ河川法第十七條ニ基キ管理廳タル縣知事ノ特許ヲ受クルヲ要スルモ、施行當時現存セルモノハ河川法施行規程第十一條第一項ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト見做サル、ナリ。サリ乍ラ、同施行規程第十一條第一項但書ニ基キ、長野縣ニ於テハ大正十一年五月十九日附縣令第五十三號ニ依リ之ガ許可ヲ受ク可キコトヲ命ゼシニ依リ指定ノ期限内ニ許可ヲ受ケサレバ用水權ハ消滅スルコトニナルナリ。

而ルニ、本川上記ノ舊慣ニ依リ成立セシ用水權ニ付テハ施行當時關係者願出ザリシヲ以テ縣當局ハ權利無キモノト認メタリ。

次ニ各用水路ノ問題ニ付述ベン。

各堰ハ普通水利組合ヲ設立スルコト無ク、町村制ニ依ル組合ニモ非ズ、水利ニ關スル申合組合タリ。唯用水路敷ガ前述ノ如ク村有ナルヲ以テ用水ノ管理者ヲ名目上村長トセルニ過ギズ。水利事務ハ之ヲ地元部落ノ關係人ノ手ニ委ネ、其ノ費用モ亦總テ關係人ノ負擔タルコトハ前述ノ如クニシテ町村制第九十條一項、二項等ニ依リ之ヲ管理スルモノニ非ルナリ。即チ、通常水利事務ハ水利惣代——水路係ヲ設置セルモノハ水路係——ニ委任シ居レルモ主要水利問題ハ關係人全部ノ承認ヲ經ルコトヲ要シ、協議會ヲ開催シテ處理スルナリ。

各用水ノ維持管理ニ關シテハ別ニ配水規約其ノ他ノ申合セ等ハ無ク全ク從來ノ仕來リヲ其儘不文律トシテ踏襲セルニ過ギズ、昨今水利問題ノ紛争繁クナルニ鑑ミ、二、三組合ニ於テ各用水ノ統制問題ヲ生ジ、水利ノ懇談會ナルモノヲ設ケ之ヲ統制セントスルモノアリ。例ヘバ倉井、芋川、普光寺三堰ノ設ケタル「用水懇談會」ノ如シ。之ハ大正五年設ケラレタルモノニシテ、年一回以上關係者會合シ用水ノ圓滿ヲ期セントスルモノナリ。今參考ノ爲大正十一年十二月五日、昭和四年四月十三日ノ懇談會ニ於ケル協定事項ヲ掲グレバ次ノ如シ。

一、大正十年中施行セル芋川堰墜道工費ニ對シ普光寺及倉井兩堰關係部落ハ其ノ工費ノ一部ヲ負擔スル問題ニ付村内旱魃ノ際ハ上堰ハ下堰ニ上流ハ未流ニ出來ルダケ用水ヲ融通シ以テ灌漑ノ便ヲ圖ルコト(以上大正十一年十二月ノ協定)

一、信濃電氣會社戸隠貯水池ノ下ゲ水ハ各用水ノ取入個數ニ按分シテ之ヲ分配スルコト
一、同日萬一旱害甚シキ場合ハ實地調査ノ上右ノ分配法ニ依ラズ協議ノ上旱害著シキ用水へ補給スルコト(以上昭和四年四月ノ協定)

尙鳥居川ノ各用水堰ガ電氣會社トノ關係ヲマツムル時ハ各村ガ之ニ當ルモ、電氣會社ガ各村ニ寄附金——補償金ト見ルヲ可トセン——ヲ與フル場合ハ村ハ之ヲ水利關係ノ組合ニ與フルヲ例トセリ。

第六節 用水權ノ主體

用水權ノ主體ヲ決定スヘキ各種ノ慣行ハ大略上述ノ如シ。之ニ依リ主體ノ歸屬ノ要點ヲ記セバ

先ヅ、各村内ニ引入ル、用水路ノ敷地ノ所有權ハ村ニアリ、其ノ管理ヨリシテ村長ガ用水ノ管理者タル名目ヲ有スルモ、現ニ水ヲ使用スル者ハ村民各個人、關係水田土地所有者個人ニシテ、公共團體トシテノ各村ガ自ラ之ヲ村ノ公用ニ供セルモノニ非ズ、而モ水利事務ノ處理ニ關シ管理者自ラ自己ノ責任ニ於テ處置スル規約ナク又實際ニ於テ用水ノ維持管理ハ水利惣代或ハ特ニ常置セル水利係ニ於テ行ヒ、主要ナル水利問題ハ關係村民並土地所有者全體ノ同意ヲ必要トセリ。即チ主要ナル水利問題ノ契約ニ於テ「水利權者一同ノ委任狀ヲ所持セル惣代ニ於テ署名調印ノ上云々ト條件ヲ附シ居レリ。費用負擔ニ關シテモ、村費ニテ之ヲ維持管理スルコト無ク、關係村民及土地所有者(村民ト云ヘル

ハ飲用等ニ付テ云ヒ土地所有者ト云ヘルハ灌漑用ニ付キ云フノ地價割或ハ戸數割ニ依リ負擔シ或ハ
全員賦役ニ出ヅルナリ。又修理ノ材料モ土地所有者ノ直接負擔トシ、水引キニハ關係者ガ直接上流ニ
向ヒテ引水シ來ルナリ。

而シテ町村ニ於テ特ニ水路ノ浚渫其ノ他諸般ノ修理ヲナシ、自ラ之ヲ管理シテ其ノ住民ニ流水使用
ノ便宜ヲ與ヘ來リタルコト無シ。

六、青森縣津輕郡平川筋用水權ニ關スル調査

ハ飲用等ニ付テ云ヒ土地所有者ト云ヘルハ灌漑用ニ付キ云フノ地價割或ハ戸數割ニ依リ負擔シ或ハ
全員賦役ニ出ヅルナリ。又修理ノ材料モ土地所有者ノ直接負擔トシ、水引キニハ關係者ガ直接上流ニ
向ヒテ引水シ來ルナリ。

而シテ町村ニ於テ特ニ水路ノ浚渫其ノ他諸般ノ修理ヲナシ、自ラ之ヲ管理シテ其ノ住民ニ流水使用
ノ便宜ヲ與ヘ來リタルコト無シ。

六、青森縣津輕郡平川筋用水權ニ關スル調査

目次

- 一、用水源……………一七九
- 二、五所川原堰概況……………一七九
- 三、五所川原堰ノ沿革……………一八〇
- 四、足水堰ノ概況……………一八一
- 五、足水堰ノ沿革……………一八二
- 六、分水慣行……………一八四
- 七、問題ノ發生……………一八九
- 八、兩堰ノ主張要領……………一九二
- 九、問題ノ經過……………一九九

一、用水源

五所川原堰並枝川足水堰ノ用水源ハ岩木川支流「平川」ナリ。
 淺瀬石川ノ平川ニ注グ合流點ノ下、南津輕郡藤崎町地先ニ於テ五所川原堰ヲ上ニ足水堰兩水門相並
 ビ、兩堰共同ノ長サ三十間幅五間ノ石造固定堰堤ニ依リ引水セルモノナリ。
 水門ハ何レモコンクリート築造ニテ幅二間半餘、該水門敷高ガ本水利交渉問題ノ原因ヲナセルモノ
 ナリ。

二、五所川原堰概況

五所川原堰ハ上記藤崎町地内取入水門ヨリ分水口迄長サ一萬八百二十四間（五里二十四間）ノ水路
 ニヨリ導水シ來リ、北津輕郡五所川原町、榮村、中川村、三好村、松島村一圓ノ耕地一、一三〇町餘
 フ灌溉スルモノナリ。
 直接灌溉反別六四四町八反、間接灌溉反別四八五町四反ニシテ、用水費ハ反當費用ニ於テ直接反別
 ハ一・一六圓（反別割〇・八八圓）間接反別ハ〇・三二圓（反別割〇・一七圓）ナリ。費用ハ地主負擔、
 賦役ハ小作人負擔ナリ。本堰ハ關係耕地ヲ以テ五所川原堰普通水利組合ヲ組織シ、組合員ハ一、一三

目次

一、用水源……………一七九

二、五所川原堰概況……………一七九

三、五所川原堰ノ沿革……………一八〇

四、足水堰ノ概況……………一八一

五、足水堰ノ沿革……………一八二

六、分水慣行……………一八四

七、問題ノ發生……………一八九

八、兩堰ノ主張要領……………一九二

九、問題ノ經過……………一九九

一、用水源

五所川原堰並枝川足水堰ノ用水源ハ岩木川支流「平川」ナリ。

淺瀬石川ノ平川ニ注グ合流點ノ下、南津輕郡藤崎町地先ニ於テ五所川原堰ヲ上ニ足水堰兩水門相並ビ、兩堰共同ノ長サ三十間幅五間ノ石造固定堰堤ニ依リ引水セルモノナリ。

水門ハ何レモコンクリート築造ニテ幅二間半餘、該水門敷高ガ本水利交渉問題ノ原因ヲナセルモノナリ。

一、五所川原堰概況

五所川原堰ハ上記藤崎町地内取入水門ヨリ分水口迄長サ一萬八百二十四間（五里二十四間）ノ水路ニヨリ導水シ來リ、北津輕郡五所川原町、榮村、中川村、三好村、松島村一圓ノ耕地一、一三〇町餘ヲ灌漑スルモノナリ。

直接灌漑反別六四四町八反、間接灌漑反別四八五町四反ニシテ、用水費ハ反當費用ニ於テ直接反別ハ一・一六圓（反別割〇・八八圓）間接反別ハ〇・三二圓（反別割〇・一七圓）ナリ。費用ハ地主負擔、賦役ハ小作人負擔ナリ。本堰ハ關係耕地ヲ以テ五所川原堰普通水利組合ヲ組織シ、組合員ハ一、一三

一名ナリ。區域別耕作反別ハ次ノ如シ。

區域内概況

町村別	組合區域耕作反別	組合員	區域耕作戸數	同上人口	附記
五所川原町	一九一・三六一八	九八人	約 二〇〇戸	約 一、二〇〇名	
榮村	一四二・九〇〇五	一八六	一七〇	一、一〇〇	
中川村	三八一・九二〇八	三五一	三五〇	二、一五〇	
三好村	三八八・七〇〇二	四五七	三八五	二、一〇〇	
松島村	二五・四三二三	三九	三五	二〇〇	
計	一、一三〇・三二二六	一、一三一	一、一四〇	六、七五〇	

三、五所川原堰ノ沿革

青森縣史ニ記載セル工藤家記ニ據レバ、五所川原堰ノ沿革ハ次ノ如シ。

「元祿四年九月十六日廣須組五所川原溝筋之義貞亭ノ頃ヨリ數度願出候得共被仰付無之候處今度武

田源左衛門見分ノ上願之通り被仰付依之十月初旬ヨリ堀初メ來秋ハ水上ニテ堀通シ候筈此ノ見立ハ元來猶淵村浪人百性佐藤平右衛門數年心カケ申立候何レモ大切ト稱シ申候依之後世ニ至リ數千町歩ノ田地開發ニ相成申候」

尙、同縣史記載津輕信政公事蹟ニ據レバ次ノ如シ。

「元祿四年（紀元二三四八）廣須組五所川原溝筋堀通シ被仰付五所川原溝筋ノ儀御聞届十月ヨリ堀初メ翌秋水上マデ堀通シノ筈ニテ其ノ間數左ノ通り

藤崎村地内大口ヨリ五所川原村分水口迄長サ一萬八百二十四間（五里二十四間）ナリ幅平均二間半位、深平均二間位持土上堰三千間（此分明細書ナシ現形ニ付テ記スノミ持土堰トハ土地凹ノ處ヘ土ヲ盛リテ修理セルヲ云フ）」

此等ノ記録ニ依レバ、平川ヨリ河水ヲ引用シテ開田スル水利事業ハ古クヨリ屢々企テラ、シガ、津輕四代ノ藩主信政公時代寛文年間（紀元二三二一）開墾事業大ニ進ミタルト共ニ元祿ノ年ニ現在ノ堰筋ガ開鑿セラレシモノト見ル可シ。其後卑濕荒蕪ノ地ヲ開發セラレ、所謂五所川原新田ト稱セラル。

四、足水堰ノ概況

足水堰ハ五所川原堰ノ下ヨリ隣合セニテ平川ノ水ヲ引水シ、南津輕郡藤崎町、畑岡村一圓ノ耕地千

餘町歩ヲ灌漑スルモノナリ。

足水堰ハ元來其ノ名ノ如ク足^{ハ、}水^{ハ、}ノ意ニシテ南津輕郡藤崎町地内ニ於テ平川ト合スル淺瀬石川ヲ同郡光田寺村大字土矢倉村地内ニテ留切リ引水スル枝川堰ノ不足水ヲ補フ可ク築造セラレシモノナリ。

枝川堰ハ淺瀬石川ノ用水堰中最下流ノ用水堰ニシテ上流耕地ノ捨水ノ流水スルモノニ依リテ給水セラレ直接淺瀬石川ノ水ヲ引入ル、コトナク、只石礫ヲ積ミテ流身ヲ分チ水路ニ導キ自然ニ流入セシムルノミニシテ直接灌漑スル反別ハ百町餘ニ過ギズ。

從ヒテ、枝川足水堰關係耕地ノ大部分ハ主トシテ足水堰ノ引水ニヨリ灌漑セラル、モノニシテ、枝川、足水堰關係耕地ハ合一シテ普通水利組合ヲ組織セリ。
反當費用ハ約一・七〇圓ニシテ、五所川原堰ノ一・一六圓ニ比シ稍高シ。

五、足水堰ノ沿革

足水堰ハ上記ノ如ク枝川堰ノ不足水ヲ補フ可ク開鑿セラレシモノニシテ、五所川原堰ヨリ百餘年後ノ寶曆年間ニ水量豊富ナリシ同堰ヨリ貫水トシテ堰下ヘ口付ケセシモノナリ。
當時五所川原堰ハ同一堰根留切一ヶ所ニテ兩堰使用スルハ差支ヘ無キモ、唯從來ノ留方ニテハ不充

分ナルヲ以テ堰根留切ヲ高留ニスルコトヲ條件トシ、其ノ修理ニ付第一回ノ破損ハ足水堰ノ全負擔トシ、第二回ノ破損ハ兩堰反別割ニ負擔、第三回ハ足水堰ノ負擔トスルコトニシテ同意セシモノナリ。

同意セシ際ノ覺書ハ次ノ如シ。

足水堰穿通初メ及舊慣ノ基源

覺

赤田組用水枝川堰年々水不足ニ付此度五所原堰ノ下ヘ足水新堰通シ大口留切堰根一ヶ所ニテ兩堰相用工差障リ有無ノ譯申出テ候様御詮儀ニ付左ニ申上ゲ奉リ候

一、五所川原堰大口水門ノ下大川ヘ枝川足水新堰穿ツ堰根留切一ヶ所ニテ兩堰相用工候儀差障リノ儀相見ヘ申サズ候尤モ新堰水法善惡ノ儀ニ付私共相考ヘ受ケ申候然共此度足水新堰ノ儀ニ付上村々ノ用水方ノ儀ニ御座候(中略)「二字不明」留方ニテハ水法不可然ト存ジ奉リ候左候ヘバ高留ニ仕ル可ク候彌々高留ニ相成候儀ニ御座候ヘバ析々ノ出水ニテ押破リ申可ク候其ノ時々五所川原堰水下共ニ諸色人夫等差出シ候テハ遠方ノ水下百性至ツテ難儀仕リ候間初手留ノ儀ニハ及バズ候上二度目迄デハ兩堰總水下反別割合ニテ諸色人夫差出可ク候三度モ破損御座候テハ水下ノ者共至ツテ遠方難儀ニ御座候間三度目ヨリハ五所川原堰水下ヘ諸色人夫留抗共ニ割合差除キ申シ御定メ

ニ被仰付様彌々右ノ通り被仰付候へバ差障リノ儀相見エ申サズ候御詮議ニ付此段申上ゲ奉リ候

以 上

寶曆八寅六月

平山次五左衛門

飛鳥權十郎

柏澤重次郎

安田 次郎兵衛様
原 庄左衛門様

六、分水慣行

分水ニ付テハ其後五所川原堰ニ支障ヲ生ジ、此支障ヲ除却スルタメニ次ノ如キ證文ヲ取交シ、之ガ今後ノ分水慣行ノ基準トナレリ。

寶曆十一年ノ證文ニ依レバ

「五所川原堰へ差障リ相成候儀少シナリトモ仕リ間敷候若シ末々迄差障リノ儀少シタリ共御座候ハバ何時ナリ共銘々留切りナサル可ク候」トアリ、五所川原堰ニ於テ絶對的優先權ヲ留保セリ。

サリ乍ラ、五所川原堰ハ漸次開田事業進ミ、同堰ノ支配反別ハ増加シ、足水堰モ亦之ト同様其ノ支配反別ヲ増加シ、分水慣行ノ背景ヲナセル引水事情ニ相當變化ヲ來セリ。

足水堰ニ付テハ更ニ淺瀬石川筋ノ各用水堰ニ於テ其ノ用水量ニ對シ充分ナル引用ヲ圖ルコトヲ得ズ上流ニ於テ擅ニ引水スルニ至リタル結果、最下流堰タル枝川堰ノ引水ガ益々不足セリ、從ヒテ枝川足水堰ノ用水源ハ主トシテ水量比較的豊富ナル平川ヨリ引水セル足水堰ニ仰グ事情トナレリ。

却説、同一個所ヨリ引水スル二堰在リテ、同一水勢、同一水門幅ノ條件ノ下ニ於テハ其ノ引水量ハ水門底ノ高低ニ依リテ異なる。

水門底ノ高低ニ付テハ從來屢々爭ヒヲ生ジ、明治四年ノ記録ニ依レバ、五所川原堰ガ當方ノ引水ハ勝手次第ニ取立ツルモ可ナリトシ同堰水門付根板一板ヲ取ハヅシタルヲ、足水堰ハ文久三年五所川原堰ニテ水門底ヲ一尺五寸低メタルヲ付根板一ツヅツ附置キテ前々通り引水スルコトヲ約セリトシ、取ハヅシヲ不可トセリ。五所川原堰筋ノ大勢ハ「銘々留切ノ慣行」ヲ實行スルノミト之ヲ水下ノ大庄屋ニ願出タリト謂フ。

分水ニ對スル五所川原堰ノ絶對的優先權ニ付テハ爭ヒアルモ、堰留ノ維持ニ對スル同堰ノ優先權ハ依然實行セラレ居レリ。

大正十二年度ニ於テ大川筋ノ堰留ヲ石造へ改造ニ際シ其ノ費用ノ出支割合ハ舊慣ニ依リテ年來執行

シ來レル慣行ニ依リ、即チ、現品垂簀ハ如何程使用スルモ五所川堰負擔、現品空俵ハ如何程使用スルモ枝川足水兩堰負擔、之ニ要スル人夫ハ五所川原堰四、足水堰六ノ割合ニシ、一、二番留切ヲ施行シ其ノ他ノ留切費用ハ足水堰ノミノ負擔トスル慣行ヲ基準トセリ。之ニ依レバ金額ニ換算シ各十ヶ年ノ平均ニ於テ、五所川原堰二（七、八七四圓）足水堰八（三二、四六四圓）ナリキ。

今日、石造堰堤ニ於テ土俵留ヲ施行シ居ル箇所ハ上記出支割合ニ據レリ。

寶曆十一年ノ分水慣行ノ證文竝ニ明治四年ノ五所川原堰水下ノ慣行履行ノ要求書ハ次ノ如シ。

足水堰ヨリ提出セル御沙汰書付證文

舊記 寫

枝川足水堰去ル寅年五所川原堰水下衆中へ御相談仕リ候處御同心成被下殊ニ足水堰成就仕リ候ハ、大川留切リモ一ヶ所ニ成シ下ル可キ候由御相談相究メ候ニ付當年迄テ新堰穿通シ成就仕リ候テ五所川原堰下大川へ堰口付ケ申シ候是レニ依ツテ前書御相談成被下候通リ大川留切ノ儀ハ此ノ末一ヶ所ニテ用水相用ヒ被下候筈尤モ足水堰穿通シノ儀御相談仕リ候通リ春一ト留ヨリ二度目留迄テハ兩堰出合ヘニテ留切申可ク候其後押破レ候ハ、拙者共水下ヨリ小柵立諸色差出シ其ノ時々繕へ留切仕ル可ク候其ノ外共何儀ニテモ毛頭五所川原堰へ差障リ相成候儀少シナリ共仕リマジク候若シ末々迄テ差障リノ儀少シタリ共御座候ハ、何時ナリ共銘々留切リナルル可ク候右ノ儀ハ枝川水下百姓作人願

ヒニ付拙者共等ヨリ證文差出シ申候間何時ニテモ差障リノ儀仕リ候ハ、銘々留切ナサル可ク候其ノ時一言ノ子細不申候後日ノ爲證文如件

寶曆十一年辛巳年四月二十五日

- 懸落林村庄屋 甚五郎
- 大性村庄屋 長四郎
- 菖蒲川村庄屋 彌五左衛門
- 鶴泊村庄屋 林兵衛
- 鶴田村庄屋 與藏
- 強卷村庄屋 太左衛門
- 大卷村庄屋 藤四郎
- 境村庄屋 甚右衛門
- 胡桃館村庄屋 七郎右衛門
- 中野村庄屋 四郎左衛門
- 山通村庄屋 久左衛門

湊村庄屋 次五左衛門殿
五所川原堰水下庄屋衆中

前書ノ通り吟味ノ上承リ届ケ候也

即日

安田 次郎兵衛
原 庄左衛門

(舊慣持續證明及水門ニ關スル舊記)

舊 記 寫

五所川原堰ノ儀ハ元祿年中藤崎村領大川留切ノ上穿通シ仰付其ノ節水下田方用水行足有難キ仕合ニ存奉リ候然ル處寶曆八寅年枝川足水堰穿通シ被仰付大川留切根留一ヶ所ニテ兩堰相用ヘ候様被仰付五所川原堰大口下ヘ足水堰口付ケ被仰付候處其ノ後五所川原堰流水下用水不足難澁仕リ候尤モ其ノ節足水堰ヨリ末々マデ五所川原堰差障リノ儀御座候節ハ何時ナリ共銘々留切リ仕リ候テモ苦シカラザル旨證文取置キ申シ候即チ寫書二本差上ゲ候然ル處此度足水堰ヨリ申出デニハ去ル文久三子年五所川原堰大口水門新規取建ノ節前々水門ヨリ一尺五寸通り低ク埋立テ候ニ付根板一枚ヅ、附置キ重ネテ普譜ノ節ハ前々ノ通り据置キ候筈約定有之旨申出デニ御座候得共夫ハ當水下ニテハ一向覺御座無ク候尙又兩堰共水門取建テ高低ハ以前ヨリ常盤御座無ク候ヘバ勝手次第ニ取建テ候テモ宜敷候筈尤モ滿水ノ節ハ根板卸置キ候得共此ノ節ハ御存ジノ通り田方渴水ノ時節根板ハ申スニ及バズ以前取究メノ通り銘留切ニ仕リ可キ旨百性共願出ニ御座候得共私共ニテ之マデ申論シ置キ候得共實ニ此節

ニ到リ過分子田出來申論シ方御座無ク候間百性共願ヒノ通り銘々留切リニ仰付ラレ度此段宜敷御沙汰願奉リ上ゲ候

以 上

明治四年

大 庄 屋 御中

五所川原堰下 村々 庄 屋

七、問題ノ發生

大正十五年從來ノ木造水門ヲコンクリート水門ニ改築セルニ問題ヲ發セリ。上述ノ如ク兩堰ハ各千町餘ノ灌溉反別ヲ擁シ、何レモ、平川ノ水ヲ主用水源トシ、而モ兩堰口ヲ並ベテ引水セルヲ以テ引水量ノ多少ハ一ツニ水勢、水門幅、水門敷高ノ如何ニ係ハル。水勢ヲ自然的條件トシテ之ヲ人爲的ニ如何トモスベカラザルモノトセバ、水門幅、水門敷高ノ如何ガ引水量ヲ左右ス。然ルニ、水門幅ハ兩堰トモ同一ナル故ニ兩堰ノ分水關係ハ水門敷高ノ高低ニ係ハル。

却説、大正十五年兩堰期ヲ一ニシテ改築ヲ企テ、各別ニ縣ノ認可ヲ得テ在來ノ木造水幅ヲ破壊シ之ヲコンクリート水門ニ作りシニ、工事竣成後足水堰ノ水門底ヨリ五所川原堰ノ水門底ガ相對的ニ高ク

出來上リ居ルコトヲ知リタリ。當時ハ用水不足ノ適確ナル證左ヲ得ザリシヲ以テ二、三年ヲ過セシニ、偶々昭和三年旱魃ニ遭遇シ測量ノ結果八寸五分ノ高キヲ確メタリ。依ツテ昭和三年九月「水門底引下ゲノ件許可稟請」ヲナセシニ容易ニ許サレザリシヲ以テ、昭和四年五月終ニ五所川原堰ハ自己ノ定盤ヲ七寸堀下ゲタリ。之ニ對シ、縣ハ破損以前ノ定盤高ヲ二寸引下ゲ破損個所ノ復舊工事ヲ行フコトニ調停セシニ、五所川原堰組合ハ之ハ當堰ノ優先權ヲ認メザルモノトシテ應ゼザリキ。

同年七月枝川足水堰ハ之ニ對シ多數大舉シテ五所川原堰ノ破壊セシ定盤ヲ元通りノ高サ迄板ヲ挿入セントシ、五所川原堰モ亦之ヲ阻止セント大舉現場附近ニ押シ寄セ集團爭議ヲ發生セリ。

本爭議ハ五所川原堰普通水利組合對枝川足水堰關係者數六百名ノ分水ニ關スル集團爭議ナリ。縣ノ提示セル協定案竝ニ五所川原堰組合會答申ハ次ノ如シ。

水第十一號

諮問書

命ニ依リ五月二十日縣廳へ委員ト共ニ出頭シタルニ左記ノ如キ協定書ヲ提示サレタリ
仍テ本組合ノ意見ヲ諮フ

記

大口水門常盤高暫定的協定書

- 一、現水門常盤高（破損以前ノ常盤）ヲ二寸切下ゲ破損個所ノ復舊工事ヲ行フ事
- 二、湧水期ニ至リ兩堰ノ水量ヲ計測シ現常盤高ニテノ（二寸下ゲタル常盤高）分水宜シカラザレバ更ニ協議シ協定不能ノ場合ハ縣ニ於テ職權分水ヲ爲ス
- 三、復舊工事ハ五月二十七日迄ニ着手ス、其ノ場合ハ兩組合側五名宛及縣官吏ハ立會ス
- 四、五月二十四日兩組合側縣へ出頭シ協定書ヲ交換スル事

昭和四年五月二十二日提出

五所川原堰普通水利組合管理者

五所川原町長 佐々木哲造

答申書

本日諮問セラレタル協定案ハ暫定的ニシテ永久的ノモノニアラズト雖モ其ノ内容ハ兩堰ノ歴史ニ基調ヲ置カズ爲メニ古來當堰ノ有スル優越權ヲ認メサル結果トナリ二百有餘年ノ慣習ヲ破壞セラル、モノニシテ且ツ切下認可申請ノ目的ニ副ハザルヲ以テ之ニ應ズルコト能ハズ

右答申候也

昭和四年五月二十二日

五所川原堰普通水利組合委員長

組合會議員 外崎彦太郎

五所川原堰普通水利組合管理者

五所川原町長 佐々木哲造殿

昭和四年五月二十二日議決

五所川原堰普通水利組合會議長

管理者五所川原町長 佐々木哲造

八、兩堰ノ主張要領

五所川原堰ノ主張ハ次ノ如シ。

- 一、木造定盤時代通りノ高サ即チ現在ヨリ八寸五分八厘低ク定盤ヲ切下グルコト
- 二、平川引水ニ對シ五所川原堰ハ優先使用ノ權限アリ。足水側ト協定引用ノ必要無シ
- 足水堰ノ主張ハ次ノ如シ。
- 一、水門敷高ニ付テハ大正十五年度水門改築前縣指令條件第一項ニ基キ協定セリ
- 二、水門敷高ハ在來ト差異無シ
- 三、水門敷高ハ現在ノ儘ニテモ尙從來ヨリ五所川原堰ノ方ガ低ク有利ナリ
- 四、五所川原堰濁水ノ原因ハ灌漑反別ノ増加ニ因ル

兩堰ノ主張ノ要領ハ大約上述ノ如シ。

何レモ、其ノ中心點ハ水門敷高ノ相對的高低ニアリ。

大正十五年水門改築ニ際シ、兩堰水門底ノ高低如何ニ付テハ兩堰トモ主張區々ニシテ根據トスル設計書類ヲ缺クモ當時縣山口技師ノ測量記録ニ依レバ五所川原堰ト足水堰トノ水門ノ相對的高低差ハ二寸一分ナル記録アリ。

記録ハ次ノ如シ。

五所川原堰改築ノ件 枝川足水堰

去ル九月九日表記水門改築ノ件認可相成候處右兩水門ノ敷高ハ相互取入水量ニ至大ナル影響ヲ及ボスベキモノナルヲ以テ去ル十三日兩堰管理者側立會ノ上舊水門敷高常盤高測量セルニ兩堰ノ差二寸一分有之候ニ付改築スベキ敷高モ從前ノモノト同一ニセシムルヲ至當ト認候ニ付左記ノ通り兩管理者ニ御命令相成様致サレ度候

大正十五年十月十四日

山口土木技師 ㊦

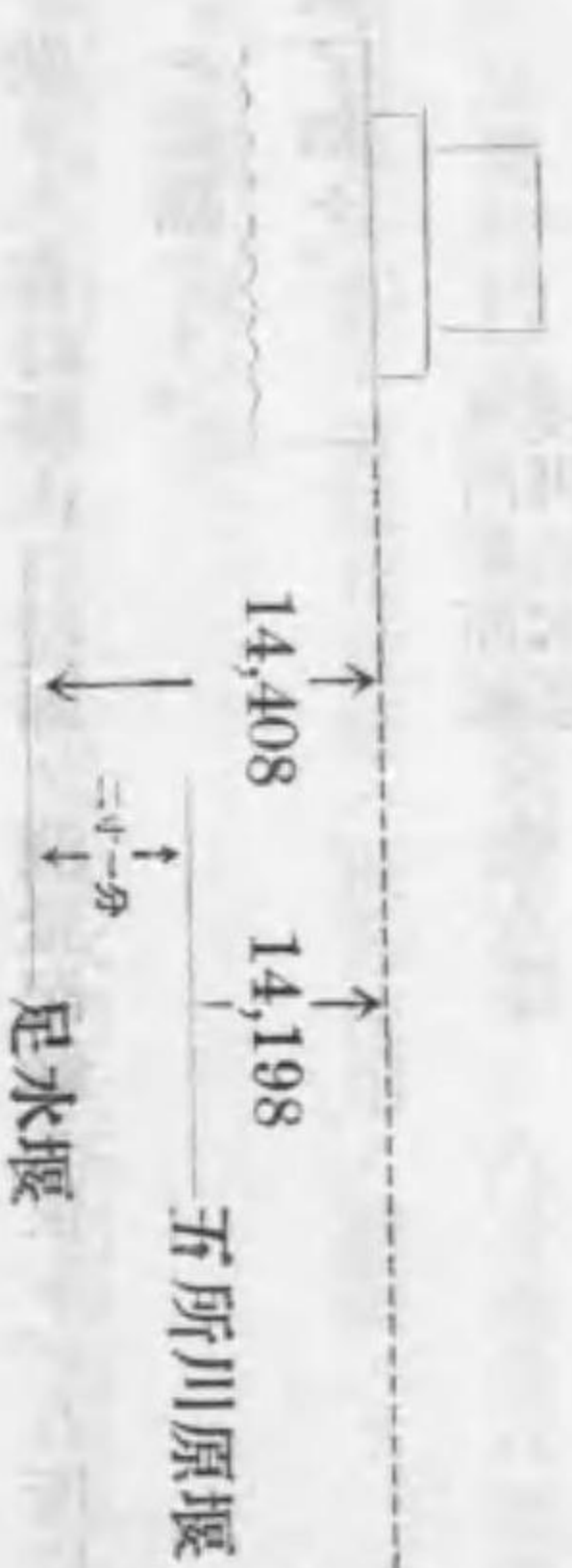
記

一、九月六日付指令第三、四六六號ヲ以テ改築ヲ認可セラレタル水門敷高ハ紀念碑臺北隅ヲ基準ト

シ五所川原堰ニアリテハ同點以下十四尺一寸九分八厘、枝川足水堰ニアリテハ十四尺四寸〇分八厘トス何レモ水門敷ハ全長ヲ通シテ水平ト爲スヘシ

枝川足水堰敷定盤高測量 15年10月13日測量
五所川原

測點	B.S	F.S	G.H	記念碑
B.M	1,262		0	
足水堰		15.67	14,408	
五所川原堰		15.46	14,198	



然ルニ現在コンクリート堰ハ相對的高低差ニ於テ八寸五分八厘高ク出來居ルヲ以テ、上記縣技師ノ測量ヲ精確ナルモノトセバ、改築ニ當ツテ從來ヨリ高メラレタルコトハ事實ナラン。之ニ付テ五所川

原堰ハ改築ニ際シ工事ノ粗漏ニ依リ高マリシモノト云ヒ、足水堰ハ協定セリト謂フ。

大正十五年九月六日付五所川原堰水門改築ニ對スル許可指令(指令三、四六六號)ニ付テ見レバ、夫ノ如キ許可條件ヲ附シ、其ノ第一項ニ於テ「五所川原堰及枝川足水堰相互協定ヲ遂ゲ同時ニ工事ヲ進行スベシ」トアルモ、更ニ、第八項ニ於テ「改築水門底ノ上面ハ在來水門底ノ上面ト同一ニスヘシ」トセリ。

從ヒテ許可條件ニ於テハ第一項ノ協議ハ水門底ノ高低ニ付テノ協議ニ非ズシテ、水門底ノ高低ハ既ニ第八項ニ依リ確定セラレ居ルナリ。加フルニ、水門底ノ高低ハ上述ノ如ク本件ニ於テハ用水堰ノ生命ニシテ輕々ニ其ノ條件ヲ決定スベキモノニ非ズ、之ニハ古來ノ慣習嚴トシテ存シ、之ガ協定ヲナスニハ組合員總會ヲ開會シ、協定書ヲ交換スベキ問題ナリ。隨テ、斯ル組合員總會ノ開催無キ限り協定無シト見ル可キナランカ。改築許可ニ際シ附セラレタル條件ハ次ノ如シ。

記

- 一、五所川原堰普通水利組合及枝川足水兩堰普通水利組合相互協定ヲ遂ケ同時ニ工事ヲ進行スヘシ
- 二、工事ハ許可ノ日ヨリ二十日以内ニ着手シ三ヶ月以内ニ竣工スヘシ
- 三、工事中假メ切ハ洪水面以上ニ施行シ馬踏一間以上、上、下流共杭打矢板工ヲ施シ洪水ノ際崩壞

セサル堅牢ナルモノタルヘシ
 四、假道ハ最急十五分ノ一勾配トシ相當敷砂利ヲ爲シ車馬ノ通行ニ支障ナキ様幅九尺以上ノ路面ヲ保タシムヘシ

五、水門竣工後埋戻ハ一尺毎ニ充分突固メ法面芝張ヲ爲シ充分復舊スヘシ
 六、工事中出水ノ徵候アルトキハ相當ノ防備ヲ爲シ洪水ノ堤内ニ及ハサル様スヘシ

七、工事ニ着手前豫メ所轄土木管區事務所ニ届出指揮ヲ受クヘシ尙工事竣工ノ際ハ直ニ土木管區事務所經由其旨報告スヘシ

八、改築水門底ノ上面ハ在來水門底ノ上面ト同一ニスヘシ
 次ニ兩堰ノ主張ニ於テ對立セル問題ハ舊慣ニ於ケル優先權ヲ灌漑反別ニ無制限ニ主張スルコトヲ得ルヤ否ヤナリ。

之ニ付テハ舊慣ハ社會關係、自然地理的關係ヲ背景ニ其時々ニ於テ協約セル慣行ヲ基準トセル故ニ、未ダ開墾促進セサル時ノ優先的協約ヲ文字通りニ主張シ、開墾ノ成立セル今日ノ事情ニ於テ強要スルコトハ當ヲ得タルモノニ非ザルナリ。
 尙、五所川原堰ノ用水不足ガ其ノ灌漑反別ノ増加ニ依リ生ゼシモノナリヤ否ヤニ付テハ、五所川原堰ノ各年度豫算書ニ依レバ大正十二年ヨリ昭和三年度迄ニ於テ直接反別間接反別何レモ稍同一ナルヲ

以テ、最近ニ於テハ斯ル事實無キモノト見ルヲ得ベシ。
 五所川原堰年次別、區域別調ハ次ノ如シ。

區域内反別増減調（各年度豫算書ニ依ル）

大正十四年度	大正十三年度	大正十二年度
直接反別 同半反別	直接反別 同半反別 間接反別 同半反別	直接反別 同半反別 間接反別 同半反別
六百一町四反五畝二十步 四十四町三反三畝步	六百二町八反四畝步 四十四町三反二畝步 四百六十四町八反四畝步 拾六町八反八畝步	六百四町一反二十四步 四十四町三反二畝步 四百六十四町三反九畝十六步 十七町二反四畝九步

昭和三年度	昭和二年度		大正十五年度			
	直接反別	間接反別	直接反別	間接反別	直接反別	間接反別
同半反別	六百町四反七畝步	同半反別	六百一町三反六畝步	同半反別	四百六十六町七反二畝步	同半反別
同半反別	四十四町三反六畝步	同半反別	四十四町三反三畝步	同半反別	十七町二反四畝十步	同半反別
同半反別	四百六十六町七反二畝步	同半反別	四百六十六町七反二畝步	同半反別		同半反別
同半反別	十七町二反四畝步	同半反別	十七町二反四畝步	同半反別		同半反別

九、問題ノ經過

昭和四年七月騒擾當時警察當局ハ保安上、五所川原堰ノ破壊セラレタル部分ニ暫定的ニ三寸五分ノ角落板ヲ挿入セシメタル上、縣ニ於テ兩組合管理者ヲ招致シ協議セシメタレドモ解決スルニ至ラズ。

其ノ後縣ニ於テモ技術的解決策ヲ立テ、先ヅ縣案トシテ、枝川足水堰ニ揚水機ノ設置ヲ奨メ、耕地ノ調査ヲナシテ兩堰ノ絶對必要量ノ決定ヲナサントセリ。
然ルニ、耕地調査ハ相當ノ日子ヲ要シ、昭和五年一ケ年ニ於テ約千五百町步ヲ測量シ得タルノミニシテ、殘部ノ調査ハ尙一ケ年ヲ要スルナリ。一方足水堰ノ揚水機設置ハ何レニシテモ之ヲ要スル問題ナルヲ以テ揚水機設置認可ヲ機トシテ兩堰ノ妥協ヲ圖ルヲ便トシ、再ビ縣ニ於テ妥協案ヲ示シテ兩水利組合會議ヲ各別ニ開催セシメタリ。
縣ノ妥協案ハ次ノ如シ。

間接反別	四百七十町五反一畝步
同半反別	十四町九反六畝步

一、五所川原堰側ノ主張スル八寸五分八厘ヲ切半シ、四寸二分九厘（即チ現在暫定的ニ挿入シアル堰板ノ頂ヨリ七分九厘下ル）トシテコンクリート定盤ヲ定ムルコト

一、足水堰揚水機ヲ足水堰ニ設置スルコト

之ニ對シ、足水堰ハ賛成セルモ、五所川原堰ハ優先的慣行ヲ讓ラズ未ダ之ニ同意セザル事情ニアリ。

五所川原堰	足水堰	八間堰	...
...

第二、溜池用水権ニ關スル調査

- 一、五所川原堰側ノ主張スル八寸五分八厘ヲ切半シ、四寸二分九厘（即チ現在暫定的ニ挿入シアル堰板ノ頂ヨリ七分九厘下ル）トシテコンクリート定盤ヲ定ムルコト
 - 一、足水堰揚水機ヲ足水堰ニ設置スルコト
- 之ニ對シ、足水堰ハ賛成セルモ、五所川原堰ハ優先的慣行ヲ讓ラズ未ダ之ニ同意セザル事情ニアリ。

第二、溜池用水權ニ關スル調査

一、廣島縣沼隈郡管野池用水權ニ關スル調査

目次

第一章 管野池概況……………二〇一

 第一節 管野池ノ沿革……………二〇一

 第二節 管野池水利狀況……………二〇二

第二章 管野池ノ分水慣行……………二〇三

 第一節 分水方法……………二〇三

 第二節 水利準則……………二〇四

 第三節 承水地域ニ對スル制限……………二〇七

第三章 管野池ノ維持管理……………二〇七

 第一節 管野池ノ維持管理……………二〇七

 第二節 草深水利組合……………二〇八

第四章 管野池用水權ノ歸屬……………二一四

 第一節 用水權ト管理權ノ差異……………二一四

 第二節 用水權ノ歸屬……………二一五

第五章 水利交渉問題……………二一六

 第一節 起因……………二一六

 第二節 農業事情ノ變遷ト慣行……………二一七

 第三節 管野側ノ主張……………二一七

 第四節 草深側ノ主張……………二一八

 第五節 解決條件……………二一八

第一章 管野池概況

第一節 管野池ノ沿革

溜池開鑿ノ年代ハ詳ナラサレ共、福山志料ニハ管野池周五町四十八間文化六年己二月（紀元二四六九年）ナル記録アリ。又今ヲ去ル約二百年前寶水八年卯三月（紀元二三七一年）ノ沼隈郡下山南村指出帳ニ

一、池 敷 大小七ヶ所 村中

内

一ヶ月管野池

是レハ草深村新崖池ニテ御座候當村分モ用水加ハリ申候尤モ池守給一斗宛出シ申候樋管替等諸入用ハ御公儀様ヨリ御出候

下山南庄屋 同村釣頭 組頭

ナル記録アリ。

以上ノ記録ヲ以テセバ本溜池ハ既ニ二百年前現形ヲ以テ存セシコト明カナリ。

而ルニ、古老ノ言ヲ徵セバ最初同地積ニ管野地區専用ノ小溜池存ジ居タリシヲ福山藩ガ草深新田ノ

目次

第一章 管野池概況……………二〇一

 第一節 管野池ノ沿革……………二〇一

 第二節 管野池水利狀況……………二〇二

第二章 管野池ノ分水慣行……………二〇三

 第一節 分水方法……………二〇三

 第二節 水利準則……………二〇四

 第三節 承水地域ニ對スル制限……………二〇七

第三章 管野池ノ維持管理……………二〇七

 第一節 管野池ノ維持管理……………二〇七

 第二節 草深水利組合……………二〇八

第四章 管野池用水權ノ歸屬……………二一四

 第一節 用水權ト管理權ノ差異……………二一四

 第二節 用水權ノ歸屬……………二一五

第五章 水利交渉問題……………二一六

 第一節 起因……………二一六

 第二節 農業事情ノ變遷ト慣行……………二一七

 第三節 管野側ノ主張……………二一七

 第四節 草深側ノ主張……………二一八

 第五節 解決條件……………二一八

第一章 管野池概況

第一節 管野池ノ沿革

溜池開鑿ノ年代ハ詳ナラサレ共、福山志料ニハ管野池周五町四十八間文化六年己二月（紀元二四六九年）ナル記録アリ。又今ヲ去ル約二百二十年前寶水八年卯三月（紀元二三七一年）ノ沼隈郡下山南村指出帳ニ

一、池 敷 大小七ヶ所 村中

内

一ヶ月管野池

是レハ草深村新崖池ニテ御座候當村分モ用水加ハリ申候尤モ池守給一斗宛出シ申候樋管替等諸入用ハ御公儀様ヨリ御出候

下山南庄屋 同村釣頭 組頭

ナル記録アリ。

以上ノ記録ヲ以テセバ本溜池ハ既ニ二百年前現形ヲ以テ存セシコト明カナリ。而ルニ、古老ノ言ヲ徵セバ最初同地積ニ管野地區専用ノ小溜池存ジ居タリシヲ福山藩ガ草深新田ノ

干拓事業ヲ起シ其ノ用水源トシテ本溜池ノ増築ヲ行ヒタルモノナリト謂フ。コハ分水慣行ニ於テ水深七ト三ナル地點ニ分水石アリ、其レ以下ノ用水ガ管野地區ノ専用水ニシテ、コノ部分ガ先ノ溜池ニ相應セシモノナリト謂フニ依ルモ明カナランカ。

草深ニ付キテハ、福山志料ニ依レバ草深磯新田耕地五十町（寛文年中——紀元二三二一年、元祿年中——紀元二三四八年再修）ナル記録アリ。依是觀之、管野池ハ尠ク共二百數十年前ニ築造セラレシモノト見ルヲ得ベシ。

第二節 管野池水利狀況

本溜池ハ一名等邊池ト云ヒ、山陽線福山驛ヲ去ル南方四里、沼隈郡ノ南部ニ位シ山南村ノ地積ニアリ、東北西ノ三面ハ山岳ニ掩ハレ、南方ノ同郡千年村ノ耕地ニ面スル一面ノミ開ク。

灌溉面積ハ山南村管野約八町、千年村草深約五十町合計約五十八町歩ナリ。管野地區ハ本溜池ノ支配區域中最上流位ニアリ、東北ヨリ西南ニ向テ傾斜セル狹長ナル棚田ニシテ最低最高部ノ落差百五十尺ニ及ブ地勢ニアリ。草深ノ地區ハ溜池ノ下流位ノ平坦地一帯ナリ。

溜池ノ敷地面積ハ三町四反六畝ニシテ其ノ水面々積ハ二町六反三畝ナリ。

堤塘ハ南ノ開ケタル所ヲ堰キ土堰堤ナリ。水深ニ付キテハ調査ナキヲ以テ之ヲ知り得ザレ共、概測

ニ依レバ約四間ナリ。

管野池ハ補給池トシテ上ニ奥山池（山南村地積内ニアリ村有ニシテ、池敷三反二畝）アリ下ニ柏迫池（千年村地積内ニアリ千年村々有ニシテ池敷約二町）アリ、奥山池ハ管野専用池ニシテ、柏迫池ハ草深ノ専用池ナリ。因ニ草深地區ハ用水源トシテ山南川（溪流）ヲ有ス。

第二章 管野池ノ分水慣行

第一節 分水方法

本溜池ノ用水幹線ハ池塘ノ下ニアル狹長ナル管野地區ノ中央ヲ流下シテ、左右ノ管野ノ田ヲ養ヒ、途中草深ノ専用池タル柏迫池ニ至ル支水路ヲ岐チテ草深地區ニ至ルモノナリ。

分水方法ハ水深七ト三ノ地點ニ在ル分水石ヲ境ニ上水ト下水ニ岐チ、上水、下水ト其ノ管理ヲ異ニシ、上水ニ付キテハ夏ノ仕附以後稻作ヲ了ル迄ハ草深ガ樋門ノ開閉權ヲ有シ、草深側ハ分水石ノ現ハル、迄ハ隨意ニ樋守ヲシテ開樋セシメテ分水シ、途中ニ於テ管野側ニモ隨時分水スルナリ。管野側ハ普通時即チ降雨ノ配布状態良好ナル時ニ於テハ同様隨意ニ樋守ヲシテ樋ヲ抜カシメテ引水スルモノニシテ、之ニ對シテ草深側ニ於テ何等抗議スルコト無シ。早魃時ニ際シテハ番水ヲ行ヒ草深ハ午前二時ヨリ午後二時迄ノ晝水ヲ引水シ、管野ハ午後四時ヨリ翌午前四時迄ノ夜水ヲ引水スルコトニナレリ。

下水ニ付キテハ管野ガ管理シ、管野ハ自己ノ地區ニ専用シ、惣代ガ人夫ヲシテ分水セシメ、所有者ノ任意ニ分水スルコトヲ許サザル慣行ナリ。

分水問題ニ付キテ争アルハ、旱天年ニ際シテ草深ハ分水石ニ至ル迄ノ上水ノ使用ニ付テ樋管ノ開閉ノ權利ヲ主張シ、管野ニ隨意ニ引水セシメズ、分水石以下ノ下水ニ對シテノミ管野側ノ樋管開閉ノ權利ヲ認ムルコトナリ。

扱テ、地區ニ付キテ水利事情ヲ概觀スルニ、管野側ハ池尻ニアル地區ナルヲ以テ普通年、旱年ヲ問ハズ管野池ニ用水ヲ仰グ外無キ事情ニシテ、唯管野池ノ上流ニアル奥山池ヲ専用池トシテ有スルモ其ノ放出水ハ是非管野池ヲ通過セシメザレバ地區ニ達スル能ハザル事情ニアリ、其ノ補給ハ管野池ガ分水點ニ達シ管野側ニ開閉ノ權利ガ移リタル時管野池ニ奥山池ノ水ヲ放出シ之ニ依リ地區ヲ潤スナリ。

草深側ハ爾ヲ刈ル迄即チ七月頃迄ハ山南川ノ用水ニ依ルモ夏ノ仕附以後ハ管野池ヲ主タル用水源トスルコトハ管野地區ト變リナク、唯地區ハ平坦地ニアリ、而モ用水ノ補給用トシテ管野地區下流ノ地點ニ専用ノ柏迫池其ノ他ヲ有シ更ニ山南川ノ流水ヲ引水シ得ル事情ニアリ。

第二節 水利準則

本溜池ノ水利慣行ニ關シテハ明治五年壬申五月下山南村ノ御樋方、御郡方村方建築御場所箇所附書止帳ニ依レバ次ノ記録アリ。

一、管野池

敷地 三十四反六畝二十步 御樋方建築

此池地所ハ下山南村ニテ水ハ管野谷内竝草深村新田江相掛申候此池内ニ分水石御座候右石出候テ後ハ草深村ヘハ水落シ不申管野谷内用水ニ致シ來申候一切御普請ハ草深村引受ニテ下山南村ハ構ヒ不申候堤間數ノ儀ハ草深村ヨリ委細申上候

之ニ依レバ、溜池ノ敷地ノ所有ハ山南村村有ナレ共水利準則トシテ用水ノ使用ノ權利ニ關シテハ管野地區ト草深地區トノ共有ニシテ、而モ、分水石以下ノ用水ハ管野ノ専用ナルコトヲ知ルナリ。

コノ分水石ハ底樋上板ヨリ付立ツ上リ一丈五寸ノ處ニアリ水深トシテハ約満水面ヨリ七ト三ノ點ニアリ。

コノ分水慣行ハ安永六年（紀元二四三七年）ノ管野對草深ノ水利紛争ニ於テ草深側ノ管野側ニ入レタル詔狀ニ依リ確認セラル、モノナリ。

仕申一札之事

一、此度其村管野池當村分水去ル五日晚迄落切申候處兩村役人立會見届相濟殘水其ノ村ヘ引渡申候

處相違無御座候然ル處翌六日當村御百姓共參リ理不盡ニ殘水引落申候ニ付右之趣御上へ御違相成候段聞恐入候右ニ付能登原村庄屋六衛門殿相願御挨拶ノ上御内濟ニ御聞届被下安堵仕リ候上ハ來歲ヨリハ幾々迄モ先年ヨリ相極候分水石並當年ヨリハ底樋上板ヨリ付立ッ上リ一丈五寸ノ處印シ致置双方役人立會見届濟殘水其ノ村へ引渡申候後聊申分仕間敷尤モ當村水落申候節ハ管野谷井關等理不盡ニ切落申間敷爲後日證文如依件

安永六年七月十一日

草深村庄屋 久 五 郎 印
同 村 組 頭 某 印
同 村 審 頭 某 印

下山南村庄屋

半 右 衛 門 殿

同 村 御 役 人 殿

同 村 管 野 總 御 百 姓 中

表之通相違無之御座候

以 上

能登原村庄屋

六 右 衛 門 印

第三節 承水地域ニ對スル制限

溜池ヲ涵養スル承水地域ハ東西北ノ三面ヲ覆フ山地ニシテ、松其ノ他ノ混交林ナリ。其ノ森林ノ所有權ハ部落有林ト私有林ト半バスル狀況ニシテ水利關係者ニ歸屬セズ。而シテ、此等森林ヲ涵養スル爲ニ伐採ヲ禁ズル等ノ制限ヲ附スルコトナシ。寧ロ、私有林中ノ混交林ハ十年デ伐採セラレ居ル狀況ナリ。

第三章 管野池ノ維持管理

第一節 管野池ノ維持管理

管野池ノ池敷ガ山南村有ナルコトハ前述ノ如シ。サリ乍ラ、同溜池ノ維持ハ全ク千年村草深側ニ於テ之ヲ爲シ、草深ニ於テハ之ガ爲ニ草深水利組合ヲ組織セリ。

此ノ草深側ノ組織セル草深水利組合ナルモノガ費用ヲ負擔シ、修理其ノ他維持ヲ行フ。管野ハ唯、樋守給ノ一部(米一斗)ヲ支出シ又分水石以下ノ用水ニ對シ之ヲ管理シ、惣代三名ヲ置キテ之ニ當ラシムルノミナリ。其ノ他ニ付テ管野側ハ何等水利ニ付テ團體ヲ組織スルコト無シ。斯クセバ、管野池ノ維持ニ付キテハ全ク草深水利組合ニ於テ其ノ經費全部ヲ負擔シ或ハ修理ノ義務

ヲ有スルモノニシテ、從ツテ、溜池ノ用水ニ對シテモ、其ノ管理ヲナス當事者タルナリ。
又樋管ニ對シテハ樋守以外ノモノハ之ニ手ヲ觸ル、コトヲ得ザル筈ニテ、而モ樋守給ノ大部ハ之ヲ
草深側ニ於テ負擔スルモノナリ。
次ニ草深水利組合ニ付テ見ン。

第二節 草深水利組合

本組合ハ水利組合法ニ準據セル普通水利組合ニ非ズシテ、單ナル水利關係者ノ申合組合ナリ。

本組合ハ管野池ノ水利使用ノ權利ヲ大字草深ノ營造物トシ、營造物處理規程並處理方法ヲ定メテ之ヲ管理ス。

此ノ規定ニ依レバ維持ハ千年村大字草深一帯ノ水利關係ノ土地所有者(六十九町七反)ニ於テナシ、
經費ハ此等ノ所有スル土地ノ反別ニ割當テ、賦課スルモノナリ(處理規程第十四條、第十五條)反當
費用ハ七十錢ナリ。

管理者トシテハ事務全體ヲ統轄處理スルタメニ正副大惣代各一名ヲ置キ(同第三條)其ノ任期ハ四
年トシ、惣代會ニ於テ選舉スルモノナリ(同第六條)名譽職ニニシテ出務ニ應シテ實費ヲ支給スルモ
ノナリ。(同第七條)

總代ハ事務ヲ執行スルタメニ設ケラル、モノニシテ小字ニ一名宛都合十名ヲ置キ總會ニ於テ選舉ス
ルモノナリ(同第六條)

而シテ、維持管理ノ母體ハ草深水利關係耕地所有者ニシテ、處理方法第一條ニ「關係者ニ於テ處理
スルモノトス」ト明記セリ。

處理方法、處理規程ハ次ノ如シ。

千年村大字草深營造物處理方法

第一條 千年村草深ニ屬スル營造物ハ局部制ニ依リ關係者ニ於テ夫々處理スルモノトス

第二條 前條營造物トハ池溝、山林、樋門、井手、火葬場物置、繩打場、舊學校舍巡查駐在所家屋
ノ十一種トス

第三條 前條十一種ノ營造物ヲ左ノ六類ニ分ツ

第一類 池、川、樋門

第二類 溝

第三類 山林

第四類 井手

第五類 火葬場、舊校舍、駐在所家屋

第六類 物置場、繩打場

第四條 第一類ニ屬スル池ヲ左ノ九局部トス

第一局部 柏迫池、菅野池、鐵光池、變津池、塚田池、山南川、樋川

第二局部 池ノ奥池

第三局部 大羊迫池

第四局部 小羊迫池

第五局部 先阿引池

第六局部 前阿引池

第七局部 先阿引堀

第八局部 樋ノ口池

第九局部 山南川

第五條 第二類ニ屬スル溝ヲ九局部トス

第一局部 第一類ノ第一局部ニ屬スルモノ

第二局部 第一類ノ第二局部ニ屬スルモノ

第三局部 同 第三局部ニ屬スルモノ

第四局部 同 第四局部ニ屬スルモノ

第五局部 同 第五局部ニ屬スルモノ

第六局部 同 第六局部ニ屬スルモノ

第七局部 同 第七局部ニ屬スルモノ

第八局部 同 第八局部ニ屬スルモノ

第九局部 同 第九局部ニ屬スルモノ

第六條 第三類ニ屬スル山林ハ左ノ六ヶ所ヲ以テ一局部トス

奥山全體、藤原迫、平木越、金堀、柏迫西平、變津越

第七條 第一類第一局部ニ屬スル土地區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

林崎一圓(林崎西平ノ内五呂木字ヲ除ク)

安廣(寶光寺道以下)池田、畑田尾、土居一圓、五反側、小池、濱川、楨尾、塚田、地藏畑、

林ノ尾、汐入、新開一圓、阿引沖、平石、庵ノ下

第八條 同第二局部ニ屬スル土地ノ區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

池ノ奥池

第九條 同第三局部ニ屬スル土地ノ區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

大羊迫一圓

第十條 同第四局部ニ屬スル土地ノ區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

小羊迫 一圓但シ一、二二八 一、二二一 一、二二二 一、二二三 一、二二八ノ五筆

第十一條 同第五局部ニ屬スル土地ノ區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

先阿引

第十二條 同第六局部ニ屬スル土地ノ區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

前阿引

第十三條 同第七局部ニ屬スル土地ノ區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

先阿引堀

第十四條 同第八局部ニ屬スル區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

安廣(寶光寺道以下)

第十六條 火葬場ハ藤原迫、長和ノ二ヶ所ナルモ各區域ニ於テ任意ニ處理スルモノトス

第十七條 物置場ハ樋ノ畫ノ一ヶ所ナルモ提ゲ卸シハ三日間以内トス

第十八條 舊校舍、駐在所家屋、繩打場ハ夫々收入ニヨリテ處置スルモノトス

千年村大字草深營造物處理規程

第一條 千年村草深ニ屬スル營造物ハ本規程ニ依リ處理スルモノトス

第二條 事務所ハ千年村役場ニ置ク

第三條 事務全體ヲ統轄處理スル爲メ正副大總代各一名ヲ置ク

第四條 兩法第一、二類ノ事務ヲ執行スル爲メ總代十名ヲ置ク

第五條 方法第三類ノ事務ヲ執行スル爲メ總代七名ヲ置ク

第六條 大總代及總代ノ任期ハ四年トシ總代ハ總會ニ於テ大總代ハ總代會ニ於テ選舉ス

第七條 大總代總代ハ名譽職トシ出務ニ應ジテ實費ヲ支給ス

第八條 方法及規程ノ變更廢山ハ總會ニ於テ之ヲ決ス

第九條 前條及第六條ノ事項ヲ除ク外ハ總代會ニ於テ決定ス

第十條 總代會ハ大總代之ヲ招集ス

第十一條 總代會ノ議長ハ大總代ヲ以テ之ニ充ツ

第十二條 會計年度ハ曆年ニヨル

第十三條 會計事務ハ大總代之ヲ擔當ス

第十四條 經費ノ賦課ハ方法第一、二、四類ニ於テハ反別ニ依リ第三、六類ニ於テ戸別ニ依リ第五

類ニ於テハ關係者ノ負擔トス

第十五條 經費ノ負擔者ハ徵收當時ノ現在地主トス

第十六條 徵收期ハ毎年七月末日トス

第十七條 經費ノ滯納者ニハ灌溉水ヲ與ヘサルモノトス

右規程ヲ確守實施スル爲メ調印スルモノ也

但シ入作者ハ池川溝樋川井手ニノミ參與ス

大正十四年六月

第四章 管野池用水權ノ歸屬

第一節 用水權ト管理權ノ差異

用水權ノ歸屬關係ガ費用負擔、用水源ノ管理等ノ一ツノミヲ原因トシテ之ヲ定ムルコトノ適當ナラザルコトハ屢々述ベシトコロナリ。用水權ノ歸屬關係ハ水利慣行ノ實態ガ如何ナルモノヲ引水ノ責任主體トナスヤニ依リ判定セラル、モノナリ。而ルニ草深水利組合ニ於テ同溜池ヲ大字ノ營造物トナシ、營造物設立ノ意思ヲ表明シ、同溜池ノ維持管理ヲナシ、其ノ經費ヲ負擔ス、而シテ、樋門ノ開閉ニ關スル直接ノ義務ヲ有ス。從ヒテ、草深ト管野トガ單ナル契約關係ニ於テ結バレ、恩惠的ニ草深ガ管野ニ給水スルモノニシテ、兩者ガ其ノ水利關係ニ於テ全然別個ノ situation ニアルモノナラバ、斯

ル管理權ハ用水權トシテノ内容ヲモ有スルナラン。然ラザレバ、管理權ト用水權トハ同一ノモノニ非ズシテ更ニ水利準則ニ付テ見ザレバ用水權ノ歸屬ニ付テ知ルコトヲ得ズ。

第二節 用水權ノ歸屬

管野池ノ管野ニ對スル狀勢ヲ水利準則ヲ推シテ見ルニ、沿革ニ於テ、本池ハ管野ノ用水源ヲ基礎ニ増築セルモノニシテ、地勢的關係ニ於テ池尻ニアリ必ズ草深ヘノ用水ハ管野地區ヲ通過セザルヲ得ザル事情ニアリ、而モ管野ハ管野池ヲ唯一ノ用水源トス。

經費負擔ノ點ニ關シテハ、一般溜池ノ水利慣行トシテ池尻ノ地區ハ經費其ノ他ノ點ニ付テ優先的地位ヲ有スル準則ヲ援用シ得ルナリ。而シテ斯ル優先的事情ハ管野地區ガ夜水（夜水ハ分水關係ニ於テ優先的地位ニアルモノノ亨クル番水ナリ）ヲ分水セラル、立場ニ鑑ミルモ明カナル事實ナリ。

即チ、溜池ノ水利慣行トシテ池尻ノ地區ガ溜池ノ危険ヲ最モ多ク負擔スル點或ハ池尻ナル優利ノ地位ヲ占ムル點等ヨリ費用ノ負擔ヲ免カル、事情、之ニ反シ溜池ノ流末ノ水利關係者ガ不利ナル水利ヲ救フベク樋門ヲ管理スル事情ハ共ニ用水權ノ歸屬關係ヨリ池尻ノ水利關係者ヲ排除スルモノニ非ズ。

此ノ用水權ニ關シテハ第三者ニ對抗シ得ル特別ノ公示方法無シ。

第五章 水利交渉問題

第一節 起 因

管野池ノ樋門ハ樋守ヲシテ開閉セシメ、之ガ監督者ハ草深水利組合大總代ナルコトハ先ニ述ベシトコロナリ。

用水潤澤ナル場合ハ管野ノ任意ニ樋守ヲシテ開閉セシメテ分水スルモ問題ヲ生ズルコト無キモ、一朝旱天續キテ甚シク用水不足セバ其處ニ樋管ノ開閉權ト用水權トノ問題ニ付紛争ヲ生ズ。

即チ、溜池ノ用水減少シ分水石ガ現ハレルト管野側ハ全然草深側ニ分水セズ管野地區ノミニ引水スルヲ以テ、草深側ハ多少共殘水ノ灌水ヲ受ケ度キ意圖ニテ分水石ガ現ハレス中樋管ノ開閉權ヲ握ル事情ヲ利用シテ、分水石一、二寸ノ處ニテ樋管ヲ閉シ、開樋セザルナリ。

而ルニ管野側ニハ奥山池ナル補給用ノ溜池アリ、之ヲ管野池ニ流入シテ管野地區ヲ灌溉スルモノニシテ管野池ガ閉サルレバ奥山池ノ池水ヲ引用スルコトヲ得ザルコトニナルナリ。

勿論殘水ハ草深側ニ對シテハ何等役立つモノニ非レ共多少共草深ニ水ノ來ルヲ期待シテ樋守ヲシテ閉樋セシムルモノニシテ、此ノ閉塞期間ハ五六日間ニ及ブコトアリ。

斯クシテ兩者ニ紛争ヲ生ジ、血ノ雨ヲ降ラスニ至リシ争議ハ先キニ明治三十年頃發生シ、近クハ昭

和五年ニ其ノ勃發ヲ見タリ。

第二節 農業事情ノ變遷ト慣行

上水ノ使用ニ付キテハ、流末ノ草深新田ニ引水スルニ當然管野地區ヲ流過スルヲ以テ、從來兩者ノ引水ノ權利義務關係ヲ定ムルノ要ナク、而モ昔時草深新田ハ綿作ヲ主トシ居タリシヲ以テ用水ヲ多量ニ要スルコトナク、兩者間ニ自然的協調ヲ保チ來リシナラン。

而ルニ草深新地ハ漸次水田ト化シ、其ノ用水量ニ増大ヲ來シ、最近ニ到リテハ此地方ハ二毛作ヲ通例トシ藪ノ裏作ヲナスニ至リ益用水量ノ増加ヲ來セリ。

而モ藪作ハ冬用水ヲ要シ溜池ノ水ヲ落スヲ以テ、溜池ニ充分ノ水ヲ貯水スルコトヲ得ズ其處ニ水利紛争ノ一因ヲカモシ出セルナリ。從來ノ慣行ハ成立當時ノ農業事情ヲ主トシ、水田經營トナレル今日ノ農業事情或ハ藪ノ裏作ヲナシ冬期ノ水利關係ヲ生ゼル事情等ニ一致セザル所ヲ生ズルナリ。慣行ノ規律スルトコロハ、夏引水スル場合ノ分水ヲ定メシモノナルヲ以テ、夏冬引水セル今日ノ水利事情ニ對シテハ、之ニ適合スベク其ノ慣行ノ運用ヲ必要トス。

第三節 管野側ノ主張

水利紛争ニ對シ、管野側ノ主張ヲ見ルニ、上水ハ管野、草深ノ共有、下水ハ管野ノ専用ナリトシ、其ノ理由トシテ上水ヲ草深ノ専用トスト云フモ、然ラバ用水期ノ管野地區ノ享クル水ハ何處ヨリ之ヲ求ムルヤ、管野池ヲオイテ他ニ無シ、昔ヨリ經營シ來レル水田タル以上水ヲ享クル權利アルモノトセザル可カラズトス。而シテ、其ノ證據トシテ前掲舊藩時代ノ草深側ノ管野側ニ入レタル詫狀ヲ示セリ。

第四節 草深側ノ主張

草深側ノ開閉權專有ノ主ナル主張ハ

一、經費全部ヲ負擔セルコト

一、從來ヨリ樋門ヲ管理シ、管野ニハ恩恵的ニ水ヲ與ヘ來リシモノナルコトヲ理由トスルモノニシテ、草深水利組合ナルモノヲ組織シテ水利ヲ司リ來レルコトヲ強調ス。

第五節 解決條件

昭和五年ノ紛争ニ於ケル解決條件トシテハ警察官立會ノ上ニ取結ベル「開閉權ニ付キテハ共用權アリ、分水石ニ近キトキハ兩村協議ノ上開閉ス」ヲ條件トセル協定アリ。

二、秋田縣仙北郡西沼用水權ニ關スル調査

水利紛争ニ對シ、管野側ノ主張ヲ見ルニ、上水ハ管野、草深ノ共有、下水ハ管野ノ専用ナリトシ、其ノ理由トシテ上水ヲ草深ノ専用トスト云フモ、然ラバ水期ノ管野地區ノ享クル水ハ何處ヨリ之ヲ求ムルヤ、管野池ヲオイテ他ニ無シ、昔ヨリ經營シ來レル水田タル以上水ヲ享クル權利アルモノトセザル可カラズトス。而シテ、其ノ證據トシテ前掲舊藩時代ノ草深側ノ管野側ニ入レタル詫狀ヲ示セリ。

第四節 草深側ノ主張

草深側ノ開閉權專有ノ主ナル主張ハ

- 一、經費全部ヲ負擔セルコト
 - 一、從來ヨリ樋門ヲ管理シ、管野ニハ恩惠的ニ水ヲ與ヘ來リシモノナルコト
- ヲ理由トスルモノニシテ、草深水利組合ナルモノヲ組織シテ水利ヲ司リ來レルコトヲ強調ス。

第五節 解決條件

昭和五年ノ紛争ニ於ケル解決條件トシテハ警察官立會ノ上ニ取結ベル「開閉權ニ付キテハ共用權アリ、分水石ニ近キトキハ兩村協議ノ上開閉ス」ヲ條件トセル協定アリ。

二、秋田縣仙北郡西沼用水權ニ關スル調査

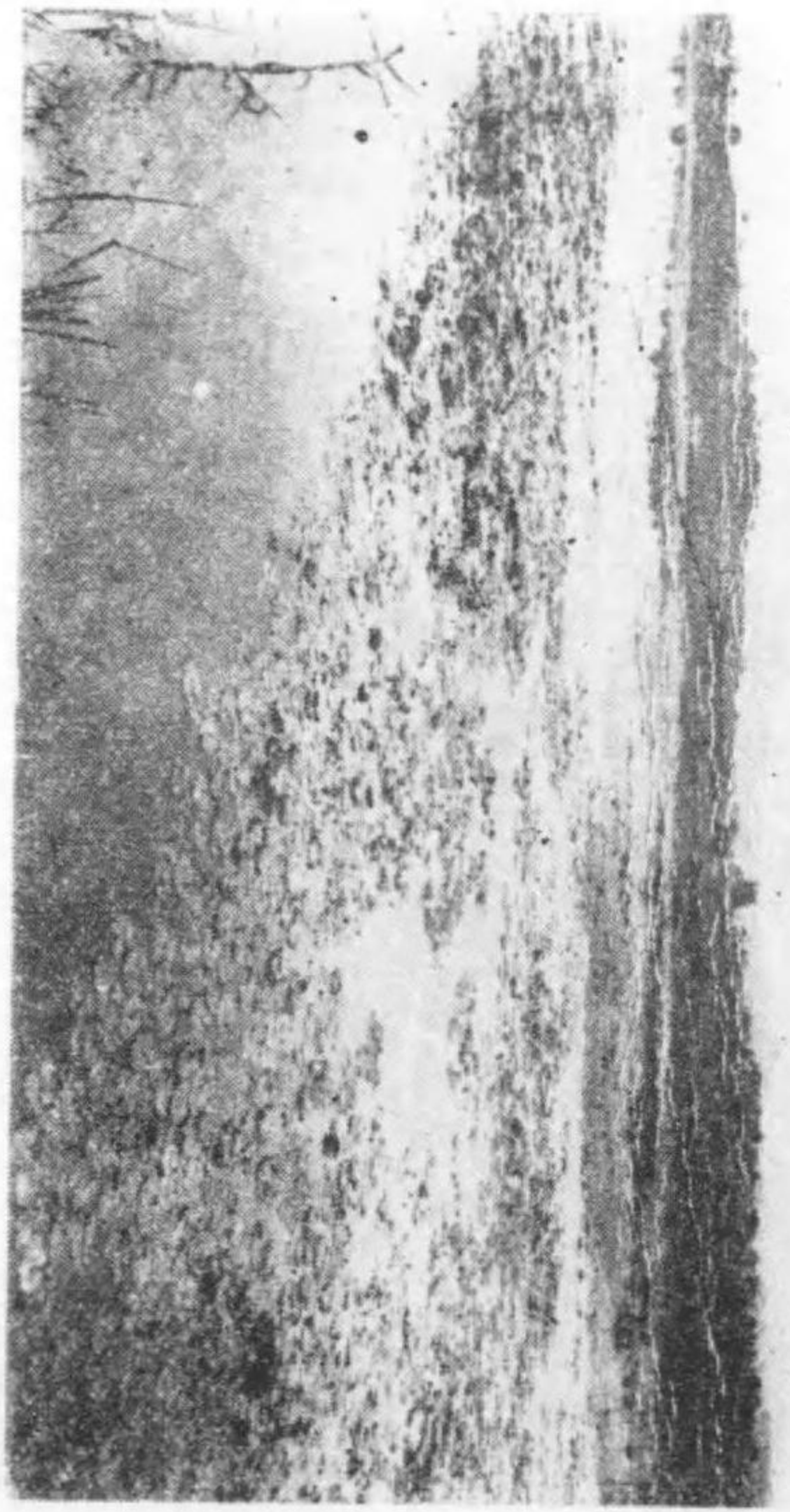
目次

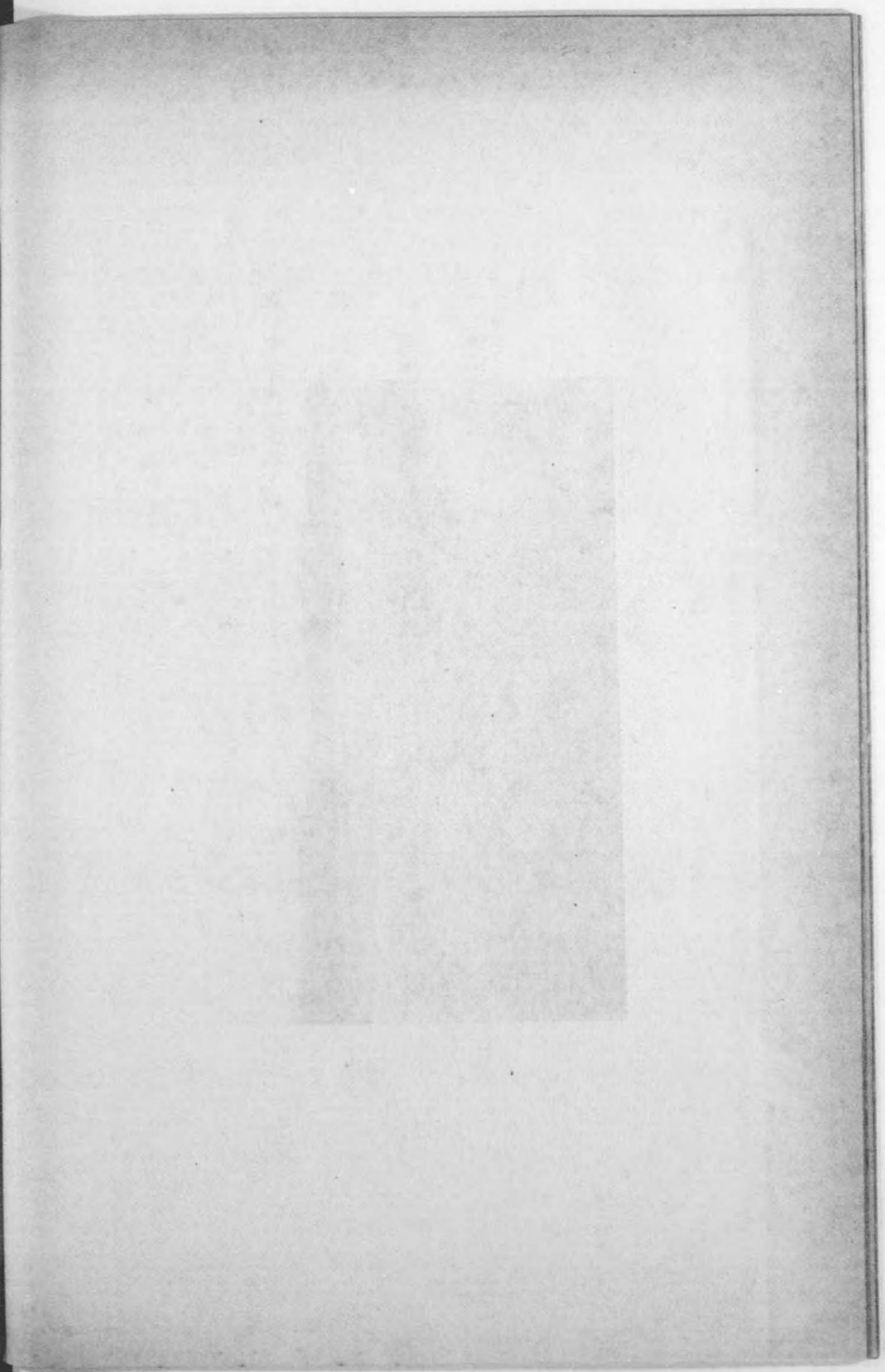
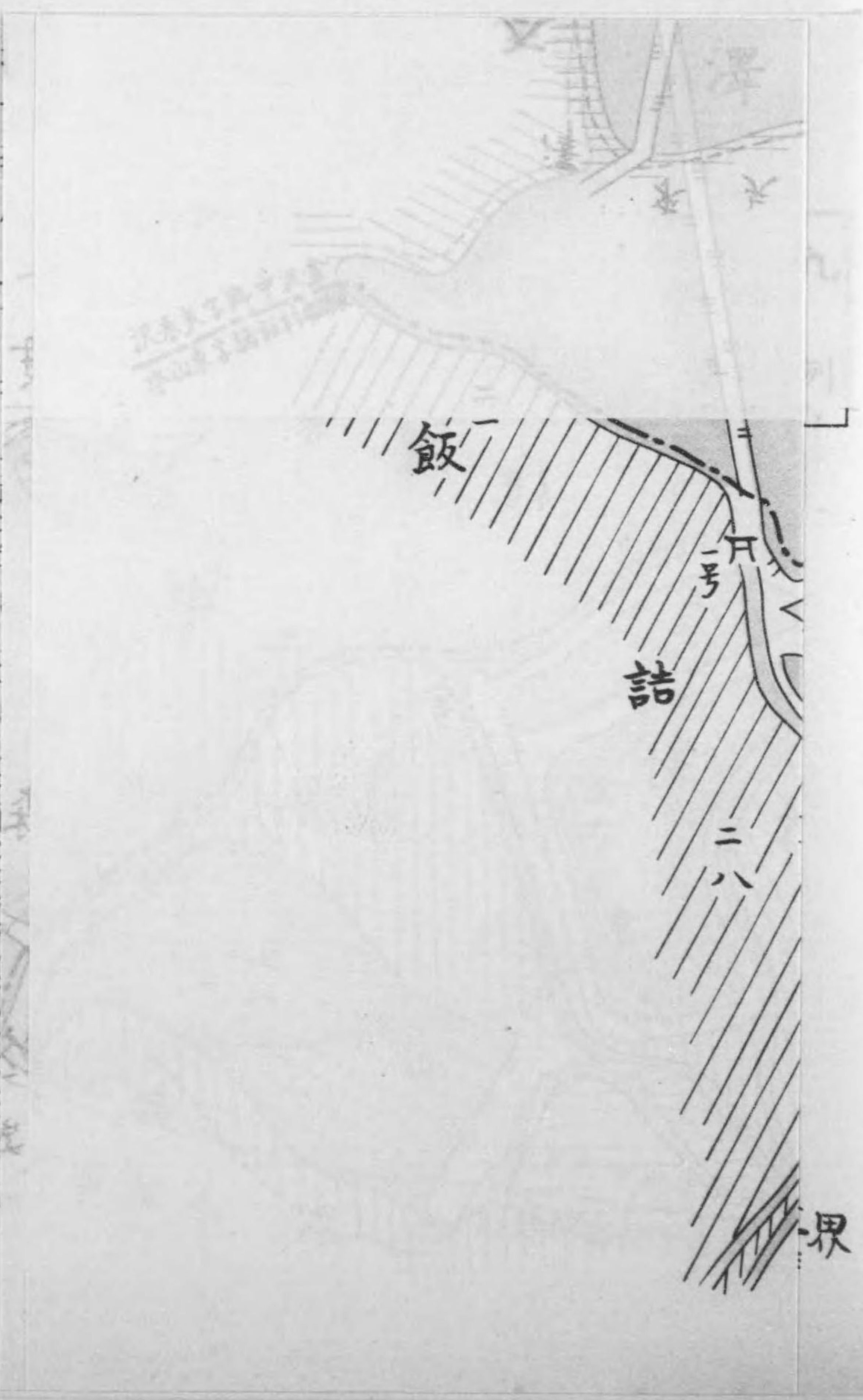
一、西沼概況……………二二九

二、西沼用水權ノ歸屬……………二一九

三、農業水利使用條件……………二三二

四、農業水利交渉ノ現状……………二五九

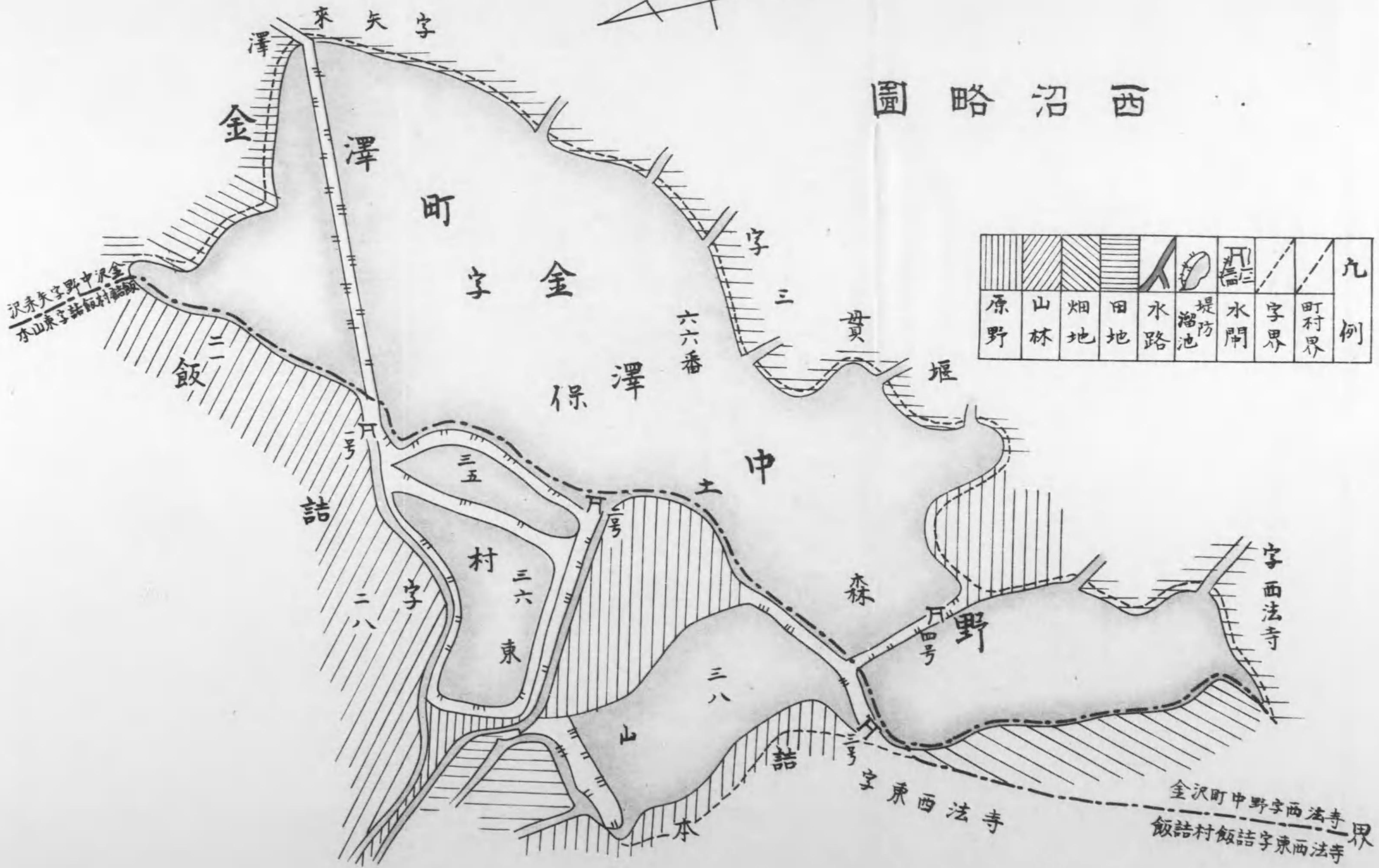




西沼略圖



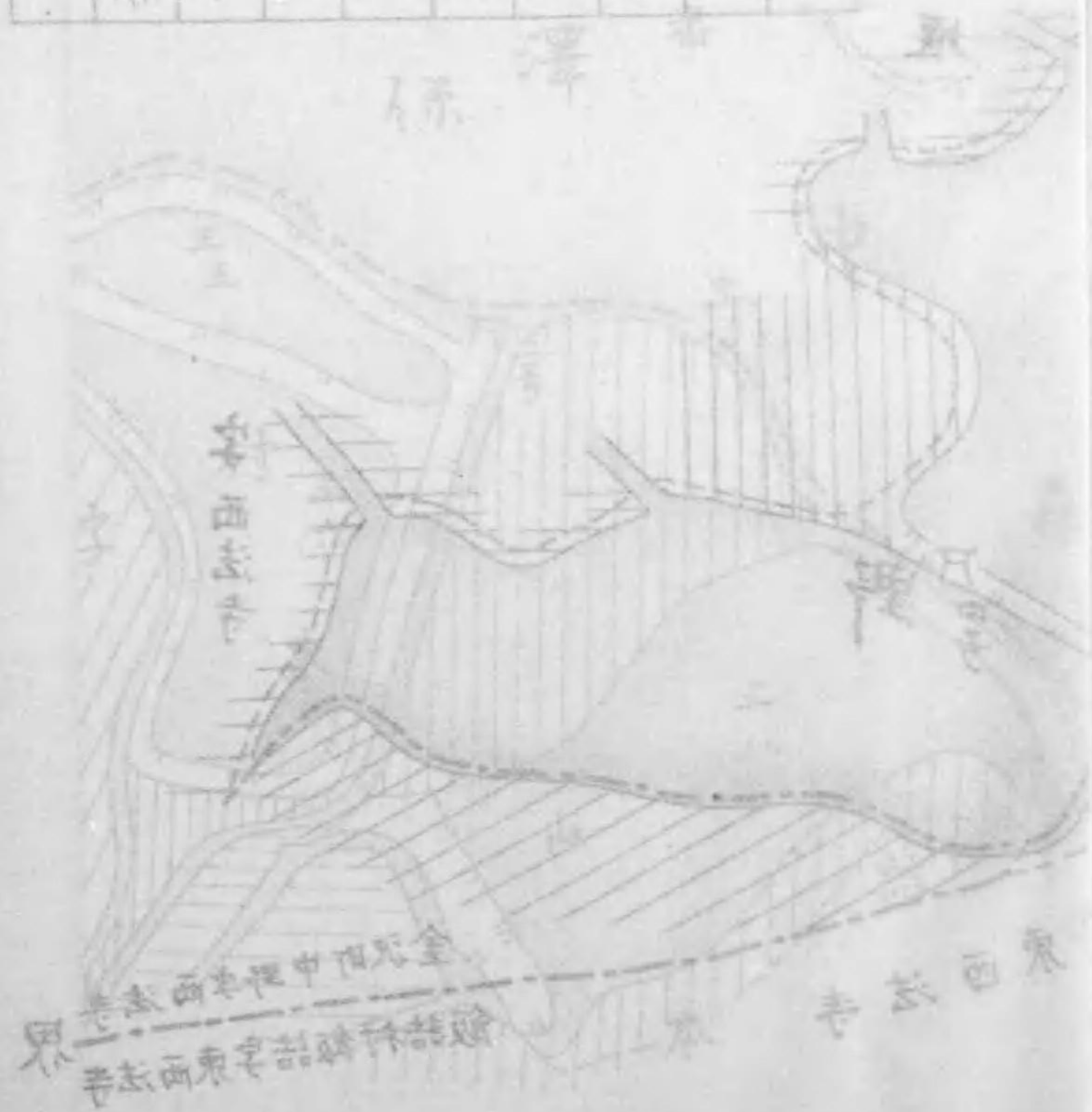
									九例
原野	山林	畑地	田地	水路	溜池	堤防	水開	字界	町界



沢赤矢字野中沢金
亦山東字詰飯村飯

字西法寺

全沢町中野字西法寺界
飯詰村飯詰字東西法寺



一、西沼 概況

西沼ハ秋田縣仙北郡金澤町金澤中野宇保土森ノ地ニアリ。後三年戰役ニ著名ナル源義家鴻ノ亂ル、ヲ看テ伏兵ノ在ルヲ知レリト謂フ史跡ノ池ナリ。

其ノ溜池敷ハ八町一反八畝ニテ水深ハ約五尺位ナリ。同池ハ上位ニアル金澤中野ノ水田（用水源ハ蛭藻沼其ノ他）ヲ灌溉セル餘水ト自然ノ雨水トヲ以テ用水源トナシ、西沼ノ下位ニアル同郡飯詰村飯詰耕地整組合ノ水田百八町歩ヲ灌溉スルモノナリ。

尙、本池ハ大正十三年ヨリ飯詰耕地整理組合關係者ノ組織セル區劃漁業組合ノ養鯉池トシテ之ヲ利用シ居レリ。

二、西沼用水權ノ歸屬

西沼ハ飯詰耕地整理組合ノ水田約百町歩ノ用水源ナルコトハ上述ノ如シ。

然ルニ、西沼ノ用水權ノ歸屬ニ付テハ古クヨリ爭ヒアリ、地元ノ金澤中野ガ之ヲ有スルヤ或ハ西沼ノ用水ヲ利用セル飯詰ガ之ヲ有スルヤ或ハ兩者部分のニ各持分ヲ有スルモノナリヤ明カナラズ。

之ヲ古文書ニ付テ見ルニ、先ヅ、寛政元年酉四月二十四日三貫關水本御檢使被仰渡取爲替證文帖ニ

依レバ次ノ如シ。

之ニ記述セラレタル金澤中野側ノ主張ヲ拔萃セバ

- 一、西沼ハ昔ヨリ金澤中野ノ地積ニアリ、沿岸住民ノ藻草採取等ノ利用ニ供シ居タリ
- 二、從來西沼ノ水利ニ付テ他トノ交渉ノ際或ハ番水ノ節飯詰トノ連印竝番水引渡等ノ例無シ
- 三、金澤中野ノ餘水ハ西沼ヲ通ジ、飯詰ニ落ツルモノニシテ、飯詰ノ灌漑ハ唯コノ餘水ヲ引受ルノミナリ

四、飯詰ノ水元タル證據無シ

ノ四點ヲ主要ナル事項トス。

更ニ、飯詰側ノ主張ヲ拔萃セバ、

- 一、西沼ハ事實上飯詰ノ用水源ナリ。西沼ヲ飯詰ノ水元ニ非ズトセバ飯詰ハ何處ヨリ用水ヲ獲ルヤ
- 二、書付等ノ證據無キモ、三貫關ノ渡橋ニ對シ寄合掛渡ノ例有リ

ノ二點ヲ主要ナル事項トス。

水元ニ關スル取爲替證ハ別紙ノ如シ。

寛政元年酉四月二十四日

三貫關水本取爲替證文帖
御檢使被仰渡

御代官八木下彌五右衛門殿ヲ以テ飯詰村ヨリ願申上候者當村惣御役高千四百六十餘石ニ而正保四年安藤傳左衛門殿御打郷年久敷御竿故甚地形混雜ニ而免地諸御高何共間似合不申御百姓達困窮仕御欠落數多相及無符人高既ニ七百石餘有之人勢不足ニ相成其上筆境等相分リ不申益御高守格可仕様無之一村潰ニ相及御改政被成下度數度奉願上處今年御改政被仰付難有仕合奉存候

一、當村御本田竝水元之儀者荒川向小屋堤掛リ御高八百石餘三貫關大沼懸リ高四百石餘其外御開ハ大川掛リ堤掛ニ御座候然者御改政御檢使御組合様近ク御廻在可被成置ニ付水元他郷境御吟味モ可有之ニ付内々吟味仕度金澤中野村地形之内三貫關相通大沼へ水引受山本大森下川原君堂齋法寺ト申字新御本田竝四百石餘之水元ニ御座候所右水引分ケ候關口先年ヨリ之通ニ無之様ニ而中野村江立會三貫關筋之儀何分先年之通關口付候様ニ致度申遣候所中野村挨拶ニ者三貫關之儀ハ當村水元ニ有之其方之水元ニ無之段申事ニ御座候仍而又々申越候者御心得違ト存候當村右關懸御本田竝關トモニ四百石餘之水元ニ有之候被仰越候通ニ御座候得者御本田水元無之儀ニ御座候左様ニハ有之間敷故御立會被成相片付度又々申遣候處此方水元ニ相違無之所當村ヨリ立會可申手段無御座此方ニ而ハ已前ヨリ慥成證據有之候若其村ニ證據有之哉ト挨拶ニ御座候依之兼而御存之通當村先肝煎新兵衛勤中ヨリ一村騒立同人退役數人肝煎相代リ候得者諸書物ニ不相限證據體ノ書付一切無之候得共先年ヨリ右關山本大沼掛リト覺能有候其先ハ右三貫關往還横ニ相通候所金澤西根村町場ニ御

座候右關橋普請修繕等之節金澤西根村ト當村ト立會寄合普請致來候其元村ニ而者御構無之畢竟當村水元關之事故掛渡來候是程儘成證據有之間敷候夫共御聞届無之此御時節何共恐入奉存候間何分御立會双方異論ナク水引取御改政之節御見分ニ入置候様仕度段中野水村へ申遣候所全ク水元ト申儀ニハ無之餘水右沼へ引請候故右橋古來ヨリ掛來候事ニ可有之幾度被仰遣候而モ此方水元ニ相違無之挨拶ニ御座候左候得者無據御檢使様奉願御見分之上双方相極申之外無御座候其方ヨリモ御願可被申談候所此方ヨリ何レ御檢使様願可申上譯無之仍而又々申越候者無是非事ニ候間此段御書付申請度趣申聞候得共何レ書付可指出次第無之一圓取請不申候依之御時節柄恐至極ニ奉存候得共御本田竝之御高四百石餘右沼へ溜水一ト通ニテ往々相保可申様無御座當惑至極ニ奉存候間急段御檢使様被下置御見分之上水元ニ被仰付被下置一村御百姓案堵仕候様ニ被成下度近ク御改政御組合モ御引移リ故幾重ニモ奉願上候

一、金澤中野村ヨリ右御同人ヲ以テ申上候ハ當村兼而驛場御用相動兼候ニ付早春久保田へ罷登其節飯詰村肝煎對談ニハ當村水上之三貫關ト申關飯詰村水上ミト被申依而當村肝煎挨拶ハ右關之儀ハ當所一方之水上ニ而先年ヨリ當村關ニ御座候只今其元之水上ミト申譯如何成譯柄ニ候哉證據等モ有之哉ト對談ニ及候所差而證據モ無之候得共此度御竿ニ付水元之儀御尋ニ可有之左候得者大溜溜リ水本田水上ニハ相成申問敷其元村之三貫關此方之水上ニ御座候飯詰村肝煎申條ニ御座候仍而當

村肝煎申候ハ存之外成御申御座候段對談及候得者飯詰村肝煎夫迄ニ而罷歸當村肝煎留主中數度水元之田申參リ候得共村方ニ御難心得趣對談ニ及罷在候内當肝煎久保田ヨリ歸之節途中ニテ飯詰村肝煎ト逢候所ニ又々被申候ハ兼而其元江對談ニ及候水元關之儀其元へ數度申遣候得共其元留守故相分リ不申仍而直段候上相分候様ニ可致尙對談ニ御座候委細久保田ニ而直談ニ及候通如何被成候ヤト飯詰村肝煎申條ニ御座候當村肝煎挨拶致候ハ先頃直談致候通當村一方之關筋ニ御座候段申聞候處左候ハ書付可指出申聞候得共何レ右書付指出候譯無之挨拶致候所飯詰村肝煎久保田へ罷登リ當所肝煎在所へ罷歸候後親郷ヨリ催促ニ而罷越候得者御代官様ヨリ御町送親郷へ相達飯詰村水元關之儀ハ其元村ヨリモ譯柄訴狀ヲ以可申上儀御代様ヨリ被仰付候間早々罷登可申旨被申渡候當村之儀驛場御用ニ付數十日久保田ニ逗留罷在此間歸村仕候所村方散亂ニ而如何共早速罷登候儀迷惑之段親郷へ申上罷有候然者右三貫關先年ヨリ當村一方之關之譯ハ當村御打直之節隣郷ヨリ御檢使様へ書上候郷境水元共村々左之通金澤前郷村飯詰村安本村平鹿郡杉澤村右村々ヨリ書付控ニモ飯詰村關ト申譯無之尙其後明和年中三貫關水上之杉澤川水掛引之儀ニ付口論ニ及御檢使願上候處石川六右衛門殿御組合御吟味之上已來口論無之タメ杉澤村ト取替手形可致被仰付所持仕リ罷在候得共飯詰村水元ニ無之故一向御取扱無之趣手形連印ニモ無之且番水等之節相渡候定モ無之打拂諸普諸之節モ飯詰村ヨリ罷出候儀無御座當村御本田關ニ相違無御座候處此度如何成譯有之候哉右水上

關同水之趣難心得迷惑千萬奉存候仍而然乍御檢使様被下置御吟味之上前條之通異論無之様ニ奉願
上候

一、右之通双方ヨリ願申上候處ニ此度各様右御用ニ付御引移候様被仰付候然者飯詰村之儀ハ今年平
均御竿被入置候ニ付近日右御組合被爲出申筈ニ御座候肝煎事モ此間久保田ヨリ罷歸申候扱又重々
御用筋已前ニ亦々御若柄成御願申上何共氣之毒千萬ニ奉存候段々郷中打重相談仕候所何ソ證據等
有之申上候次第ニモ無之當村之儀ハ近年ニ至數十人肝煎此等ニテ諸書付等モ無之候得共先年ヨリ
水上關ト覺形ヲ以申上候次第ハ三貫關へ掛渡候橋金澤西根村ト寄合掛渡候故水元關ト覺形ハ一ト
通ニ候然者外村々ニモ町場之外橋取扱之村モ儘有之由左候得者是以證據ト申儀ニモ無之仍而中野
村へ以前ヨリ之次第再應掛合ニ及候所ニ私共内々吟味不足等モ有之中野村ニテモ先年形之通ニ而
何ソ餘水遺兼候次第ニモ無之候得共異論被成候儀ニモ無之一體中野村餘水引諸先年取立候堤ニモ
可有之左候得者追々御取扱願申上候モ甚恐入奉存候故右願之儀何分申卸御苦柄不申上様ニ仕度候
間偏ニ御取扱ヲ以可然様ニ被仰上被下度様申上候

一、中野村へ御申被成置候ハ飯詰村ヨリ前書之通此度御用申卸致段申出候尙先年形ハ通餘水右村堤
へ落シ候儀ハ前々ヨリ致來候尙此末トモニ前方之通ニ可有之ト御申ニ御座候尤當村餘水ハ三貫關
之外一村之餘水無殘程飯詰村へ相通リ申候其外中野新田村餘水是又右堤へ相通右堤古來ヨリ餘水
引受取定申事ニモ有之哉ト乍恐奉存候自先年之通餘水有之候得者飯詰村へ皆々地流共ニ相通申候
向村ヨリ被申掛候事ニ御座候故無據御訴訟申上候間何分飯詰村申上候儀願申上候得者奉最之
様御含申上候此上當村迷惑形無之様ニ何分被仰上被下度奉願上候

右之段々申上候通何分宜被仰上被下度奉願御右御用ニ付本町村貳夜御止宿被成御沙汰之通ヲ以相勤
申候御下々ニ至迄御非分之儀曾テ無御座候爲其兩村肝煎長百姓印形仕差上申候以上

飯詰村 肝煎

幸右 衛門 印

同長 百姓

和右 衛門 印

重郎 右衛門 印

伊右 衛門 印

四郎 右衛門 印

小 貫 忠 助殿

鶴田 多右衛門殿

阿部 清右衛門殿

兩者ノ主張ハ上記ノ如クニシテ、コノ水元ノ歸屬ニ付テハ兩者主張ヲ讓ラズ再三御檢使ノ手ヲ患シ

テ其ノ決定ヲ圖リタルモ確タル裁許ヲ得タル史實無ク數回ニ亘ル取爲替證文ニ於テハ何レモ分水協定ノ取爲替ノミニテ根本問題タル水元ノ歸屬ニ觸レズシテ今日ニ至レリ。

此等主張ニ明カナル如ク、水元ニ付テハ古クヨリ地元村タル金澤中野ガ主要ナル管理ノ權限ヲ有シ、藻草ノ採取等ニ付テ權利ヲ有シ來リタリ。其ノ後灌漑ニ付テ飯詰側ノ主用水源トナリ、其ノ用水使用ハ下流飯詰側ノ使用ニ委ネザルヲ得ザルニ至レルモ、尙地勢的、沿革的ニ金澤中野側ガ優先的地位ヲ有シ、斯ル條件ガ西沼ノ利水ニ附セラレ居ルモノト見ルコトヲ得ベシ。

從ヒテ、西沼用水權ノ使用方法ハ上記ノ地勢的沿革的優先的條件ニ制約セラル、モノニシテ、單ナル管理權ガ一方ニ歸屬スル故ニコノ優先條件ヲ解消セシメ得ト云フヲ得ズ。

却説、池敷ノ所有權關係ハ今日金澤町地積内ニアリ、國ノ所有ニ屬ス。而シテ、明治三十九年十一月九日西沼關係飯詰一圓ノ水田ヲ包含セル飯詰耕地整理組合設立セラル、ヤ、同池ハ飯詰耕地整理地區ニ編入セラレ、其ノ池ノ事實上ノ管理義務ハ耕地整理組合ノ手元ニアリ。

耕地整理地區編入指令

秋田縣指令甲第九七二號

仙北郡飯詰村飯詰字南中島

江畑新之助外三名

明治四十年十月七日願國有地ヲ耕地整理地區内ニ編入ノ件認可ス

明治四十年十月二十九日

秋田縣知事 下 岡 忠 治

耕地整理組合ノ維持管理法上如何ナル範圍ニ迄及ブカハ耕地整理組合ノ法律的性格ノ疑義竝ニ水利ノ管理法規ヲ缺クヲ以テ輕々ニ斷ズルヲ得ザルモ、耕地整理組合ヲ公法人ト解センカ、引水ノ責任ノ歸屬不明ナル場合ハ、耕地整理法ニ規定スル管理ヲ廣義ニ解シ得ト信ズ。

サスレバ、用水權ノ歸屬ガ單ニ池敷ノ歸屬關係、費用負擔關係ノ一ツノミニ依リテ決シ得ラレザルハ勿論ナルモ、他ニ之ヲクツガヘス顯著ナル歸屬ノ事實無キ限り、成法上西沼ノ管理ノ責任主體ヲ用水權ノ主體ト見做スコトヲ得ン。

而シテ、其ノ使用條件ニ付テハ何等規定スルトコロ無キヲ以テ、後述ノ農業水利慣行條件ガ内容トナルモノト見ル可シ。

因ニ、飯詰耕地整理組合ノ概要ヲ記セバ本組合ハ明治三十九年十一月九日設立認可セラレタルモノニシテ、明治四十二年三月工事ニ着手シ、大正十一年三月工事完了セリ、面積四一二町四反餘、組合員百十二人ヲ有スル組合ナリ。

用水源ハ西沼ヲ主用水源トシ、コノ外ニ溜池三ヶ所（水面積約五町步）アリ、西沼掛ハ前記ノ如ク

約百八町歩ナリ。
今日ハ、工事完了セルヲ以テ組合規約第一條ニ規定セル維持管理ヲ專ラ行フモノナリ。
組合規約ハ次ノ如シ。

秋田縣仙北郡飯詰村飯詰耕地整理組合規約

- 第一條 本組合ハ設計書及規約ノ定ムル所ニ從ヒ土地ノ交換分合開墾地目變換區劃形質ノ變更及道路堤塘畦畔溝渠溜池橋梁ノ變更廢置竝ニ維持管理ヲ爲スモノトス
- 第二條 本組合ハ仙北郡飯詰村飯詰耕地整理組合ト稱ス
- 第三條 本組合ノ地區左ノ如シ但シ設計書及現形同記載ノ範圍トス
飯詰村大字飯詰小字北中島、糠淵、矢口、輻町、踏形、槻木、下鶴田、上鶴田、南御前、北御前、中御前、中鶴田、水上、南飯詰、中關、東川原、上谷地、川下谷地、川東君堂、西君堂、西山本、鱒森、碓披、南中島、藤原、小沼ノ一部、東山本ノ一部、南西法寺ノ一部、南谷地ノ一部、東西法寺ノ一部、西川原ノ北飯詰ノ一部、金澤町大字金澤小字西向小屋稜威女中關ノ一部、同町大字金澤中野小字保土森ノ一部（註溜池ハ保土森六六番ナリ）金澤西根村大字金澤西根小字上四ツ屋ノ一部、中四ツ屋ノ一部、下四ツ屋ノ一部、上糠淵ノ一部
- 第四條 本組合ノ事務所ハ秋田縣仙北郡飯詰村大字飯詰小字南中島ニ置ク

- 第五條 本組合ニハ組合長一名、組合副長一名、評議員七名ヲ置ク
- 第六條 本組合役員ノ任期ハ滿四ケ年トス但シ滿期再選ヲ妨ケス
補缺選舉ニヨリ就任シタル役員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス
役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍チ其ノ職務ヲ行フモノトス
- 第七條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ表決權ヲ有スルノ外其所有スル土地面積二町歩以上二町歩ヲ増ス毎ニ一個ノ表決權ヲ加フ但シ一人ノ有スヘキ表決權ノ數ハ表決權總數ノ五分ノ一ヲ超エサルモノトス
- 第八條 組合長ハ耕地整理法第六十一條ニ依リ總會ノ表決ヲ經ントスルトキハ豫メ評議員會ニ諮詢スヘシ
- 第九條 耕地整理法第六十一條第三號、第四號、第六號、第七號、第九號ノ事項ハ之ヲ評議員會ニ委任ス
- 第十條 本組合ノ事務ハ工事、會計、庶務ニ分チ組合長ノ定ムル所ニ依リ組合副長又ハ評議員之ヲ分掌ス
工事係ハ設計書ニ於テ定ムル工事及設備竝工作物其他設備ノ維持管理ニ關スル事務ヲ掌ル
會計係ニ於テハ豫算決算金錢及物品ノ出納ニ關スル事務ヲ掌ル

庶務係ニ於テハ文書ノ調製往復其他ノ係ニ屬セサル事務ヲ掌ル

第十一條 組合長ハ豫算ノ範圍内ニ於テ技術員其ノ他ノ事務員ヲ使用スルコトヲ得

前項技術員ノ任免ハ評議員會ニ諮ルヘシ

第十二條 組合長、組合副長、評議員ニハ出務手當旅費及報酬ヲ支給ス但シ其額ハ總會ニ於テ之ヲ定ム

第十三條 目前用途ナキ金錢ハ總會ニ於テ定メタル銀行又ハ個人ニ預ケ入ル、モノトス

第十四條 工事ハ直營トス但シ評議員會ノ議決ヲ經テ請負ニ付スルコトヲ得

第十五條 工事ノ請負又ハ工事ニ要スル物品ノ購入ハ競争入札ノ法ニ依ルヘシ但シ評議員會ノ議決ヲ經タル時ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

第十六條 耕地整理法第八條及第二十七條ニヨル補償金ノ額ハ被害者ヨリ損害見積書ヲ提出セシメ評議員會ノ議決ヲ經テ組合長之ヲ定ム

第十七條 工事施行中溝渠、堤塘、道路其他工作物ノ敷地トナリタル土地又ハ工用材料置場ニ充テタル土地ニシテ之ヲ利用スルコト能ハサル場合ハ其借貸ヲ見積リ評議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ補償スルモノトス但シ第十九條ノ規定ヲ適用スヘキ時期ニ至リタルモノハ此限りニアラス

第十八條 耕地整理法第三十條第四項ノ告示前ニ於テハ工事ニ妨ナキ限り組合員ハ其所有地ヲ使用

スルコトヲ得但シ従前ノ地域ニ依リ之ヲ使用スルコト能ハサル時ハ組合長ハ相當ナル使用區域ヲ指定スルモノトス

第十九條 前條ニ依リ使用スル土地ハ工事施行済ノ土地ニシテ其收益力之ニ對スル従前ノ土地ノ收益ト異ナル場合ハ其ノ借貸ノ差ヲ標準トシテ評議員會ノ議決ヲ經テ補償金ヲ徵收又ハ交附ス

第二十條 本組合ノ費用ハ豫算ノ定ムル所ニ從ヒ従前ノ土地ノ評定價格ヲ標準トシテ分賦ス但シ換地交付後ニ於テハ清算金ヲ徵收セラレタルモノニアリテハ換地ノ評定價格ヨリ之ヲ議シ其ノ交付ヲ受ケタルモノニアリテハ之ヲ加ヘタル額ヲ標準トス

換地交付後整理施行ノ結果生シタル工作物ノ維持整理ニ要スル費用ハ豫算ノ定ムル所ニ依リ整理後耕地全部ノ評定價格ニ分賦ス

第二十一條 組合費納付ノ期日及場所ハ組合長之ヲ定メ十五日以前ニ組合員ニ通知スルモノトス

第二十二條 組合員ニシテ組合費又ハ第十九條ノ補償金ノ納付ヲ怠リタルトキハ其ノ延滞日數ニ應シテ金百圓ニ付壹日金五錢ノ延滞利子ヲ徵收ス

第二十三條 換地ヲ交付スルニハ従前ノ地目面積評定等位ヲ標準トシ可成従前ノ場所ニ於テ交付スルモノトス但シ各組合員ニ交付スル換地總面積ハ可成従前ノ土地ノ總面積ニ比例セシムルモノトス

第二十四條 換地交付ニ對シ徵收又ハ交付スヘキ清算金額ハ從前ノ土地ノ評定價格總數ニ對スル換地ノ評定價格總額ノ比ヲ從前ノ土地ノ評定價格ニ乗シタル額ト換地ノ評定價格ノ差額トス

第二十五條 從前ノ土地各筆ノ價額並ニ換地トシテ交付スヘキ土地ノ價額及等位ハ評議員會ニ諮問シ組合長是ヲ評定シ耕地整理法第五十條ノ條件ヲ具備スル總會ノ議決ヲ經ヘシ

第二十六條 組合員ニシテ換地取替ニ誤謬アリト認ムル場合ニハ換地交付ノ日ヨリ十日以内ニ再調査ヲ請求スルコトヲ得但シ再調査ノ上誤謬ナキ時ハ其調査費ハ請求者ノ負擔トス

第二十七條 工作物改備ノ維持整理ニ付テハ本規約ニ規定セルノ外總會ノ議決ヲ經テ細則ヲ定ムルモノトス

三、農業水利使用條件

西沼ノ管理内容ヲ爲ス管理方法並ニ使用方法ニ關シテハ從來ノ農業水利慣行ヲ基準ニ決セサル可カラズ。

農業水利慣行ハ如何ナル使用條件ヲ附スヤ。西沼ノ水利使用條件ニ付テハ金澤中野對飯詰ノ水利交渉ノ結果取替セル證文ニ依リ決セラレ居レリ。

西沼ノ水利交渉ハ飯詰側ニ於テ同地區ノ旱魃ヲ防グ爲沼ノ落口ヲ高メテ貯水セントスルニ對シ金澤中野側ハ貯水ニ依リ沿岸水田ガ滯水シ植付不能ニ陥ルコトヲ慮リ落口ヲ破壊セルコトニ基キ發生シ、飯詰ハ之ヲ御上ニ訴ヘ、御上ハ金澤中野ノ意見ヲ徵セルニ、金澤中野側ハ從來沼ノ聊ノ普請タリトモ金澤ノ立會ヲ求メ居タリシニ無斷落口ヲ高メタリト難ジ、飯詰方ノ爲ニ金澤ノ水田ヲ犠牲トスルコトハ不可ナリトセリ。

而シテ、關口ノ高サニ就テハ、確タル寸法ノ規定ヲ必要トシ交渉ノ都度「現在ノ高サハ以前ノ高サヨリ高キヲ以テ迷惑ナリ」トシ、「無據、現在ノ高丈ノ餘水ヲ流スモ」「今後關口ニ關シ規定スルコト」ヲ上ニ願ヘリ。金澤中野ヨリ上ヨリノ照會ニ對スル回答並ニ之ニ對スル飯詰側ノ願狀ハ次ノ如シ。

乍恐口上書ヲ以奉願候御事

一、飯詰村御高ノ内山本ト申字所ノ御田地水元先年當村地形ノ内借請堤取立罷有候ニ付先年來ヨリ聊ノ普請仕候トモ當村御田地ヘ指障ニ不相成候様立會普請爲致罷在候右堤除關先年來ヨリ地水ノ外餘水ノ分明通ニ致罷在候其譯者餘水ノ分溜置候テハ當村御田地ヘ指障ニ相成候故根元立會ノ上相定候ニ付先年ヨリ落シ來リ候然處向村如何之指心得ニヤ當村ノ立會モナク右除關土手同様留切ニ致其上新除ヲ高關ニ堀立候ニ付當村御田地水タニ罷成植仕付候御田地ヲ水汚ニ罷成植付申サズ御田地ハ植付兼迷惑千萬ニ奉存候故右除關破可申之處向村ニオイテ晝夜多人數持同具ニテ番致

罷有候得バ當村ニテ破候テハ怪我仕候義眼前ノ事ニモ相見得候ニ付當村郷人ヲ以テ右除關早々ニ取拂可致再應申遣候處結局兩村立會ニ罷成向村申條ニハ元除關取拂候テハ御田水不足仕候故取拂カネ候趣ニ御座候依而申聞候ハ其御村水不足仕候連當村迷惑モ不願除關留切リ候段一圓相當リ不申水不足致御迷惑ニ候ハバ沼手入致水溜置候得バ水不足致間敷沼敷荒地同様ニ致シ明通ノ除關留切リ水溜置杯ト申義一圓相當リ不申是迄聊ノ普請仕候共當村得立會此度ニ限り無立會新除堀立候段相分リ不申候故早々御譯被成申聞候處元除拂候而ハ水不足仕候故取拂カネ候猶新除連モ是マデ普請仕候節得立會候覺無之挨拶ニ候得バ當村危急ノ迷惑形長々指置可申様無之無據立會ノ場所ニテ元除關相破リ候右ニテ向村御訴申上候ヤ當村御才足故罷出候處被仰出候ハ如何ノ譯ニテ右除關破リ候ヤ御尋ニ御座候故前文ノ譯柄奉申上候處至極尤ノ事ニ候飯詰村才足致シ候間暫時ノ内扣ヘ候様ニ被仰付候故扣罷在候又々御才足ニ付罷出候被仰出候ハ飯詰村段々取尋候處無到來ニ新關堀立候義私共心得仕候趣尙元除ノ義ハ明通ノ事ニ被仰付候乍去其村御田地ヘ障リ無之候斟酌仕候様被仰付候故奉願候ハ先年來ヨリ明通ノ除關ニ候得共向村不心得ニテ個様ノ出入出來ニ御座候以來ノ儀モ被案候事故向村ヨリ書付申受候様御取扱ヒ成下度奉願上候處被仰出候ハ後ニ其村ヨリ得立會普請仕候事ニ候得バ書付迄ニモ有之間敷被仰付候故奉畏候其後飯詰村ヨリ立會吳々候様申參候故當村郷人參リ候處兩村立會ノ場所ニテ相破候元除關立會モナク又々土手同様普請仕候故申聞

候ハ當村ヘ立會願申出候テ立會モナキ以前ニ個様之普請仕候義心得申サズ右除關先年通リ明通ノ事ニ被仰付候ヘバケ様留切リ爲致候儀且而不相成併當村御田地ヘ障リ無之様得立會御斟酌ニ候儀ハ何分ノ事ニ候得共前文之通ニ候得者當村指障ニ御座候故會而不相成申聞候處向村申條ニハ元除關ハ留切リ可致新除ヨリ水落シ候様被仰付候故留置候間違之筋有之候ハ御窮可申上何程申聞候テモ右之通ニ候得バ無據右形リ奉申上候處被仰出候ハ飯詰村難心得致方併同村才足致取扱可致故一兩日控候様被仰付候故迷惑ニ候得共奉畏候其後罷出候處飯詰村ニテ是非見分致吳候趣ニ候故明日右場所ヘ參リ可申被仰付候故罷出候處双方御見分ノ上被仰付候ハ新關者潰不申元除ヨリ水落シ候様被仰付候併其村御田地ニ障リ無之處ハ成尺斟酌致候様ニ被仰付候先年通ニ無之迷惑有之候得共無據只今新除ヨリ落候丈ノ餘水元除ヨリ落シ新除潰候儀ニ候得バ斟酌可仕趣御答奉申上候處後ニ口論無之様書付ヲ以兩村ヘ被仰渡候趣被仰付候故奉畏候又々被仰出候ハ飯詰村不承知斷リ申出候故願置ク以可申出被仰付此御時節御苦柄奉願上候ハ驚恐至極ニ奉存候故前文之通り當村可成斟酌仕候得共飯詰村不承知斷リ故無據奉願上候元除關之儀ハ先年通リ被成下新除之儀ハ潰置尙諸普請是迄之通當村得立會指障不相成普請仕候様被成下度奉願上候根元新除相立候ヨリケ様ノ出入出來可仕ト奉存候故御潰被成下度奉願上候左候得バ自元除關ヨリ餘水可落申上奉存候何卒御憐愍ヲ以當村迷惑無之様御取扱被成下度幾重ニモ奉願上候

右之趣何分宜敷様被仰上願之通ニ被成下度偏ニ奉願上候

以上

金澤中野村肝煎

渡切兵右衛門

同 清兵衛

天保七年申五月

長百姓 長兵衛

同 辰太郎

同 治兵衛

同 太郎左衛門

同 助

小貫 織江殿

乍恐書付ヲ以奉申上候

當村之内字處山本御田地水元大沼郷人共心得ヲ以新水除堀候ニ付金澤中野村係合出來無據御訴奉申上候處此度御見分被成候右新水除相理金澤中野村同中野新田村右兩村ノ御田地障リ不相成候様大水除ヨリ水落可申様ニ被仰付奉畏候右沼ノ儀ハ段々埃埋ニテ追々御願奉申上候儀御座候得共重キ被仰含ニ付一ト先奉畏候爲其乍恐書付奉呈上候

以上

飯詰村肝煎

長百姓 長右衛門印

同 小右衛門印

丙申五月

善 吉印

重 吉印

小貫

織江様

右書面之通御請書申出ニ而其村へ申含候處承服之趣申出ニ付寫書ヲ以相渡申候 以上

小貫 織江印

金澤中野村

同 中野村

肝煎

殿

斯夕落口ノ高サヲ一定トスルコトハ何レノ側モ之ヲ要望セシコトナレバ、遂ニ天保七年申五月兩者

ニ於テ證文ヲ取替シ次ノ如ク協定セリ。
其ノ協定ノ骨子ヲ掲グレバ、西沼ノ飯詰ヘノ落口ニ定杭ヲ打チ其ノ定木丈ケ水ヲ留メ得ルコトニシ、其以上ハ留メ得ザルコト竝ニ池ノ普請、藻刈ハ双方立會ノ上ニテ爲スコト等ヲ協定シ、之ガ其ノ後ノ西沼ノ管理ノ準則トナレルモノナリ。
證文ノ全文ハ次ノ如シ。

爲取替證文之事

當村水元大沼之儀ニ付其村形ト爭論相及御檢使願申立候處此度信太理兵衛様岩谷惣助様御廻在御見分ノ上段々被仰含双方御更致候上御差圖ニハ爲取替左之通

一、當村水元大沼除關口南北貳ヶ處共定木トシテ兩岩エ杭壹本宛被打置右定木丈ケ留上水保候様被仰付候事

但シ洪水之節假留取拂候跡ハ定木ノ通留上候節者立會ニ不相及定木朽損取替候節ハ双方立會可申事

一、大沼埃上ゲ竝別段之普請致候節双方立會可申事

一、土用中藻刈取候得者追々根絶候可故今年ヨリ刈取申候其節双方立會可申事
但シ刈取ハ藻其村ニテ自由可致候事

右之通相違無御座候爲後日之取替證文如件

飯詰村肝煎

江畑新九郎

同 長百姓 與 三郎

小右衛門

天保七年申五月二十八日

金澤中野村

肝煎

渡切兵右衛門殿

同 清兵衛殿

同 中野新田村

肝煎 重五郎殿

此ノ水利使用ノ準則ハ異論ナク兩當事者ニヨリ確守セラレ、定木ヨリ高ク堰止メズ、普請ノ時モ兩者立會ノ上支障無キ様處理セラレ來リタルモ、尙湯水ノ時ニ屢々紛議ヲカモセシコトアリ。
上述ノ如ク、西沼ハ水深約五尺位ニシテ、塵埃ニヨリ年々沼底ガ淺クナル傾向アリ。從ヒテ、飯詰

ニ於テ其ノ用水源ヲ維持スルタメニ底淺ヒ或ハ堰上ダラスル必要切ナルモノアリ。安政年間大旱魃ニ際シ水量不足セバ必ず旱害ヲ享クル次第ヲ上ニ願上ゲ、御檢使見廻リ、試ミニ五ヶ年間關口ヲ定木ヨリ五寸高メシムルコトヲ仰付金澤中野モ亦秋押詰リ埃揚ダ等ノ行届カザルヲ見テ無據承知セシコトアリ。

其後年限來リタルニ飯詰側ハ元形ニ復舊セズ金澤側ハ復舊方ヲ上ニ願出タリ。

而ルニ、上ニ於テ、飯詰村ノ在來ノ用水堰止メニテモ用水不充ナルヲ觀テ、飯詰村願ノ通り五寸定木高メヲ永久据置クコトヲ仰付ケラレタリ。金澤側ハ更ニ願出デ、既ニ五ヶ年間不尠浸水シ甚ダ迷惑ヲ蒙リタルヲ以テ再ビ斯ルコトナキヲ望ミ、水上ノ水田ヲ犧牲ニ下流ノ灌漑ヲ圖リ得ル定無キ以上復舊セラレ度シト申出タリ。金澤中野ノ願上書ハ次ノ如シ。

乍恐口上書ヲ以奉願上候御事

- 一、飯詰村之内山本四百石水本大沼之儀金澤中野村地形ニテ右沼上通り中野村御本田竝御藏入高中野新田村御田地共不少有之右大沼兩土手竝除關トモ少々高メ候得者兩村御田地ニ水碓相成候ニ付聊カ普請ノ節モ三ヶ村立會御田地障無之様普請罷有候儀往古ヨリ定規ニ御座候
- 一、先年於飯詰無到來新除關之段高堀之有來候除關潰候ニ付兩村御田地水碓相成掛合相生ジ御檢使信田理兵衛様御組合御見分新除潰シ是迄有來リ候除口少々高ク致候故兩村斟酌可致以來右ヨリ高

ク致間敷重被仰含無據御請申上候處沼端壹枚通り水碓相成候ニ付人々土藪等引配リ地高致於村方手傳人足持出シ人定メヲ以テ漸ク御田地愁凌仕格罷有候其節向後異論無之タメ除口貳ヶ處南北へ御定杭御据被成置其後勞煩無之難有奉存候

- 一、大沼兩土手之儀聊普請致候而モ三ヶ村立會可申處先年無到來盛土致候ヨリ掛合相生ジ御檢使岩屋彦右衛門様御組合御見分森土取除キ兩土手南北四ヶ處へ御定盤御据成置以來右ヨリ高ク相成不申尙聊普請ノ時モ先年ノ通り三ヶ村立會ノ上御田地差障無之様可致爲取替證文致其後異論無之難有存候前條取極聊異論無之處去ル丑年稀成大干割ニ付水量無之而ハ御田地助成不相成飯詰村ヨリ願上候由ニテ御檢使坂本吉左衛門様御組合御廻在五ヶ年中爲御試除口五寸高メサセ可申被仰付候仍而先年ヨリノ譯柄様々ト申上候處ソレハ無餘儀事ニ候得共今年ノ儀稀成事ニテ明年是非水量無之テハ御田地仕格不相成尙今年者秋押詰リ埃揚ダ新堤等手配モ不行届仍而御試五寸高ク爲致可申被仰含無據御請奉申上候御檢使様方被仰五寸留上候迎御田地格別愁ヒ有之間敷被仰尙御試之事故奉畏候處地バン平ノタメカ思ノ外莫大水碓相成田數百五拾枚餘水下相成申候ニ付人々誠ニ當惑仕候乍去年限有之候故稻植付兼候得共御收納無滯御皆濟折角年限待受申候今年年限ニハ元形ニ被成下度尤モ飯詰村へ度々願申入候得共承知無之此上村方相對ヲ以テ御苦柄相ハブケ候事迎モ及兼候故御時節柄奉恐入候得共無據書裁ヲ以奉申上候處へ御檢使様ヨリ御出足相成向村ヨリ願出之趣色

々被仰合候乍去前々奉申上候通り沼バダ水碓御本田竝御開トモ廣大之場所符人村方トモ折角年限待受申候是非元形御定被成置候御定規通り不相成候而ハ極窮御百姓共必止ト行詰之外無之無據奉願上候

一、去丑年諸村一統ノ干割其以前御定被成置候御定杭之通りニテ双方愁無之御田地仕格罷在候乍去何方村オキテガ水滿第一御座候五ヶ年以前御扱様臨時御取扱ノ節モ於飯詰村兩村エ斯勞煩掛候ハ畢竟大沼 堀上ケ滯ヨリ斯迷惑掛リ候故明年是非大沼埃上ケ又者大沼下通りニ森上之能場處有之右エ新堤築立候ヤ兩村御田地迷惑無之様可致爲取替書モ有之候

一、金澤中野村同新田村御尋被成置候者飯詰村願書ニ相見得候通り大沼之儀隣村事故見計モ有之若少々早魃ニモ干割ニ相成御田地守溝形ニ相成リ大切ノ事ニ候間飯詰村願書之通五寸定木相高メ永久据置ニ而如何ニ候哉御尋御座候トモ御見分被成置候通り兩村御本田竝御開トモ五ヶ年御試中不少水碓相成迷惑可申様無之殊ニ此御時節開發御忠進可申上折柄荒地御苦柄筋村方符人トモ奉恐々奉前申上候通り先年御規定御据被置候通り御試五寸引下ケ被成下度願上候處御申被成候ハ尤之事ニ候トモ飯詰四百石餘之御田地其本村兩村少分ノ水高殊ニ水碓分御張紙被成置候ハ、符人格別迷惑有之間敷太田御田地疎田ニ致少高御田地廉田ニ不相成候様取扱ト申儀不相成事故多少御高ノ儀勘辦致五寸定木相高メ永久据置候間御受可申上被仰合御座候トモ前書申上候通り左様

御取扱相成候而ハ符人ハ不申及村方迷惑無之様御取扱奉願候處御申被成候ハ沼敷其元兩村之地方御開ニ候トモ本田水上之事ニ候得バ右水掛リ御田地水不足致候ハ、堤畔築足水保宜敷致水不足無之様可致儀ニ候御本田水上自由不相成候儀ハ古來ヨリノ定等有之候ヤ若右様ノ定書有之候ハ、可差出被仰御座候トモ年久事故右書附等相見得不申候トモ往古ヨリ何普請致候テモ三ヶ村立會兩村御本田御本田竝御田地障リ無之様普請罷有候儀先年ヨリ仕來リニ御座候開田致御高附相成候ニ付障リノ儀無之ヤニ御座候トモ全左様無之逸々奉入御見分候通り新開少分御本田御本田竝數筆有之候段々申上候處如何程申諭候テモ承腹不致候ヘ者此上御上之御差揮次第致ヨリ外無之段々御申御座候ユヘ御答申上候ハ何分此上ハ信田理兵衛様御据被成置候御定木通りニ被成下御張紙不相成候様御取扱被成下度願上候何レ追而被仰渡候母々被仰合奉畏候
右段々申上候通りニ相違無御座候爲其肝煎長百姓印形差上申候
安政四年巳九月

以上

- 金澤中野村
- 肝煎 渡部兵右衛門
- 同 伊藤清兵衛
- 長百姓 伊藤清左衛門

熊田五郎

長之助

同 中野新田村

肝煎 宇太郎

長百性 與七郎

幸丸 兵衛殿

岩屋 清平殿

澤畑 佐良 治殿

兩者ノ交渉ハ未解決ノ儘ニ置カレタルトコロ、其ノ後西沼ノ水澤山ニナリ金澤中野ノ田仕付兼ネ、水落シヲ飯詰側ニ要求セシニ、沼役留守ニテ關口取拂ハザリシコトアリ。金澤側ハ大舉呼寄り自ラ關口ニ到リ四ヶ所ノ留所堀ヲ破壊シタル記録アリ。

又、嘉永六年ノ古文書ニハ「今年非常ノ旱魃ニ付無殘日割、奥田ニ相成明年植仕付方無覺束ニ付信太理兵衛様御組合ニテ御取扱定木被据置候ヨリ高ク定木被据候様ニ御取扱成下度尙金澤中野村同中野新田村御田地水碓ニ相成候分御張紙成下度願上候」ト飯詰ヨリ申出、揚グ土、立會普請等ニ付取替ヲナシ、向壹ヶ年今五寸高メ都合一尺高クスルコトヲ示談セシ記録アリ。

而シテ永久的ノ定木ノ高サニ付テハ之ヲ從來通りノ定木ノ高サトスルコトニ飯詰ヨリ一札ヲ下リ左ノ條件ニテ同嘉永之年解決セリト謂フ。

一、此度除口一尺留上候ニ付兩村御田地水下荒田ニ相成候分一坪ニ付稻刈數丈ケ水碓跡仕付作取不足仕候分近所作合ニ準ジ迷惑分明年一ヶ年限急度御渡可申但右五寸引上候分明年益後ニ兩村御立會引下可申定

二、除口一尺留上候ニ付土手モ御定規ヨリ五寸高ク盛土仕候右分明年益後除口同様當村人足ニテ取除可申

三、除口一尺留上ニ付兩村御田地水下ニ相成候分埃埋芦藻生荒田ニ相成可申依而明後年ヨリ熟田致候迄此方ヨリ諸人足無殘差出可申定

上記關口破壊ノ記録竝嘉永六年示談ノ古文書、同飯詰ヨリ差出セシ解決條件ノ一札ハ次ノ如シ。

當五月申飯詰村ヨリ御願申上候ハ昨十二月金澤中野村ヨリ太郎左衛門治兵衛同中野新田村ヨリ宮藏右三人ヲ以右兩村ヨリ申參リ候ハ其村水元大沼水澤山ニテ兩村御田地仕付カネ候場處有之候故水落可申様ニ申參リ候ニ付此方ニテ挨拶仕候ハ今月ハ沼役小右衛門モ留主候故當人歸迄持扣可申様申聞候處右三人ノ申事ニハ延日ニ相成候テハ不容易迷惑有之候故今晚中ニモ水落候様申事ニ候此方ニテ挨拶仕候ハ小右衛門只今ニモ歸候ヘバ則立會ノ上水落可申候故相成候ハ、明早朝御田地迷惑無之様

上水切り落可申様申聞候處右三人之者共右心得ニテ歸リ申候

一、八月時分小右衛門歸候故兩村へ人夫遣候處金澤中野村ヨリ兩人ヲ以只今大沼水落可申故郷人右沼端へ扣居ト申參リ候當村郷人共罷出候テ兩村御田地ニ障リ不相成候様上水切落候事申聞候然處肝煎清兵衛申事ニハ上水ニテ埒明不申大除口取拂不申候得者不相成趣申事ニ候此方ニテ挨拶仕候ハ大除口取拂候事ハ莫大ノ水不足ニ相成早魃之備へモ不相成候故大除口取拂カネ候趣且其村御田地ニ障リ不相成候得者大除口取拂不申候而モ宜可有之申聞候然處肝煎清兵衛申事ニハ水所ニハ無之當村ニ無斷除口取候故堀破ルト申事ニ候此方ニテ挨拶仕候ハ是迄除口等相立候逆斷致候事無之申聞候處大勢呼寄四ヶ所之留所堀破申候然者當村御田地莫大ニ水押ニ相成候當作ノ儀參リ可申ヤ當惑至極ニ奉存候且又大沼之義ハ四百石程之水元ニテ外ニ水上上連モ無之春中ヨリ溜水不致候テハ若早魃ニ相成候得者四百石程ノ御田地亡所致候外無之猶又右之仕形ニテハ御田地仕格可致様無之乍恐無據奉願上候間御吟味ヲ以愈御檢使被下置御見分ノ上一村相立候様ト被下置度偏ニ奉願上候

一、右之通り願申立候處此度御手前様方御廻在六郷御役屋ニオイテ飯詰村御吟味被成置候テ大沼ノ義ハ何方ニテ四百石ノ田地本田開共有之候也猶沼敷方限リモ可有之候處金澤中野同新田兩村田地ニ差障候故水落可申兩村ヨリ申參候趣如何ノ譯柄ニ候哉旁御吟味モ御座候郷人共御答申上候ハ大

沼ノ儀ハ金澤中野地形ニテ右掛リ高當村枝郷山本其外例之四百石程御本田地ニ御座候先年埃上ケ手入モ不仕候哉莫大ノ埃埃埋リ草生茂リ水持モ不足致候ニ付近年願申立候拜領時々埃上仕候得共行届カネ昨年加水堤築立申候猶今年早魃ニ可有之申唱ニ御座候故大沼除ニ留切候處兩村御田地へ水碓候ニ付除口モ押破過半水落當惑至極ニ御座候早速御役屋へ御訴へ申上候處御請合小野織江様御見分申兩村迷惑無之様御指圖ヲ以除口假普請致罷在候段御答申上候處尙又御尋被成置候ハ大沼除破候ニ付御田地水押ニ相成候事ニ付御尋ニ御座候次第ニ候得共早々手入仕候處此節相直リ申候段御答申上候

一、金澤中野村同新田村郷人共御尋被成置候ハ飯詰ノ本田地大沼ノ儀ハ中野村地形ノ由ニ有之自然水不足ニ付除口留切候處各村田地ニ水碓候ニ付堀破候處小野織江取扱ニテ假留爲致候始末如何ノ次第ニ候哉御吟味ニ御座候ニ付御答申上候ハ大沼ノ儀ハ飯詰村御本田地ニ相違無御座候得共沼敷方除土手有之殊ニ除口兩處有之是非當村御田地ニ指障リ候事モ無之候處當春當村へ到來モ無之普請仕大除留切り候ユヘ格別水高ニ相成御田地ニ水碓候ヨリ兩村御田地水腐ニ相成候故堀破リ候處御詰合様御見分ノ上迷惑無之限リ假留致候様被仰付候ニ付留上候テモ不苦候段右村へ申談候得共如何ノ譯ニ候哉留上ケ不致其儘ニ指置候何卒右水除留切之御取扱被成下度段押々申上候

一、飯詰村御尋ネ被成置候ハ先年ヨリ大除ト申唱候處明通シニテ留切候筋無之猶沼敷方限之土手モ有之中野村中野新田付申出候大方限へ不構除口留切殊ニ兩村へモ案内ナク新ニ除口堀候由旁難心得致方ニ候趣御申ニ御座候得トモ申上候ハ大除口明通シト兩村申上候得共大沼ノ儀ニハ無御座先年ヨリ假留仕水溜置申候處相違無御座洪水ノ節ハ取拂候ニ付段々深堀ニ相成候ニ付前度前段除口堀上除ト申唱候全以當春新ニ堀候趣ニ申上候義ト奉存候且先頃御請合様御取扱ニテ兩村御田地モ不相障候趣假留不致被仰付候得共兩村ニテ元々通りナラバ爲留候事モ不相成趣申聞ニ致候而モ上流手ニ及カネ其形ニ指置候段申上候尙又御申ニハ兩村ニテ田地へ不水障義ニ候得者假令土ニテモ不苦候故留候様申聞候得トモ其村方如何心得候ヤ留不申ヨリ四百石ノ水元ユへ留切不申候得ハ御田地仕格形ニ相抱候趣ニテ留切候程之事ト堀破水落候故兩村ニテ申聞有之候共御指圖通り留上可申管却而兩村ニテ土不苦候ト迄申聞候得共一寸切ラル、トモ二寸切ラル、トモ同事杯ト申其形ニ水落候趣前後不相及致方文以難心得事ニ候趣御吟味ニ御座候此儀ハ郷人共一統心得ノ事ニハ無之沼守一存ニテ不法ノ儀申聞候大切ノ水ニ候段言以恐入一言ノ申上方無之前段御訴譯申上候段御答申上候

一、金澤中野村同新田村へ御尋被成置候ハ飯詰村四百石御田地仕格形ニ相抱大沼除ニ如何ノ存寄ニテ堀破リ候哉御尋ネニ御座候前ニモ申上候通り大沼敷方限リモ有之且明通ノ除口留切兩村御田地

ハ水碓リ候故堀明候様申遣候得共右村ニテ其儀無之候故堀破リ候段申上候處猶又御吟味被成置候ハ向村へ幾度申遣候テモ不取合儀モ有之候へトモ破候杯ト申出候事モ不仕之義不致様ニ申諭御役屋へ申出御指揮ヲ以可申候處肝煎郷人ニテ理不盡ノ取計致候段心得カタキ事候右等之義不心得其方共ニモ有之間敷若飯詰村之者共手向致怪我等有之候而ハ不慮之御苦柄ニ相成不次第候此儀如何ト御吟味ニ御座候郷人トモ申上候ハ明通シノ除モ留切兩村御田地水碓ト相成事故前後モ不願堀破候處御吟味ニ預リ一言申開キ無之恐入候段御答申上候且飯詰村ニ願出ニ肝煎清兵衛申事ニハ水所ニハ無之兩村ニ斷無之除口取候故堀砌候ト有之候得共上ハ除ハ地盤モ高ク早速水落不申候故大除砦可申尤モ新除ノ義ハ兩村へ到來無之堀候事故追々埋置可申ト申請候段申上候

一、右段々申上候處場處御見分可被成ニ付村ニ郷人トモ御先立仕候處大沼除口開ニ御田地水碓リノ場處トモ御見分ノ上被仰含候ハ大沼ノ儀ハ廣大ノ場處ニ候得共多分埃埋リ水保チ不足ニモ相見得候故見分形ヲ以大除口へ定木据置候故右定木丈ケ留置可申金澤中野村同新田村御田地水碓候事モ可有之追々廻在ノ節堤下御張紙可致候猶飯詰村ニテ上ハ除ト申處埋置可申被仰含三ヶ村共御請申上候所双方異議ナク御請致候上ハ猶モ後來無異論爲取替手形可致被仰含奉畏候

右段々御答申上候通り相違無御座候
爲其肝煎長百姓印形付指上申候

飯詰村肝煎

江畑新左衛門

長百姓

與三郎

小右衛門

金澤中野村肝煎

渡部兵右衛門

同

清兵衛

長百姓

太郎左衛門

長兵衛

新田村肝煎

重五郎

長百姓

卯太郎

信太理兵衛殿

岩屋惣助殿

右之通り御檢使様へ同日差上候 拜

岩屋良兵衛ヲ以願申上候ハ當村ノ内字處山本大沼ノ儀ハ御本田御本田竝四百石餘之水元ニ御座候處自然埃埋ニ相成水保不足仕候ニ付度々御人足代拜借仕候而手入仕罷有候得共右沼敷廣大ノ場處ニ御座候間手入行届兼且去ル天保七年申年中大沼除ケ口止メ上ケ形之儀ニ付金澤中野村同中野新田村ト掛合ニ相成候ニ付愈御檢使様奉願上候處信太理兵衛様岩屋惣助様御回在被成置双方御吟味ノ上右沼留切エ御定木御据被成下其後モ御人足代等拜領仕候而埃上ケ手入仕候得共年増ニ水保不足ニ相成少々ノ旱魃ニモ御田地干割仕候處今年ノ儀ハ稀ナル大旱魃ニ付御田地無殘干割ニ相成申候扱又明年ノ儀ハ春農ヨリ水ズクメニ無之候テハ干割之御田地植仕付候様無之倍々ノ水入増可申此節ヨリ當惑能候候右御沼之儀ハ外ニ水元池モ無之雪解水ノ頃ツ、メ置候而已ニ御座候得バ明春御定木丈ケ堤ヲ置候池干割ノ御田地守格可仕様無之奉存候間乍恐當秋廻御檢使様被下置御見分ノ上沼端水イカリニ相成候金澤中野村同中野新田村兩村開御田地御張紙被成下大沼土手竝除口共ニ高留ニ仕十分之水堤メ候様被仰付四百石餘之干割田守格相成候様御助被成度願上候

一、右之通願申上候ニ付飯詰村御尋被成置候ハ大沼水掛リ高四百石餘ノ御田地今年非常之旱魃ニ付無殘日割奥田ニ相成明年植仕付方無覺束ニ付信太理兵衛様御組合ニテ御取扱定木被据置候ヨリ高ク定木被据置候様ニ御取扱被成下度尙金澤中野村同中野新田村御田地水碓ニ相成候分御張紙被成下度願申上候

一、右之通飯詰村ヨリ願申上候金澤中野村同新田村ニ被仰含候ハ前文飯詰村申立之通り信田理兵衛組合ニ而据置候定木ヨリ五寸高ク据置五ヶ年中御試被成置候段被仰含候處兩村共御更申上候故飯詰村へ右之通り申諭候處三ヶ村共御更ニ相成候故三ヶ村申會爲取替證文可致被仰含奉畏候尙三ヶ村へ被仰含候ハ双方立會ノ上定木五寸高ク据置可申候右大沼之儀ハ半通位蒲ニテ埃理リ相成候故右取拂方三ヶ村へ申渡候處孰レ三ヶ村相談仕御役屋ニオキテ申上度奉存候兩村申上候ハ土手貳尺通り右揚土致其外向寄田地へ土揚致候處双方郷人立會見斗得爲揚ヶ候事ニ三ヶ村共御更申上候故是又爲取替證文可致被仰含奉畏候

一、定木五寸高ク被据置候ハ土手モ五寸高ク被成置候儀ニ候得共其處此處低キ處有之候ハ三ヶ村立會見分ノ上取扱可申被仰含候

一、右大沼定木ノ儀五寸高ク被据置候得ハ金澤中野村同新田村御田地へ水碓リニ相成候モ難計追而回在之節御張紙可被成置候段被仰含奉畏候

右段々申上候通相違無御座候爲其肝煎長百姓印形仕奉呈上候

同 長百姓 善 吉

小右衛門 作

長 三郎

與 八

仁右衛門

三郎右衛門

金澤中野村 肝煎

渡部兵右衛門

清 兵衛

同 長百姓 伊藤清右衛門

助 七

龜 松

熊五郎

金澤中野新田村

肝煎

宇太郎

同長百姓

與七郎

嘉永六年

丑十月

坂本吉左衛門殿

八木下矢柄殿

幸丸半兵衛殿

一、山本大沼之儀此度御檢使坂本吉左衛門様八木下矢柄様幸丸半兵衛様御回在前文連名ニテ一札指上候通相極メ候ニ相違無御座候

一、半通り位蒲ニテ埃埋ニ相成候故取拂可申被仰付此儀ハ其時之申合次第金澤中野村飯詰村之内ニ

テ刈取可申事

右之通取極メ相違無御座候

以上

飯詰村

肝煎

江畑宇一郎

善吉

小右衛門

長作

與三郎

與八

仁右衛門

三郎右衛門

嘉永六年丑十月

金澤中野村

肝煎

渡部兵右衛門殿

同清兵衛殿

同中野村長百姓宛中

金澤中野新田村

肝煎

宇太郎殿

同 長百姓宛中

一 札

當村山本御本田四百石水上大沼之儀ハ其村地形ニ而右上段ニ兩村御田地不少有之候右ハ水碓不相成
様先年御檢使信田理兵衛様御組合御取扱ニ而除口南北貳ヶ所御定木御据成下兩土手ヲ御檢使岩屋彦
右衛門様御組合御取扱ニテ南北四ヶ所へ御定盤御据被成下候以來右ヨリ高ク不相成様御定規ニ御座
候然ル所今年稀成干魃ニ而明年水量サ無之而ハ御田地仕格不相成無據御上様ニ願申上御檢使坂本吉
左衛門様御組合入御檢分ニ此處五ヶ年中御試除口五寸高ク候事被仰付難有仕合ニ奉存候得共右ニテ
明年築足申不間布向壹ヶ年今五寸高メ申度御擔様へ願申上候處示談可致被仰付候得共都合一尺高ク
相成候テハ廣大ノ水ニテ兩村御田地不少水下ニ相成御迷惑ノ由少シモ餘儀ナキ事ニ候當村ニテ今掛
水不足致候儀畢竟大沼埃上無滯ヨウ兩村ニ斯願申上候故明年ハ大沼下へ好キ場所モ有之故是非新堤
築立候也大沼埃上手入仕候也兩村御田地迷惑無之様ニ御檢使様御居被下候外除口五寸ノ定木ハ勿論
此度築足候土手五寸共ニ急度取拂可申候個條左之通

一、此度除口壹尺留上候ニ付兩村御田地水下荒田ニ相成分一坪ニ付稻刈數丈ケ水碓跡仕付作取不足
仕候分近所作合ニ準シ迷惑分明年一ヶ年限急度相渡可申但右玉寸引上候分明年益後ニ兩村御立會
引下可申定

一、除口一尺留上候ニ付土手モ御定規ヨリ五寸高ク盛土仕候右分明年益後除口同様當村人足ニテ取
除可申

一、除口一尺留上ニ付兩村御田地水下ニ相成候分埃埋芦藻生荒田ニ相成可申依而明後年ヨリ熟田致
候迄此方ヨリ諸人足無殘差出可申定

右之通此度御擔様御取扱ヲ以テ三ヶ村和談取極ノ上如何様ノ儀出來仕候テモ前條取極ノ儀ニ付少シ
モ異論申間敷爲後證御擔様奥印申請一札如件

飯詰村

肝煎

江畑宇一郎印

長百姓 長 作印

同 善 吉印

同 興 八印

同 與三郎印
 同 仁右衛門印
 同 半十郎印
 同 三郎右衛門印
 同 小右衛門印

嘉永六年丑十月

金澤中野村

肝煎殿

金澤中野新田村

肝煎殿

前書定ノ通出入無之様爲致候

岩屋良藏印

右兩村

肝煎中

四、農業水利交渉ノ現狀

從來ノ水利交渉ニ付テハ上述ノ如シ。

而ルニ、偶昭和六年四月頃插秧前池畔ノ金澤中野側ノ耕作者飯詰側ノ設ケ居ル落口ノ水閘、堂木、其他ノ設備ヲ破壊シテ溜池ノ水ヲ放流セシメタリ。

飯詰側ハ水必要ナレバ應急ノ修理ヲナシテ水ノ放流ヲ防ギ居タルトコロ再ビ金澤中野側ハ修理ノ個所ヲ破壊シテ貯水ヲ放出セシメタリ。

飯詰側ハ本事件ヲ大曲區裁判所ニ堰破壊ニ依ル損害賠償事件トシテ訴訟セリ。因ニ本件ハ未解決ナリ。

本件ニ對スル飯詰側ノ主張ハ次ノ如シ。

一、本溜池ノ水ニ付テハ占有並監督ノ權限アリ。而ルニ權限ナキ金澤側ガ之ヲ破壊セシヲ以テ該行爲ハ不法行爲ナリ。

二、金澤側ハ西沼無クトモ金澤側ノ餘水ガ飯詰ヲ潤スヲ以テ貯水ハ養鯉業ノタメナリト云フモ、然ラズシテ西沼ノ貯水ハ旱魃ニ備フルタメナリ。

三、留切りガ定木ヨリ二尺高シト云フモコレハ從來ヨリノ高サナリ。

- 四、養鯉ハ鯉ガ水草ノ芽ヲ食スルヲ以テ水深ヲ深メ池ノ維持上便宜ナリ。
- 五、浸水ノ被害アリト云フモ、本溜池ハ養鯉ノタメサナギヲ入ル、ヲ以テ寧ロ肥料分ニ富ミ有用ナリ。

金澤中野側ノ主張ハ次ノ如シ。

- 一、本溜池ハ從來ヨリ池ノ管理ニ付権限ヲ有シ之ニ付テ確タル證文アリ而シテ池ノ普請ハ當村ノ立會ヲ必要トセルニ留切ニ付テ同意ヲ得タルコトナシ。
 - 二、該留切ニヨリ一町五反歩ノ浸水ノ被害アリ而シテコノ被害高ハ普通作ノ二、三割減ナリ。
 - 三、西沼ヲ耕地整理地區ニ編入スルトキ當方ニ同意ヲ得タルコト無シ。
 - 四、區劃漁業特許ノ際ノ同意書ハ不充分ナリ。
 - 五、養鯉業經營ニヨリ沼草其ノ他小魚等ノ採取ガ不可能ナリ。
- 兩者ノ主張ヲ眺ムレバ、其ノ中心問題ハ依然西沼用水權ノ歸屬ト、其ノ内容ノ問題ナリ。從ヒテ、之ヲ上述ノ慣行ヨリ推セバ、飯詰側ニ用水權ガ歸屬スト見ル場合ニ於テモ、飯詰側ニ於テ形式的管理權ノ内容ヲ主張スルハ不可ナリ。其ノ内容ヲ爲ス用水利用ニ就キテハ各種利用ノ保留ヲ必要トセルモノニシテ、特別ノ利用ニ關シテハ金澤中野ノ同意ヲ必要トスルモノナルコトハ勿論、排水口ニ付テハ舊慣ニ依ル處理ヲ採ラサルヲ得ザルモノナリ。蓋シ、用水權ノ歸屬ハ灌溉引用ノ責任ヲ有スルモノニ

歸スルヲ原則トセルヲ以テ、利用ノ制限ハ其ノ内容トナサザルヲ得サルナリ。

今日、本件ノ解決案トシテ兩者ヨリ持寄レルモノハ次ノ如シ。

飯詰側ハ浸水田地ヲ買收スルコトニヨリ同問題ヲ解決セントセリ。

金澤中野側。

- 一、各排水口ニハ永久的工事ヲ施スコト
- 二、浸水被害田地ハ之ヲ沼敷ニ編入スルタメ各所有者ヨリ上地申請ヲナシ其ノ代償ハ飯詰耕地整理組合ヨリ金澤中野普通水利組合ニ寄附名義ヲ以テ支拂ヲナスコト
- 三、新ニ堀鑿シタル堰ハ之ヲ埋没スルコト
- 四、是迄ノ損害ヲ支拂フコト
- 五、區劃漁業ヲ廢止スルコト
- 六、禁獵區ヲ解除スルコト
- 七、古來ヨリノ慣習ニ依ル金澤中野ノ權利ヲ尊重スルコト
- 八、西沼ノ溜水ヲ利用スル以外ノ事項ニ付テハ總テ承認ヲ受クルコト等ヲ提案セリ。

第三、河川ニ於ケル分水慣行ニ關スル調査

一、白川分水ニ關スル調査

目次

第一、白川ニ於ケル農業水利概況……………二六三

一、白川ノ概説……………二六三

二、用水堰ノ概況……………二六六

三、白川流量ト各堰所要水量竝取入水量トノ比較……………二七〇

第二、白川分水慣行……………二九〇

第三、分水命令……………二九〇

一、訓令……………二九四

二、分水命令……………二九六

三、覺書……………三〇〇

第四、縣ノ農業水利統制施設……………三〇九

第五、上下流各堰ノ水利事情……………三〇九

一、瀬田上井手普通水利組合……………三三二

二、瀬田下井手普通水利組合……………三四七

三、渡鹿堰普通水利組合……………三五二

四、十八口堰普通水利組合……………三六三

第六、白川ニ於ケル發電水利概況……………三六三

第七、白川分水問題ノ經過……………三六六

第一、白川ニ於ケル農業水利概況

一、白川ノ概説

白川ノ流域ハ熊本縣ノ中部ヲ占メ、阿蘇、菊池、上益城、飽託ノ四郡ニ跨リ、源ヲ阿蘇火山ニ發シ、阿蘇谷火口原ノ水ガ集リテ黒川トナリ、南郷谷火口原ノ水ガ集リテ白川トナリ、立野ニ於テ相合シ外輪山ヲ破リ西流ス。此處ヨリ次第ニ兩岸開ケ、河幅増大シ、勾配緩トナリテ肥後平野ヲ潤シ、有明海ニ注グ。白川ニハ支流ト稱スベキモノナク、河幅ハ約四十間ナリ。

白川ノ治水ハ主トシテ加藤清正公ノ營マレシ所ニシテ、護岸堤防水勿等今ニ到ル迄舊狀ヲ保テルモノアリ。今日ハ大正七年四月十九日河川法準用認可セラレ、大正十年六月第二期直轄河川ニ選定セラレタレ共、未ダ工ヲ始ムルニ至ラズ。

尙白川流域ニハ阿蘇火山灰ノ降下多キヲ以テ、河水常ニ濁濁セリ。

二、用水堰ノ概況

最上流ヨリ立野合流點ニ至ル迄ニ於テハ、阿蘇谷ニ凡ソ六千町歩、南郷谷ニ凡ソ三千町歩ノ水田アルモ、概ネ散在シ、河ニ堰ヲ設ケテ引水スルモノ無ク、自然灌漑ニ依レリ。

白川ニ於テ、用水堰トシテ擧グベキ主ナルモノハ立野ノ下流ニアル諸堰ニシテ、今、其主ナル堰名

目次

第一、白川ニ於ケル農業水利概況……………二六三

一、白川ノ概説……………二六三

二、用水堰ノ概況……………二六六

三、白川流量ト各堰所要水量竝取入水量トノ比較……………二七〇

第二、白川分水慣行……………二九〇

第三、分水命令……………二九〇

一、訓令……………二九四

二、分水命令……………二九六

三、覺書……………三〇〇

第四、縣ノ農業水利統制施設……………三〇九

第五、上下流各堰ノ水利事情……………三〇九

一、瀬田上井手普通水利組合……………三三二

二、瀬田下井手普通水利組合……………三四七

三、渡鹿堰普通水利組合……………三五二

四、十八口堰普通水利組合……………三六三

第六、白川ニ於ケル發電水利概況……………三六六

第七、白川分水問題ノ經過……………三六六

第一、白川ニ於ケル農業水利概況

一、白川ノ概説

白川ノ流域ハ熊本縣ノ中部ヲ占メ、阿蘇、菊池、上益城、飽託ノ四郡ニ跨リ、源ヲ阿蘇火山ニ發シ、阿蘇谷火口原ノ水ガ集リテ黒川トナリ、南郷谷火口原ノ水ガ集リテ白川トナリ、立野ニ於テ相合シ外輪山ヲ破リ西流ス。此處ヨリ次第ニ兩岸開ケ、河幅増大シ、勾配緩トナリテ肥後平野ヲ潤シ、有明海ニ注グ。白川ニハ支流ト稱スベキモノナク、河幅ハ約四十間ナリ。

白川ノ治水ハ主トシテ加藤清正公ノ營マレシ所ニシテ、護岸堤防水剝等今ニ到ル迄舊狀ヲ保テルモノアリ。今日ハ大正七年四月十九日河川法準用認可セラレ、大正十年六月第二期直轄河川ニ選定セラレタレ共、未ダ工ヲ始ムルニ至ラズ。

尙白川流域ニハ阿蘇火山灰ノ降下多キヲ以テ、河水常ニ濁濁セリ。

二、用水堰ノ概況

最上流ヨリ立野合流點ニ至ル迄ニ於テハ、阿蘇谷ニ凡ソ六千町步、南郷谷ニ凡ソ三千町步ノ水田アルモ、概ネ散在シ、河ニ堰ヲ設ケテ引水スルモノ無ク、自然灌漑ニ依レリ。

白川ニ於テ、用水堰トシテ擧グベキ主ナルモノハ立野ノ下流ニアル諸堰ニシテ、今、其主ナル堰名

及灌溉區域ヲ上流ヨリ順次ニ記セバ次ノ如シ。

堰名	灌漑區域
畑堰	阿蘇郡錦野村
瀬田上井手堰	菊池郡瀬田、陳内、原水各村及大津町
瀬田下井手堰	同 郡瀬田、陳内、津田各村及大津町
錦野堰	阿蘇郡錦野村ノ一部
迫堰	菊池郡津田村ノ一部
玉岡堰	同 郡陳内村ノ一部
津久禮堰	同 郡津田村ノ一部
馬場楠堰	上益城郡白水村、飽託郡供合村
渡鹿堰	飽託郡日吉村、熊本市、力合村、八分字村、惠津村、田迎村、御幸村、中島村、畠口村、益建村
三本松堰	飽託郡力合村
護藤堰	同 郡藤富村字護藤
十八口堰	同 郡藤富村ノ一部、八分字村
五丁堰	同 郡濱田村、中島村

井樋山堰 同 郡中島村、今新開、方近、中島、山下
 松ノ木堰 同 郡沖新村、高砂、鯨油開

明治三十一年訓令甲第百號ノ分水規定ニ依レバ、此十五堰ノ中、畑堰以下津久禮堰迄ヲ上流堰ト稱シ、馬場楠堰以下ヲ下流堰ト稱ス。

此區別ハ主トシテ昔ヨリノ用水關係ヨリ大別セルモノナルモ、分水ノ結果ニ依ル利害關係ヨリ見レバ、更ニ、下流堰中、馬場楠、渡鹿兩堰ヲ中流堰トモ見、三本松堰以下ヲ下流堰ト見ルヲ可トス。
 各堰ノ構造ヲ見ルニ、其築造ハ古ク加藤、細川ノ舊藩時代ニナサレタルモノニシテ、自然石其ノ他ノ石材ヲ並列敷積シ且舟筏ノ通路ヲ開キ居タルモノナリ。今日ハ其等ニ修理ヲ加ヘ玉石張ニ「コンクリート」目塗ヲナセルモノ多ク、玉岡、津久禮兩堰ヲ除ク外ハ全部河ヲ横斷セル溢流堰ニシテ、二間半乃至五、六間ノ筏通ヲ附ク。

各堰ニ付テ、其構造ノ概略ヲ示セバ次ノ如シ。

堰名	延長	幅員	構造概略
畑堰	一三九	八	玉石張大部分ヲ占メ、一部ニコンクリート目塗ヲナス
瀬田上井手堰	一三八	二五	玉石張ニシテ、コンクリート目塗施工

井	十	三	渡	馬	津	玉	迫	錦	瀬
樋	八	本	鹿	場	久	岡	野	下	田
山	口	松	橋	楠	禮			手	
堰	堰	堰	堰	堰	堰	堰	堰	堰	堰
			一四五	一二六	一〇二	五七	一〇三	八二	二一五
同									
右									

各堰ノ概略圖ハ別紙附録第一ニ示ス如シ。

尙各用水堰ハ各獨立シテ普通水利組合ヲ組織セルモノナリ。

三、白川流量ト各堰所要水量並取入水量トノ比較

白川ハ白川、黒川共主トシテ中央火口丘ノ斜面ニ源ヲ發シ、各所ノ温泉ヲ始メトシ湧水アルヲ以テ其ノ流域ガ岩石峨々タル山岳ト、火山灰ニ依リ樹林良好ナラザル麓部トヨリ成ルニ拘ハラズ流量比較的豊富ニシテ、平水量ニ於テ六四七個、濁水量ニ於テ三六八個ナリ。

今熊本電氣會社及日本窒素肥料會社ノ調査ニ依ル黒川及白川上流ノ流量表ヲ示セバ次ノ如シ。

黒川 (尾ヶ石村の石ニテ測定)

年	次	平	水	低	水	濁	水	最	小
大	正	八	三		二		一		一
同	九	年	五		七		九		六
同	十	年	七		四		〇		七
同	十	年	九		三		〇		〇
平	均	年	二		九		〇		〇
			四		六		二		五
			〇		六		二		五
			四		九		二		五
			〇		六		二		五

白川 (久木野村河陰ニテ測定)

年	次	平	水	低	水	濁	水	最	小
大	正	八	二		三		八		一
同	九	年	七		一		六		一
同	十	年	二		八		六		一
同	十	年	三		八		六		一
平	均	年	七		七		三		六
			二		七		三		六
			四		七		三		六
			三		七		三		六
			七		七		三		六

一ケ年間ニ於ケル流量變化ノ狀況ハ、大體ニ於テ一般河川ニ等シク十一月ヨリ一月迄ハ一般ニ少ク、之ヨリ次第二増加シ梅雨ニ入りテヨリ八月迄ハ概シテ多ク、ソレヨリ次第二減少ス。

一方、農業用水ノ取入水量ヲ見ルニ、晴天連續十六日間後ノ調査（昭和二年六月調査）ニ據レバ、全流量八五三個ノ中、上流堰タル畑堰以下律久禮堰迄ノ取入水量ハ八四〇個ニシテ、殆ンド全流量ノ全部ヲ取入レ、馬場楠、渡鹿兩堰ハ僅カ一三個ヲ取入ルノミ。

而ルニ、上流堰灌溉面積ハ一、三一九町歩、馬場楠渡鹿兩堰ノ灌溉面積ハ一、三九〇町歩、下流堰灌溉面積ハ一、一六六町歩ニシテ、此灌溉面積及土質等ヲ参照シ、土地ノ古老ノ言ニ據リ、各堰所要水量ヲ推定スレバ上流堰ハ四三四個、馬場楠渡鹿兩堰ハ一三六個、下流堰ハ五八個トナルナリ。

此所要水量ノ推定ニ依レバ、上流堰ノ取入ハ其所要水量ヨリモ多量ノ引水ヲナセルモノト云ハル、ナリ。

次ニ、白川流量ト此所要水量トヲ比較シテ、白川分水問題ノ困難ナル一端ヲ窺フニ、白川ノ合流點立野附近ニ於ケル流量ハ前記ノ如ク平水量ニ於テ六四七個、低水量ニ於テ四九二個、湧水量ニ於テ三六八個ナルヲ以テ、平水ニ於テハ一應上、下流堰ノ所要水量ヲ充スニ足ルモ、低水ニ於テハ上流堰ニ全流量ヲノマレ、湧水ニ於テハ上流堰ノ所要水量ヲ充スニモ不充分ナル事情ニアリ。

思フニ、上流ニテ引水セシ水量ノ一部ハ落水トシテ再ビ下流ノ用水トナルヲ以テ、上述ノ比較ノミニ依リテハ直チニ白川流量ノ利水狀況一般ヲ判斷スルコト不可能ナルモ、唯白川ヲ水源トセル水田ガ、其灌溉用水ヲ獲得スルニ付キテ、絶ヘズ上、下流ノ利害關係ノ衝突ヲ來ス事情ガ推察セラレ得ル

ナリ。

各用水堰ノ取入水量、所要水量並灌溉反別ヲ記セバ次ノ如シ。

堰名	灌溉反別	所要水量	取入水量	取入歩合
畑上井手堰	七五町	二八〇	一四七	一八
畑下井手堰	四六〇	一四四	三五三	四一
瀬田野堰	四六二	一七三	一五六	一八
錦野堰	六一	二三	六〇	七
追野堰	八〇	二〇	八五	一〇
玉岡堰	四五	一一	一二	一
津久禮堰	一三六	三四	二七	一
馬場楠堰	一四五	三六	四	一
渡鹿堰	一、二四五	一〇〇	九	一
三本松堰	一八九	九		
護本堰	五三	三		
十口堰	三八四	一九		
五丁堰	一六三	八		
井山堰	三〇四	一五		

備考 昭和二年六月二十九日ノ調査ニシテ、調査前晴天連続十六日間ノ時ナリ。所要水量ハ實地ニ付老農ノ言ニ依リ調査セルモノナリ

第二、白川分水慣行

白川筋ニ於テハ、現在ノ下流側タル飽託郡ノ土地ガ先ヅ拓カレタルモノニシテ、飽託ノ耕地ハ加藤清正公ノ治政ニ於テ既ニ軍用田トシテ重要ナル地位ニ置カレ、其後、農政ガ布カレテ漸次上流ガ開墾セラル、ニ及ビ上流ニ堰ガ設ケラレ白川ノ水ヲ取入ル、様ニナレリ。

故ニ白川ノ水ハ、古クハ必ズ此ノ軍用田ニ掛クルコトニナリ、舊藩時代ニ於テモ、渴水ノ時ハ飽託ノ軍用田ニ養水スルコトニシ、所謂「託磨落シ」(註)トシテ口碑ニ傳ヘラル。

註 飽託郡ハ前ノ飽田郡、託磨郡ヲ合セタルモノニシテ、此ノ託磨ニ水ヲ落スコトヨリ斯ク云ハル。

舊藩時代ニ於テハ、配水ノ法ハ事ヲ藩侯ガ命ジテ、御惣庄屋、横目役、水方役人等ノ機關ニヨリ、各堰公平ニ引水セシメ來リタルモ、上記ノ舊慣ハ固ク守ラレ、下堰ヨリ上堰ヘ分水方ヲ申達セル場合ハ常ニ分水ヲ實行シ來リタルナリ。

此分水ニ就テハ堰ノ構造、位置等ヲ規定シ、或ハ、灌漑面積及其時々ノ渴水事情等ニ應ジテ通水時

間ヲ定メル等ノ手段ニ據リ、一ハ取入水量ヲ一定不動ノモノタラシメ、一ハ時々ノ流水事情ノ變化ノ調和ヲ計リ公平ナル分水ニ努メ來リタリ。

従通、放水路、井樋ノ寸法等ハ今日ノ堰ニ殘サレ居ルヲ以テ、特ニ記セザルモ、通水時間ノ定メニ付キテ、古例ヲ徴スレバ次ノ如シ。

- 一、文化十一年ニ於ケル平水ニハ従通ヨリ水ヲ落シ、早魃ニテ従通ヨリ水落サザル時ハ二、三日越晝七ツ時ヨリ翌曉七ツ時迄總水下シノ定
 - 一、文政六年六月郡奉行ノ達ニテ川上ヲ二夜二日、川下ヲ二夜二日即チ上下折半ノ定
 - 一、同年同月十日郡奉行ノ達ニテ川上ヲ四夜四日、川下ヲ三夜三日即チ七分ノ四ト三トノ定
 - 一、文政七年上下申合セ津久禮以上ノ各堰井樋平水ノ深サヲ改メ杭木ヲ打タセ水尺ヲ記シ、七分通ノ水流候様差蓋ニテ加減シ、殘三分通ヲ馬場桶以下ニ流シ下ス事ニ取極メ即チ七分三分ノ定
- 尚、天保、弘化、嘉永、安政等ノ各年度ニ於ケル分水法モ種々有之モ、何レモ文政六年度ヲ本トシ、大同小異ノモノナリ。

次ニ此ノ白川分水慣行ノ事情ヲ精シク知ル爲ニ、熊本縣廳ニ於テ保管セル藩政時代ノ記録「覺帳」其他ヨリ白川分水ニ關スル事項ヲ抜抄セシモノヲ記ス。
初メニ、參照セシ書目ヲ列記セバ次ノ如シ。

一、覺

帳 元祿ヨリ明治マデ

二七一冊

一、覺

帳 頭 書 元祿ヨリ文久マデ

一〇〇冊

一、御郡方記録竝袖方記録

元祿、文久、寛文、貞享年中

七〇冊

一、御 仕 法 書

貞享、延寶年中

三三冊

一、知行年々物成帳、御郡方

寶文中

二八冊

一、御郡方年系略記

延寶ヨリ文久マデ

三冊

一、大 體 録

明治三年

九冊

一、萬 機 録

明治六年

一冊

一、郷 鑑

帳

二冊

抄

帳

二冊

一、文化十一春白川減水ニ付郡奉行川上各堰ヲ見分シ分水ノ仕法ニ付専ラ參談有之候事

一、右ニ付横目某事ヲ之ヲ擔當シ堰々砂蓋卸シ方等ヲ監督シ洩水等無之様手配有之候事

一、右ニ付大津惣庄屋某ヨリ自手永ニモ干田アリ心配ノ旨申出同年夏双方申合幾分川上ノ引水ヲ増

シ人民ノ氣請宜シカリシ事

一、同年四月中白川筋逐年石砂居込川底高クナリ水勢涸渴シ他田託麻田方養水乏シク旱田ノ憂有之

ニ付川筋ノ模様取調ノ處根元南郷白川阿蘇黒川共ニ水源ニ於テハ聊カ減水ヲ認メザル旨其所ノ老

人村長等ヨリ申出見分向衆議ノ趣モ古今變リタル義無之處川上堰々都合十ヶ所ノ内ニ赤瀬、畑、

瀬田以下錦野マデ五ヶ所水勢十分ナルモ夫ヨリ下手中島新井手、津久禮、馬場楠、渡鹿以上五堰

ハ上手ノ堰所追々手入年増丈夫ニナリ田畑ノ模様モ大ニ變リ中島堰以下水勢次第ニ減ジ隨テ川下

モ用水缺乏シ上下平衡ヲ得サルニ付分水方法ヲ左ノ如ク定ム

一、渡鹿、馬場楠兩堰平常筏通ヲ明居候例ニヨリ川上赤瀬ヨリ以下各堰モ右同様都テ筏通明方イタ

シ平水ノ節ハ其越水ヲ以テ水下ノ用水ニ當ルコト

二、早魁ニテ右筏通ヨリ水落サルカ亦ハ其量少ナキカニテ下手永用水届キ兼ルトキハ下手水ヨリ掛

合次第第一赤瀬堰ヲ初メトシ一堰宛カ又ハ二堰ニテモ早魁ノ度ニ應ジ晝夜順々ニ砂蓋ヲ卸シ水ヲ

下スベキコト尤次順ノ堰ヲ卸シタルトキハ最初ノ堰ハ明ケ申スベキコト

三、若シ非常ノ早魁ニテ一堰宛水ヲ下スモ馬場楠以下ニ水届カズ植田ヲ燒キ枯ストキハ赤瀬以下津

久禮迄三日越晝七ツ時ヨリ翌曉七ツ時マデ一同砂蓋ヲ卸シ水ヲ下スベキコト尤モ此場合ニ於テハ

託麻惣庄屋ヨリ前々日ニモ大津惣庄屋へ申達スレバ直ニ引請取計南郷布田手永ノ堰ニハ其掛ノ立

野村庄屋へ申達シ取計ハシムルコト

一、右之通先づ三ヶ年程相試ミ追々治定致スヘキコト尤モ堰々掛上畝物(上畝物トハ田作ヲ畠ニ植付ヲ云フ)又ハ空地田作等實曆地引合以來出來ノ分當年田根付濟ミタル上坪付小前帳差出スヘキ事且ツ大津手永一ヶ年上畝物ノ義モ彌以定畝數ヲ越サル様小前帳右同斷ノコト將又此後川上上畝物願ノ節ハ飽田託麻上益城合志阿蘇南郷へモ願ノケ所ヨリ申談異議無之旨肩書ヲ以テ差出スヘキコト(堰々掛リ實曆地引合反別記ハ略ス)

以上ハ文化十一戌四月十一日郡奉行ヨリ飽田、託麻上益城合志阿蘇南郷郡代へ達ノ大意

一、右ニ付郡代ヨリ關係惣庄屋へ左之如ク達シタルコト
前略早魃之節ハ御達ノ通聊無間斷取計有之堰筏通ノ義モ渡鹿馬場楠堰ノ間數ヲ規則トシ早々明方致シ先ツ三ヶ年試ミトシテ取計ヘリ尤復通明ケ方相濟候ハ、其段届出見分可致候將又右堰々掛ノ上畝物又ハ空地田作等實曆地引合以來出來ノ分并大津手永一ヶ年上畝物ノ義モ當年田根付相濟タル上小前帳差出サルベキコト
一、同年夏右之分水法ニテ川下モ用水届兼移植後稻作焼枯タルケ所ハ年貢上納差免カレ候事
一、文化十二年前年夏非常ノ早魃ニテ用水缺乏ノ爲メ殊ニ古例古格ヲ破リ御泉水掛リノ權現上下堰所改造相成タリ藩主ニ於テモ右様深ク田方養水ニ配意セラレタルニ付其旨趣ヲ體シ沿川上下一統

偏頗ノ事ナク養水ヲ共分スベキ旨郡代ヨリ惣庄屋へ口達ス

一、文政六年早續ニテ田根付出來兼タルニ付同年五月十八日下手郡代ヨリ上手郡代へ二夜越一晝夜水下シノ義ヲ掛合同月十九日横目ヲシテ早害地ヲ見分セシメ又上手田根付ノ模様見分ノ後大津ニ於テ双方申談シ廿三日夕七時半時ヨリ二十六日朝七時半時迄三夜二日分水施行相成タルコト
一、右分水施行後同月二十六日奉行ヨリ更ニ左之達アリ

白川筋湧水ニ付テ今七ツ時迄下在へ水下シ相成候様及達通ニ候右之分ニテ田根付モ何方モ相濟可申哉然ル處今以降雨ノ模様無之此上養水ノ仕法付ケラカレス候テハ難叶處日々増シ及濁濁候義ニ付上下一同ノ養水イタシ候義ハ所詮出來兼可申依之此以後ハ日分ヲ以テ分水相成候様右日分ニ成候テモ水及不足候ハ、御役人差出サレ先ツ本田ノ養水イタシ諸開等ハ其次ニ養水被仰付ヘク候此段下方へ蛇度御申付日分刻限等ノ義ハ以前早魃ノ節ノ見合ヲ以テ相極メラレ早々達セラレヘキ事

一、右達後六月朔日又左之通達アリ

白川分水之義追及達御役人モ差出シ置候へ共其通り行レ申サズ湧水ニ就テハ難澁ハ何方モ同然ノ事ニ付川上ノミニ水ヲ取ルベキ義モ無之又川下ノミ引候義モ難相成上下難澁ヲ持合分水等シク無之テハ難叶ヨツテ右川筋掛ノ田畝數見渡シ候處馬場楠堰ヨリ川上ハ同堰ヨリ川下ト大概釣合居候

間川上ヲ二夜二日川下モ亦二夜二日水取候様仕法ニ致シ難澁ノ不同無之様取計可有之候右之義急場之事ニテ筆談等ヲ以テ相極候義ニ無之故ニ明二日郡代以下一所ニ出立申談可有之此段早打ヲ以テ申達候事

右ニ付同月四日七ツ時ヨリ六日朝七ツ時迄二夜一日分水施行有之候事

一、右分水施行後同月十日猶又奉行ヨリ左ノ通達アリ

當夏非常ノ早魃ニ付テハ白川水乏シク上下在田方一同ノ養水届兼追々分水及達御役人差出置候通候然ル處右分水及達時々速カニ仕法無之ニ付田方ハ勿論養水筋モ干上リ水末マデニハ大概ハ九里程ノ處流下候間甚タ水行鈍ク用水行亘リ申サス多分ノ畝方旱田ニ及候畢竟右分水在上ニ於テ色々隙取間延ニ成候處ヨリノ義ニテ已ニ大津手永ノ内ニテモ瀬田上井手ノ水同所ヨリ下井手ニ分ケ遣シ候義ヲ故障申出候由且ツ同所堰掛リノ内ニテモ井手上ニ居候瀬田大林吹田ヲ初メ大津陳内等迄ハ水溢レ夫々應ジ稻葉モ生立能纔カノ間ニ井手末入道水下町等以下ニ到候テハ旱田ニ及ビ去ル六日夕ヨリノ掛水昨日迄モ行亘リ申サス試ミ見分モ難忍此等ノ義ハ惣庄屋以下仕法ヲ以テ井手上ノ所ニ水口ヲ細メ下ニ流シ候カ其外仕法ヲ付ケ候ハ、ケ様ノ不同有之筈ハ無之ケ様ノ節ハ平常水取ノ法ヲ不論差當リ取計村々相互ニ助合不申テハ難叶候處右之通り溢レ候水ヲ其儘ニ致置井手末難澁ヲ不顧次第白川ハ井手上ノ者共ノミノ養水ト相心得居ニテ無之哉不埒ノ至リニ候依之降雨有

之川水大體平常通ニ成ル迄ノ間隔日ヲ以テ分水左之通

一、三夜三日 馬場楠堰以下

一、四夜四日 津久禮堰以上

右之通來ル十二日夕七ツ時踏出ニテ馬場以下ハ分水被仰付候尤津久禮堰以上ハ田畝少ク馬場楠堰以下ハ田畝多ク殊ニ長流ノ事ニ付右日分ノ通ニテハ下在日數短カク有之候得共上在ノ義ハ兼テ水持兼地所ニ候間右之通相極メ候ヨツテ御惣庄屋以下重疊心ヲ用ヒ平常究居水引ノ仕法等ニ泥マス臨機ノ取計ヲ以テ隅々迄速カニ等シク水行亘リ候様且又右川筋ノ内ニハ所々ニ水車有之右ノケ所ニテ井手水ヲ支ヘ候ニ付分水ノ節ハ井手末ヘノ流通時刻隙取差障ニ成可申候間分水中ハ右水車差留ラレ候條水車係リノ堰々取除候様右分水ニ付テハ猶御役人モ差出候此段申渡有之右一件ニ付テハ自然申分等致候モノモ有之候ハ、御吟味可被相達候以上尙々堰々差蓋卸方之義ハ先年極メ置候通り半時宛前廣ニ次第ニ川上ヲ早ク卸方可有之候以上

一、右達ニ基キ堰開閉時限左之通り取極相成候事

一、布田谷積々共 但六月十五日夕六ツ時明ケ方ノ事

一、赤瀬井手 但砂蓋三枚ノ内壹枚ハ分水中卸方仕置殘貳枚十五日夕五ツ時ヨリ明

ケ方ノ事

- 一、畑 井 手 但十五日六ツ時壹枚明ケ五ツ時總明ケノ事
- 一、瀬田 井 手 但同日暮六ツ時貳枚明ケ五ツ時總明ケノ事
- 一、同 下 井 手 但右同斷
- 一、錦 野 井 手 但同七ツ時壹枚明ケ五ツ時總明ケノ事
- 一、中 島 但右同斷
- 一、岩 坂 但右同斷
- 一、玉 岡 但右同斷
- 一、津 久 禮 但同日七ツ時總明ケノ事

未 六 月 十 三 日 御郡横目各積々ニ相詰居惣庄屋中へモ知セ置候様トノ事

一、同年七月二十五日付ヲ以テ郡奉行ヨリ更ニ左ノ達アリ
 白川分水後ハ田方用水可ナリニ行亙リ候ニ付是迄程ノ分水ニハ及申間敷赤瀬、畑、瀬田等ノ井樋
 ヲニ戸前ノ内明ケ方ヲ細メ定水ニ下シ候ハ、上下在無間斷行届可申若シモ其通リニテ用水届兼候
 ハ、是迄ノ通リニモ可被仰付(中略)先ツ以テ分水二晝夜ニ縮メ候ニテモ不足有之間敷トノ事
 一、天保四年五月郡代ヨリ郡奉行ニ宛既往ニ實驗ニ鑑ミ後來ノ處分上ニ就キ伺竝ニ其指令左之如

御内意ノ覺

早魃ノ年柄白川筋及洞潟大津手永井手ニ分水等ノ混雜ハ于今不始義ニテ其末御難題ニ相成候義モ
 度々ニテ年ニ寄託麻養水届兼先年以來追々ノ先役共心配仕其時々御内意モ仕置近來ハ文化十二三
 年之早魃ニテ色々内輪申分等モ有之委細其節吉村嘉善太ヨリ御内意仕候通リニテ已ニ其節ノ御惣
 庄屋齋藤形左衛門分水等ノ義共三ヶ年御試ミノ爲メ引請被仰付候得共追々御惣庄屋相替候ニ付テ
 ハ今以テ相付不申且ツ文政六年早魃ノ節ハ非常ノ水下シニモ被仰付候得共大津手永及託麻在ハ莫
 大ノ早田ニテ餘計ノ御損引下リ米ニ相成候次第ハ其節御達仕候通御座候然ル處當年之義春以來養
 水之助ニ相成候程ノ降雨モ無之上些シタル霖雨モ無之根付水ヨリ及不足彌以時候後レニ可相成ト
 御惣庄屋以下格別心配仕候義ニテ尤文政六年ノ早魃ニテ混雜ノ次第等相考候處上下在田根付一同
 込合候處ヨリ及混雜タマタマ根付致シ候分モ間モナク干田仕候テハ後道田方ノ熟ニ差障彼是難澁
 ノ處ヨリ不得止事申分ニモ相成於手元モ急決難成其末御指圖ヲ請候様成行必多度時日ヲ送リ候内
 干田ハ相増シ上下在ノ難澁積テハ御損米夥數相成候間當夏ハ別段根付差急セ候處元水乏シク果敢
 々々敷片付兼夫レト申モ大津手永場廣ノ所柄種々ノ畝物類多ク順々根付仕候處ヨリ多ハ木裾ノ村
 々及延引候間別段分水ヲモ申付且ツ御本田根付不相濟内ハ御郡方一年上畝物御給人上畝竝御赦免
 開等根付之義ハ見合セ候様御惣庄屋限リ程能取計候様差含置候ニ付布田内モ申談其取計致候ニ付
 村々差急キ存外果敢取其内降雨モ有之旁々都合宜シク總根付モ相濟申候由然ル處白川筋村々多ク

ハ監物殿御給知ニテ御給人上ハ畝御赦免開等餘計ニ有之自然御本田根付相濟候迄井樋ニテ塞キ方仕候テハ枯ニ及可申ト内輪難澁ノ次第等彼方ヨリモ早速内意有之勿論相成丈ケハ右類ノ畝方モ難澁簿取計候義ハ私儀支配所村々之義ニ御座候得ハ油斷可仕様モ無之畢竟根付ヲ引掛ケサセ夫々相濟居候共自然託麻用水及不足分水等申談ノ節無異儀速カニ時水等ノ取計モ仕候ハ不在氣請モ宜シク公平分水モ熟シ申ヘク見込處ヨリ差示シ候義ニテ惣體大津手永之義ハ右類御本田外ノ畝方多便利宜シク作徳モ有之處ヨリ豪富ノ者程開畝物類專ラニ請持小百姓ハ御本田重ニ請持其上豪家之根付ヨリ取急候情態ハ大津ニ不限義ニテ兎角小百姓程及難澁候様成行自然ト御本田ト位相劣リ且御本田根付出來兼候内上畝物等之類根付相濟候様有之候テハ於御法モ當リ兼於私モ落着兼申候間先達テ一應御内意申上候通ニ御座候處御惣庄屋ヨリ別紙之通リ積書ヲ以伺出申候ニ付以來之心得ニモ相成可申思召寄モ無御座候ハ、書物之通リ申付度御座候得共願クバ川筋同役連名ニテ請置候得ハ彌以取締根付モ取急可申白川掛ノ同役共ヘモ申談候處イヅレモ同意ニ御座候間不聞御内意仕候尤寛政三年早魃ノ砌リ御給人上畝水掛リ差留ラレ候見合モ有之別紙寫相添奉伺候條可然様急々被及御達可被下候以上

天保四年五月

奉 行 宛

郡 代 武 藤 猪 左 衛 門

指 令

此儀成ベク丈ケ一體ニ用水行届候様有之度候得共非常之早魃ニテ如何様ニモ引定御本田及濁湯餘斗之御損米可相成程ノ年柄ハ別紙御惣庄屋積書ニ付紙用置候通リ上畝物等ニ新古ノ無差別水引差留ラルヘク候尤モ重キ利害ニ係リ候事ニ付右體非常之節ハ川筋上下引水ノ仕法共篤ト研究ノ上其時々伺出差圖ヲ請取計有之根付爲差急ケ所限水引取計之義ハ書面之通相心得ラルベク候以上

六月十六日

御 郡 方 御 奉 行 中

飽田託麻上益城合志南合

郡 代 宛

別紙庄屋積書左之通

伺 書

一、新 地 田 一、御郡方新地田 一、出 高

一、御郡方出高 一、本方上畝物

但前々ヨリ見圖帳ニ畝番相極リ本方同様年々定床ニ根付仕込ノ節ハ損引之部ニ加ハル分

一、一毛畝物並山方一毛畝物

但右同斷

右稜々ノ義ハ本方同様用水可被仰付ヤ

- 一、一年上畝物床替分
 - 一、御郡方新出一ヶ年上畝物右同
 - 一、右同定床分
 - 一、御赦免開田
 - 一、御給人上畝物
- 右ハ御本田相濟候迄ハ根付差留メ可申是迄根付相濟候分ハ養分ハ養水掛方共々差留置可申左候テ御本田根付相濟候ハ、極リ居候田作夫々用意致居候ニ付一順根付ハ仕セ御本田猶又干田ニモ及ビ申ヘク見込ノ節ハ速カニ水口ヲ塞キ御本田ニ用水掛込候様可仕存候

指 令

新地田、御郡方新地田、出高御郡方出高ヲ除ク外都テ養水差留

一、同年十月下手郡代ヨリ左之如ク各郡代ニ交渉之末付紙ヲ以惣庄屋ヘ達シタリ

當年白川渴水ニテ飽田、託麻養水及不足追々水下シ方ノ義同所御惣庄屋中ヨリ大津御惣庄屋ヘ懸合候得共其時速カニ降雨ニ相成水下シノ心配無之相濟候義ニハ御座候得共大津手永内白川掛村々田根付差急候タメ畝物以下ノ水掛ヲ留メ御本田根付致サセ其末御法當否ノ境研究仕候次第ハ追々

御相談仕置候通ニテ内意書付相達置候處別紙之通付紙ヲ以御達有之右ニ付テハ猶又及御相談今一應内意相達候含モ御座候得共御支配所々々御惣庄屋中心組ニモ可相成候間別紙及御順達置候尤モ大津手永同用水不足ニテ根付及延引候テハ別紙ノ畝方水掛ヲ留時水等順次ノ馳引ヲ以テ水裾村々根付等取計候筈ニ付監物殿御赦免開等々掛ル畠積ノ義大津ヨリ掛合次第無異議馳引イタシ候様御達置カレ被下候様尤モ非常之節積惣水下シニモ相成候節ハ文化中極ノ通り大津ヨリ掛合次第速カニ積々水下方ニ相成候様奉存候此段爲可得御意如此ニ御座候以上

十月二十一日

武藤 猪左衛門

付紙

本行水下ノ節御支配ノ義ハ追々規格モ有之御惣庄屋横目役ハ勿論水方役人等數人罷出嚴重ニ水引等致シ下在ヘハ水下シ方取計候筈ニ御座候間一ヶ所ニテモ不取打ノ唱有之候テハ外手永々氣請ニ係リ其未是非共及混雜候間何方モ等敷御惣庄屋以下村役人ニ至ル迄罷出嚴重水下シ等取計候様御示置カレ下サレ度猶下在ハ用水勘辯致聊カタリトモ捨水等無之様有御座度宜ク御取締置カレ下サレ候様奉存候事右之通候條夫々左様被相心得及其達可被置候以上

八月二十四日

飽田託麻御郡代中

飽田託麻御惣庄屋宛

一、弘化四年五月白川水涸ニ付惣庄屋ヨリ郡代ニ申出郡代ヨリ夫々達アリ往復交渉ノ末同月十七日ヲ以テ十九日夕七ツ時ヨリ二十二日曉七ツ時迄二夜二日赤瀬堰以下津久禮迄砂蓋ヲ卸シ分水致シ其後ハ降雨ニハ養水行届候迄二夜二日越一晝夜宛分水スベキ事ニ双方惣庄屋中協議濟之處翌十八日相應シ降雨アリ朝四ツ時ニ致リ長六橋ニヲイテ五尺ノ増水トナリ養水充分ノ見込ニ付分水見合トナリ

但右ノ如キ當時分水實行ニ至ラサリシニ尙其後ノ心得方ニ付文化六年五月ト天保六年五日ノ舊例ヲ引キ其時間ノ長短見定方下手惣庄屋中ヨリ上手惣庄屋トノ間ニ往復アリ結局舊例ニ泥ハス其年旱魃ノ模様養水涸渴ノ狀況ニ應シ三晝夜又ハ二夜二日ノ分水スヘキ事ニ協議濟

一、嘉永五年五月旱魃ノ爲メ下手關係村々庄屋ヨリ惣庄屋ヘ申出同月二十六日總庄屋ヨリ上ミ手惣庄屋ヘ掛合翌二十七日ヨリ三晝夜水下シ之義ヲ請求セシニ上ミ手水末ニモ養水不足ノ處アリ且ツ急場ノ事ニ付請求之日取ニニハ實行シ難キモ文政六年ノ達モアリ速カニ手配シテ十九日朝六ツ時ヨリ三晝夜實行ノ事ヲ承知セシモ上ミ手村々ニ於テ多少苦情アリ結局六月朔日朝六ツ時ヨリ二日朝六ツ時迄一晝夜分水シ夫レヨリ引續相應ノ降雨アル迄ハ三分通分水スルコトニ決議シタリ

一、右之如ク三步通ノ分水實行ノ處何分下モ手水末ニ行届カサルニ付猶増下シ方再應請求ニ及其末同月八日朝五ツ時ヨリ夕七ツ時迄ノ時間ヲ引延シ翌九日朝五ツ時マデ一晝夜分水ヲ實施シ猶引續

二夜越シ八時間總水下シノコトニ決定ス

一、嘉永六年四月晦日付ヲ以郡代ヨリ惣度屋ヘ左ノ達アリ
 旱魃ノ年柄白川筋水下シ之義ニ付テハ昨年以來申談有之委細書付相達置カレ候右ハ書達ノ通りニテ當分御試ミトシテ二夜越ニ一夜ニ二時ヲ加ヘ八時ノ水下シニ被仰付候間左様被相心得夫々其達ニ及置カルヘク候以上

一、同年六月右之定メニヨリ九日夕ヨリ分水施行尤其後降雨有之分水見合ノ處猶水末殊ニ十八口以下養水不足ニ付同月十六日夕七ツ時ヨリ八ツ時水下シアリタルモ猶下モ手水不足ニ付更ニ時間ヲ増シ同二十三日晝九ツ時ヨリ翌二十四日四ツ時迄十二時水下シ實行其後増水下シノ請求ニ及ビタルモ相應ノ降雨アリテ見合セトナル

一、安政四年六月下手總庄屋ヨリ上ミ手惣庄屋ニ向ケ同月七日比ヨリ二夜越八時間總水下シノ請求ニ及大津惣庄屋ニヲイテ承知之上實行ノ管ナリシモ降雨アリテ一旦中止トナリ更ニ同月十八日豫定ノ通實行之處其後降雨アリ養水行亘リ最早分水ニ及バザル旨下モ手ヨリ上ミ手ニ通知セリ然ルニ翌七月二十四日八幡淵ニヲイテ御中老中遊方見分有之ヘク處白川渴水ニ付川上井樋々々閉方取計水下シアリシ事

一、明治二年五月白川水渴ニ付同十七日ヨリ先例ニヨリ水下シノ義ヲ下手惣庄屋ヨリ上ミ手惣庄屋

へ照會左之通回答ス

昨日御紙簡八ッ過到着拜見仕候御揃御清安被成御座奉賀候然ハ此中ヨリノ照續ニテ白川筋殊ノ外及
 渴水御手永村々田根付ハ素ヨリ植付分モ白于仕候由ニテ先年ノ見合ヲ以降雨迄ノ間先半水下シ方ノ
 取計仕候様右之趣布田沼山津エハ私ヨリ通達可仕旨御委細被仰下承知仕候川裾ニ水渴ト相見嘸々御
 心配可被成奉深察候何卒急々時候ノ潤雨奉希祈候然ル處早速今日ヨリ其取計不仕候テ難相成義ニ御
 座候得共常所之義先月末強雨大洪水ニテ所々積々井手小破ハ難算段々大破ノケ所有之右御普請ニテ
 井手掛々々十日餘一滴ノ通水不仕夫レ故田根付之義一統例年ヨリ大ニ引下ケ當時最中植付ノ村々有
 之日々役人立會分水取計仕候間村々小前々々エモ篤ト相諭不申テハ安着仕間敷布田沼山津へ申談ハ
 勿論是迄ノ通内牧高森坂梨へモ可申遣何分今明日迄ノ處ハ彼是手配出來兼候見込ニ御座候間明後十
 九日朝六ツ時ヨリ翌日同時迄一晝夜越半水下シノ方手配可仕奉存候御示ノ通樋口々々番衛之義ハ當
 所ヨリ差出可申候得共願日御地々々ヨリモ御手付中ノ内ニテモ見聞被差出被下度奉存候委細ハ御手
 付エモ咄合至申候間宜敷御聞上被下候様奉頼候此段拜答爲可得貴意如斯ニ御座候以上
 右ノ通往復ノ末十九日朝六ツ時ヨリ翌二十日朝六ツ時迄水下シ實行ス然ルニ同二十一日ニ至リ降雨
 アリ養水行届タルニ付上ミ手惣庄屋ヨリ左之通通知アリ爾後ノ分水ハ見合トナル
 御揃愈御清安可被成御座奉拜賀夜前ヨリハ至極ノ潤雨ニ相成大慶不斜候然レバ貴地水下ノ義今朝迄

ノ處ハ規則通下シ方取計致置候得共白川筋次第増水仕候間下シ方見合爲申義ニ御座候左様御承知可
 被下候右爲可得貴意如此ニ御座候以上 明治三年五月二十一日

一、明治六年白川渴水ニ付下モ手里正ヨリ上ミ手里正へ談判ノ上左之通分水實施セツ迄
 七月十二日暮六ツ時ヨリ十三日五ツ時マテ赤瀬以下飽託馬場楠井手打交シ大分水十三日五ツ迄
 七月二十六日夕七ツ時ヨリ二日越六ツ時宛二回分水實施セリ

但此分水ハ馬場楠堰係一部ノ請求ニヨリ瀬田堰ヨリ分水シタルモノ八月十日夕八ツ時ヨリ翌十一
 日四ツ時迄赤瀬堰以下分水

一、明治六年非常ノ旱魃ニテ白川渴水シ一晝夜越一晝夜ノ分水實行シアリシ由ナルモ差掛其書類無
 之候

一、明治十三年白川渴水ニ付下モ手戸長惣代兩三名外ニ阿蘇菊池飽託郡書記立會大津町ニヨイテ水
 下シ方協議ノ末六月二十六日午後六時ヨリ翌二十七日午前二時迄分水實行午後二夜越ニテ同様分
 水アリ

一、明治二十三年白川渴水ニ付前同様協議ノ末七月二十三日午後六時ヨリ翌二十四日午前二時迄分
 水セリ
 一、明治二十四年前同斷ニ付六月二日飽託郡關係各町村長ノ申出ニヨリ郡長大津へ出張阿蘇菊池郡

列三郡長立會上手下双方關係町村長配水委員區長等集會協議ノ末先以六月十五日午後二時ヨリ十六日午前五時マテ前同様ノ分水實施シ尙翌七月二日更ニ協議ノ上分水施行ノ筈ナリシニ六月二十九日ヨリ翌三十日ニ亘リ潤雨アリ白川筋漲水ニ付他託郡役所ヨリ見合方通知セリ

一、明治二十五年七月十八日例ニヨリ大津町ニヨリ分水協議會相開ヘキ筈ナリシガ同月十四日ヨリ十五日ニ亘リ隆雨アリ見合トナル

一、明治二十六年七月七日例ニヨリ大津町ニ於テ分水協議ノ上同月二十日午後四時ヨリ同日午後十二時迄分水施行アリ其後時々降雨アリ見合トナル

一、明治二十七年七月五日例ニ依リ大津町ヘ集會協議ノ末同月十四日午後五時ヨリ翌十五日午前一時迄分水施行ノ處何分養水缺乏僅時間ノ分水ニテハ殆ンド其效力ナカリシニヨリ關係町村長ヨリ知事ニ具申シ郡長ヨリモ事情ヲ具シテ上申ノ末縣廳ニヨリテ菊地郡ニ往復セラレ更ニ八月十五日午後三時ヨリ同十六日午前一時迄ノ分水アリシモ當年早魃ノ模様ハ此年ニ稀ナル慘況ヲ呈シ已ニ數百町ノ田面涸渴シ到ル所龜裂シ漸ク移植ヲ了リタル稚苗ハ概ネ枯死シテ又生色ナキ實況ナリシカハ僅ニ八時間ノ分水ニヨリ蘇生セシムヘキ見込ナキハ勿論分水ノ水先纔カニ渡鹿堰上ニ止マリ同井樋ニ一滴ヲモ引入レルコトヲ得サル次第ナリシヲ以テ再ビ分水ヲ求ムルモ到底作毛收得ノ見込ナキモノトニ其儘拋棄シ去リタリ其結果同年ノ稻作ハ全體ニ收穫ノ幾割ヲ減シタルノミナラス

四百餘町歩ハ全ク皆無之旱損ニ歸シタリ

右ニ付他託郡白川掛各町村長ハ大ニ將來ヲ掛念シ從來ノ成行ヲ以テ考フレハ協議上到底充分ノ養水ヲ得難キヲ思ヒ其年十月古例舊慣ヲ按シ現ノ法令規定ニ據リ相當ノ處分アラン事ヲ連署懇願スル所アリシカハ翌年ニ到リ郡長ハ之ヲ縣廳ニ進達シタリ然ルニ縣廳ニヨリテハ先以双方郡長ノ協議ヲ必要トシ内務部長ヨリ其旨ヲ通牒シ來リタルモ郡長ニ於テハ結局圓滿ノ協議ヲ遂グル能ハサル見込ヲ以テ此儀ハ其儘閑キタリ

一、明治二十八年ニ於テモ又白川渴水シ分水請求ノ爲メ例ニヨリ七月十三日大津町ニ會シ双方協議ニ及ヒタルモ其後降雨ノ爲メ分水ハ見合トナリタリ

一、明治三十年ニ於テハ白川非常ノ渴水ニ付六月二十八日郡長ハ關係町村長ヲ引卒大津町ニ出張シ菊池郡長モ亦關係町村長ト俱ニ同所ニ會合シ反覆協議ノ上左之如ク分水實行スルコトニ決ス

七月一日正午ヨリ二日午前四時迄十六時間

七月五日午後三時ヨリ六日午前四時迄十三時間

七月八日午後三時ヨリ九日午前四時迄十三時間

右之通分水セシモ猶移植ヲ了ラサル水田三百町歩以上有之付其旨縣廳ヘ上申シ縣廳ヨリ内務部第二課長以下數名廳員ヲ特派シ懇篤説示ノ末同十八日及二十二日ノ兩日午前九時ヨリ何レモ翌日ノ午前

一時迄分水施行但二十二日ハ降雨ノ爲メ延期シ二十九日ニ施行其後猶田畝旱害ノ模様ヲ踏査シタルニ未ダ養水充足セス制底十六時間ノ分水ニテハ水末ニ行届カサルニ付更ニ其旨ヲ縣廳ヘ具申シ縣廳ニ於テ同月六日、十日ノ兩日ニ於テ各二十四時間分水スヘキ旨上手各堰ニ命令セラレタリ右ノ如ク前後拾數回ノ分水アリシモ猶養水不足ニ付更ニ協議ヲ經テ同月二十二日二十三時間同二十七日二十五時間分水セリ

以上

第三、分水命令

一、訓令

舊藩時代ヨリ明治初年ニ至ル迄ノ分水事情ハ上述ノ記録ノ如クニシテ、舊藩時代ハ惣庄屋ガ、明治ニナリテハ郡長ガ、主トシテ分水交渉ノ衝ニ當リ、時々ノ用水事情ニ應ジテ適宜ニ分水ヲ處理シ來リタリ。而ルニ、明治二十七年、三十年ノ兩度ニ亘リ、此地方ニ稀ナル旱魃アリ、白川下流灌漑田ハ、其場ニ臨ミテ上下流關係町村長ノ協議ニ依ル僅々時間ノ分水施行ニ依リテハ殆ンド分水ノ效力無カリシニ依リ、斯クテハ將來共到底充分ナル養水ヲ得難ク思ヒ、三十一年六月飽託郡關係町村長ハ、古例舊慣ヲ按シ、現行法令規定ニ依リ豫メ相當ノ處分アラシムコトヲ縣ニ具申セリ。

故ニ、縣ニ於テモ年々ノ分水問題ノ紛擾ヲ虞レ、良ク古例舊慣竝上、下流引水事情等ヲ調査シ、同年七月二十六日訓令申第百號ヲ以テ次ノ如ク分水ニ關シ規定セリ。此分水ニ關スル訓令ハ實ニ縣ノ分水命令ノ嚆矢トス。尙、此訓令ハ明治四十二年六月改正セラレタリ。

訓令甲第一〇〇號

菊池郡役所

阿蘇郡役所

自今白川筋馬場桶堰以下五ヶ所關係ノ田地ニ於テ旱害若シクハ旱害ノ虞アルトキハ其都度縣廳ニ於テ上下ノ實況ニ應シ左ノ方法ニヨリ分水ノ時期竝ニ上流堰井樋口閉塞ノ時間ヲ指定シ當該郡長ニ命令スヘシ當該郡長ニ於テ右命令ニ接シタルトキハ水利組合管理者又ハ關係町村長ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

明治三十一年七月二十六日

熊本縣知事 大浦兼武

- 一、白川分水ハ赤瀬堰畑堰上井手堰下井手堰外牧堰岩坂中島堰玉岡堰津久禮堰マテ上流堰トシ馬場桶堰渡鹿堰三本松堰十八口堰中島堰迄ヲ下流堰トス
- 二、分水ノ時期及時間ハ旱害ノ程度ニヨリ左ノ三種ニ區別ス

甲 下流旱魃ノ區域殆ント全部ニ亘リ其被害甚シト認ムルトキハ四晝夜ニ二十時間以上二十八時間以
内上流堰ノ井樋口ヲ閉塞スヘシ

乙 下流旱魃ノ爲メ田養水窮乏シ被害アリト認ムルトキハ五晝夜ニ十二時間以上二十時間未滿上流堰
井樋口ヲ閉塞スヘシ

丙 毎年田養水必要ノ時期中ハ上流堰ニ於テ瀬田上下堰所固定構造ノ外土俵石若クハ荒子等ヲ以テ特
ニ流水ヲ支フルノ装置ヲ爲スコトヲ許サス

但下井手堰所ニ於テ荒子若シクハ石等ヲ置クノ必要アル場合ハ管理者ニ於テ相當ノ計畫ヲナシ
特ニ知事ノ許可ヲ請ハシムヘシ

三、分水ノ場合ニ於テハ上流各堰ハ定時間中一齊ニ井樋口ヲ閉塞スヘシ
閉塞時間内ト雖モ降雨増水スル場合ハ特ニ開啓ヲ命スルコトアルヘシ

但津久禮堰ニ限リ下流ニ等シキ旱害ノ事情アルトキハ特ニ閉塞ヲ命セサルコトアルヘシ

四、上流各堰所井樋口開閉取締ハ舊來ノ例ニ依ルノ外特ニ警察官吏ヲ派シ監督セシムルコトアルヘシ

訓令甲第三三號

菊池郡役所

阿蘇郡役所

明治三十一年(七月)訓令甲第一〇〇號ヲ左ノ通り改正ス

熊本縣知事

第一條 毎年田養水必要ノ期間中白川筋上流堰ニ於テ瀬田上井手堰、下井手堰固定構造ノ外特ニ流
水ヲ支フルノ装置ヲ爲スコトヲ許サス

但瀬田上井手堰下井手堰ニ於テ必要アル場合ハ管理者ニ於テ相當ノ設計ヲ爲シ出願スルトキハ石
若クハ荒子ヲ装置スルモノニ限リ特ニ許可スルコトアルヘシ

本令ニ於テ上流堰ト稱スルハ赤瀬堰、畑堰、上井手堰、下井手堰、外牧堰、岩坂堰、玉岡堰、津
中島堰ヲ謂フ久禮堰ヲ謂ヒ下流堰ト稱スルハ馬場楠堰、渡鹿堰、三本松堰、十八口堰、中島堰ヲ謂フ

第二條 下流堰關係ノ田地ニ於テ旱害若ハ旱害ノ虞アルトキハ其都度知事ニ於テ上流堰及下流堰ノ
實況ニ應シ分水ノ時期竝ニ上流堰井樋口閉塞ノ時間ヲ指定シ當該郡長ニ命令スルコトアルヘシ
當該郡長ニ於テ其命令ニ接シタルトキハ普通水利組合管理者又ハ關係町村長ヲシテ之ヲ執行セシ

ムヘシ

但津久禮堰關係田地ニシテ下流堰關係ノ田地ト著シキ旱害ノ事情アルトキハ同堰ニ限り閉塞ヲ命セサルコトアルヘシ分水ノ爲メ井樋口ヲ閉塞スヘキ時間ハ旱害ノ程度ニ依リ左ノ二種トス

一、下流堰關係田地旱魃ノ區域殆ント全部ニ亘リ其被害甚シト認ムルトキハ四晝夜ニ二十時間以上二十八時間以内

二、下流堰關係田地旱魃ノ爲メ田養水窮乏シ被害アリト認ムルトキハ五晝夜ニ十二時間以上二十時間以内

第三條 前條ニ依リ分水スルトキハ上流堰ハ何レモ定時間中一齊ニ井樋口ヲ閉塞スヘシ

但閉塞時間中ト雖モ降雨増水シタル場合ハ特ニ開樋ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 上流堰井樋口開閉ノ取締ハ舊來ノ例ニ例ルノ外特ニ警察官吏ヲ派シ之レカ監督ヲ爲サシムルコトアルヘシ

附

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二、分水命令

此訓令ガ渴水ノ際ニ於ケル分水ノ基準トナリ統制セラル、コトニナリタルモ、其後大ナル旱魃ヲ見

ズ、白川減水ノ場合ニ於テモ互ニ關係町村長間ニ於テ時々ノ用水事情ニ據リテ分水程度ヲ協定シ來リ、此訓令ハ一度モ運用セラレザリキ。

而ルニ、其後引水工作物ノ改築等ニ伴ヒ、白川ノ利水關係ガ複雑トナリ、上流堰ヲ完全ニ修理シ引水スルコトガ下流ニ於ケル白川ノ流水ヲ殆ンド涸渴ノ状態ニ陥ラシメ、再ビ渴水ニ於ケル分水問題ガ喧シクナレリ。

縣ハ大正七年四月一日白川ニ河川法ヲ準用シ、同年五月熊本縣令第二十二號ニ依リ河川取締規程ヲ施行シ、流水ノ占用之ニ伴フ工作物施設ニ關シ、縣知事ノ許可ヲ要スルコトニシ統制セリ。

故ニ縣ハ堰ノ修築等ヲ統制スルト共ニ、渴水ニ際シ、分水ヲ必要トセル場合ハ法ノ根據ノ下ニ分水ヲ統制スルコトニナレリ。即チ、上流ノ無制限ノ引水ガ下流ノ流水ノ涸渴ヲ來サシメ、管ニ河川トシテノ公用ヲ爲サザルノミナラズ下流沿岸ノ灌溉ニモ尠カラザル支障ヲ來スヲ以テ河川法第二十條第二項六ニ依リテ、許可セル堰設置ニ伴フ引用水ヲ一時停止スル命令ヲ發シテ引水ヲ制限スルコトニナレリ。

此ノ命令文ヲ記セバ次ノ如シ。

熊本縣令第何號

(何年何月何日施行)

何年何月何日土第何號ヲ以テ許可シタル用水堰設置ニ伴フ引水ハ公益上必要アルヲ以テ明治二十九年法律第七十一號河川法第二十條ニ依リ左記條件ノ下ニ引水ヲ一時停止ス
追テ何年何月何日熊本縣命令第何號ハ之ヲ廢ス

記

一、取入口ニ施設シアル樋門ハ左ノ指定日ノ午後四時ヨリ翌日午後四時迄之ヲ閉塞ス
何日、何日、何日

二、前項引水ノ制限ハ天候増水等ノ模様ニ依リ變更又ハ解除スルコトアルヘシ

三、本命令書ヲ受領シタルトキハ遲滯ナク其日時ヲ記載シタル受領證ヲ差出スヘシ

記録ニ徵セバ此分水命令ヲ發シタル年ハ、大正九年八月十三日熊本縣命令第二十一號用水堰許可ノ效力一時停止ノ件ヲ各上流堰ニ命ジタルヲ初メトシ、既ニ大正十三年七月三十日、大正十五年七月二十日、昭和二年七月二十六日ノ四回ニ亘リ分水命令ヲ發シタル歴史アリ。

分水命令ハ發令ニ先立ちテ、縣ノ吏員ガ實地ニ付キテ用水事情ヲ調査シ、其結果發令スルモノニシテ、直接係員ガ現場ニ出張シ或ハ警察力ヲ用ヒテ分水ヲ命ズルナリ。

三、覺書

今日、分水問題最後ノ解決ノ鍵ハ分水命令ニアルモ、此命令ハ緊急ナル場合ノ處分ニシテ、一面力

ニ依リ望マシカラサル分水ヲ止ムヲ得スシテ行フコトアリ。

斯クテ益々分水問題ヲ紛窮セシメ、農業經營ノ不安定ヲ來スノミナルヲ以テ、豫メ關係町村カ協議シ、適當ナル覺書ヲ取交シ、用水不足ノ際ニモ備フヘキ分水協定ヲ必要トセリ。

今日先ノ訓令ハ其運用ヲ見ス而モ用水事情ノ變化ニ伴ヒ其條件ニモ變化ヲ來シ死文ト化セルヲ以テ、新ニ關係町村長ハ自ラ次ノ申合ヲ大正十三年十一月取交セリ。

申合

- 一、分水ハ上流七十時間下流二十八時間トス
- 二、分水開始時期ハ縣ニ於テ必要ト認メタルトキ
- 三、降雨増水ノ時ハ分水時間中ト雖中止スルコトアルヘシ
- 四、右協定事項ハ必要アルトキハ協議ノ上變更スルコトヲ得

右協定ス

大正十三年十一月二十七日

白川關係普通水利組合

更ニ、大正十五年七月此ノ申合ニ依ル分水ノ順序ヲ定メ、申合ノ確實ヲ計リタリ。

覺書

分水ハ大正十三年十一月二十七日ノ申合書ニ依リ左ノ順序ニ依リ處理スルモノトス

一、下流ニ於テ灌溉水ニ不足ヲ生シ稻ノ成育ニ支障アル場合ハ其ノ都度本縣ニ申出ツルト同時ニ上流ニモ申出ツルモノトス

二、本縣ニ於テ前項ノ申出ヲ受ケタル場合ハ直ニ上、下流ニ付キ實地調査ヲナシ、果シテ分水ノ必要アリト認メタルトキハ少クトモ十時間前ニ上流關係堰管理者ニ其ノ分水ノ時期ヲ豫告スルモノトス

三、管理者ニ於テ分水ノ豫告ヲ受ケタルトキハ直チニ地元民ニ其ノ旨ヲ周知セシメ豫告時刻ニ至ラハ各堰共一齊ニ取入口樋門ヲ閉塞シ分水スルモノトス

四、申合書第三項ニ依リ縣ヨリ中止ノ通知ナキ間ハ申合書第一項ヨリ分水スルモノトス但水害ノ虞アル場合ハ此ノ限りニ非ス

五、分水期間ハ毎年縣ニ於テ必要ト認メタルトキヨリ九月十五日迄トス但シ申合書第三項ニ依リ分水中止シタルトキニ於テ更ニ分水ノ必要アリト認メタル時ハ其ノ開始時期ハ縣ヨリ通知スルモノトス

尙、昭和二年八月一日、分水ノ際ノ手續ニ付キ更ニ精細ナル申合ヲ取交シ、大正十三年ノ分水申合ノ運用ヲ容易ナラシメタリ。

覺書

一、上流各堰ノ樋門ハ樋蓋ノ不完全ナルモノハ豫メ修繕シ分水ノ場合ハ樋門ヲ完全ニ閉塞スルコト

樋門ヲ閉塞スルモ尙漏水アル場合ハ土俵積其他ノ方法ニ依リテ完全ニ洩水ヲ防止スルコト但シ其費用ハ下流側ニ於テ負擔スルモノトス

一、分水ヲ受クヘキ下流堰ハ分水總流量ヲ灌溉反別竝單位用水量ニ依リテ算出シタル水量ニ依リテ按分シ各堰ノ取入水量竝其ノ引水時間ヲ定ムルコト

分水ノ場合ニ分水ヲ受ケサル個所アル時ハ次回ノ分水ニ於テ其ノ用水量ヲ増加スルモノトス各堰ノ水ノ取入ハ縣技術員ノ指揮ニ從ヒ調節スルモノトス

下流各堰ノ閉塞ハ第一項ノ例ニ依ルコト
開樋ノ時期ハ白川本流カ分水前ノ状態ニ復シタル時トス

下流各堰ノ閉塞及開樋ニ要スル費用ハ其堰ノ管理者ノ負擔トス
一、分水ノ總流量ノ認定竝各堰取入流量及取入時間ハ縣ノ決定ニ一任スルコト

分水方法
一、白川ノ流量ハ三百個ト推定ス

二、分水方法ハ其堰ニ白川ノ水先到着ノ時ヨリ起算シ左記ノ表ニ依リ引水シ時間經過後ハ樋ヲ密閉スルモノトス

三、左記ノ表ニ示セル水量ヨリ多量ニ各水路ニ流入スル場合ハ縣技術員ノ指揮ニ從ヒ適當ノ處置ヲ爲スモノトス

四、分水前防水材料ヲ準備シ置キ樋門閉鎖後漏水スル場合ハ適當ノ防水施設ヲナスモノトス

五、樋門開樋ノ時期ハ白川本流ノ分水前ノ状態ニ復シタル時トス

六、三本松堰以下ノ分水ハ各關係水路掛ニ於テ適當ニ分配スルモノトス

堰名	灌溉反別	總用水量	引水量	引水時間
津久禮堰	一三〇町	二、九五六	六五	十三時
馬場楠堰	一四五	三、一五二	六五	十三時
渡鹿堰	一、二五〇	一三、五八七	一七〇	二十二時間
渡鹿堰以下	九七〇	一〇、五四三		

(昭和二年八月一日申合)

第四、縣ノ農業水利統制施設

白川分水ニ關シ上、下流關係町村長間ニ協定ナラザル際ハ緊急ノ處置トシテ分水命令ヲ以テ統制セラルコトハ上述ノ如シ。

サレド、白川ノ水利問題ハ治政ニ重大ナル關係ヲ有シ、水利紛争ハ年々複雑ニナリ行クヲ以テ、之ガ根本的對策ヲ講ズルコトハ縣ノ宿願ナリキ。

故ニ、縣ハ大正八年白川筋灌溉水ノ圓滑ヲ期スル爲ニ縣廳内ニ常置機關トシテ白川水利委員會ヲ設ケタリ。

會ノ組織ハ會長、副會長、委員、幹事、書記ヨリナリ、會長ハ内務部長、副會長ハ警察部長其任ニ當リ、委員ハ關係官吏及關係町村長ヨリ選ビ、幹事ハ土木課長其任ニ當ル

委員會ハ内務部長ノ諮問機關ニシテ、常時ハ幹事が水利上ノ調査研究ヲナシ、或ハ緊急ヲ要スル水利問題ヲ專決處分スルコトニナレリ。

委員會ノ運用ヲ見ルニ、年々ノ分水命令ヲ發スル場合ニモ招集セラレタルコトナク、又白川水利問題ノ根本策ヲ講ズルタメニモ招集セラレタルコトナシ。

故ニ白川水利委員會ハ規程ノミニシテ、實際ニ於テハ、運用セラレ居ラザルモノト云フベシ。尙、參考ニ白川ガ河川法準川河川トナリタルト共ニ規定セラレタル河川取締規程ヲ記ス。

本規定ハ直接水利ニ關シ規律スル所無ク、専ラ警察的河川取締ノ規律ノミナリ。

白川水利委員會規程並河川取締規程ハ次ノ如シ。

白川水利委員會設置規程

第一條 阿蘇郡錦野村地内畑堰以下ニ於ケル白川筋灌溉水ノ圓滑ヲ期スル爲メ熊本縣廳内ニ水利委員會ヲ設置ス

第二條 水利委員會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會長 一名
- 副會長 一名
- 委員 若干名
- 幹事 若干名
- 書記 若干名

第三條 會長ハ内務部長、副會長ハ警察部長ヲ以テ之ニ充テ委員、幹事、書記ハ知事之ヲ任命ス

第四條 會長ハ知事ノ命ヲ受ケ水利委員會一切ノ事務ヲ統轄ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長不在ノトキハ之ヲ代理ス

委員ハ重要ナル問題ニ付會長ノ諮問ニ對シ意見ヲ陳フルモノトス

幹事ハ會長ノ命ヲ受ケ常時水利上ノ調査研究ヲナスト共ニ輕微又ハ急速ノ處置ヲ要スル水利問題

ニ付テハ專決處分スルコトヲ得

書記ハ會長ノ命ヲ受ケ事務ニ従事ス

第五條 委員會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ臨時ニ之ヲ開催ス

河川取締規程(大正七年五月十日 縣令第二十二號)

(沿革) 大正十一年六月縣令第二十八號同十五年六月同第四五號改正

河川取締規程左ノ通定ム

河川取締規程

第一條 河川法ヲ施行シ又ハ同法ヲ準用シタル河川ノ取締ニ關シテハ他ノ法律命令ニ規定アルモノヲ除クノ外本規程ヲ適用ス

第二條 左ノ行爲ハ之ヲ禁止ス

一、航路ニ投錨シ若ハ引繩ヲ爲シ又ハ航路狹隘ノ箇所ニ舟筏ヲ並航スルコト

二、漕具ヲ操ラスシテ舟筏木材ノ類ヲ放流スルコト但シ獨木流ニシテ相當取締人ヲ付スル場合ハ

此限ニ在ラス

三、堤防橋梁又ハ制水導水護岸ノ目的ノ爲ニ施設シタル工作物及測量標量水標其他ノ標識並其保護物ニ舟筏竹木又ハ家畜ヲ繫留スルコト

- 四、河川敷ニ土砂若ハ礫等ヲ以テ築堤ヲ爲シ又ハ盛土ヲ爲スコト
 - 五、制水導水又ハ護岸ノ目的ノ爲ニ施設シタル工作物ヲ物置場若ハ物干場ニ供スルコト
 - 六、河川又ハ堤防ニ土砂塵芥其他ノ物ヲ投棄若ハ堆積スルコト
 - 七、堤防又ハ河岸ノ芝草ヲ剝取スルコト
 - 八、堤防又ハ河岸ニ家畜ヲ放牧スルコト
 - 九、捕魚ノ爲ニ石附ヲ爲スコト
 - 十、濫リニ堤防護岸ヲ昇降スルコト
 - 十一、陸揚ノ設備ナキ堤防又ハ河川ノ工作物ニ於テ荷役ヲ爲スコト
- 第三條 左ノ行爲ヲ爲サムトスル者ハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 一、河川敷堤防敷又ハ河岸地ノ岸石ヲ破碎スルコト
 - 二、河川敷堤防堤外地又ハ河岸地ヨリ土石砂利其他明治三十三年勅令第三百號ニヨル竹木以外ノ生産物ヲ採取スルコト
 - 三、前各號ノ外渡舟ヲ設置シ又ハ河川ノ浚渫航路ノ堀鑿等流水ノ方向若ハ深淺ニ影響ヲ及ホスヘキ行爲
- 第四條 舟筏其他ノ物ヲ流漕シ又ハ許可ヲ受ケテ爲シタル作爲ニ因リ河川ノ附屬物若ハ工作物ヲ毀

- 損シタルトキハ直ニ所轄土木管區事務所ニ届出テ指揮ヲ受ケ之ヲ修理シ原形ニ復スヘシ
- 第五條 河川法第十七條明治三十三年勅令第三百號第四條中竹木伐採ヲ除ク他ノ許可及本規程第三條第一號第三號ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ工事ノ種類ニ依リ水車取締規則第二條又ハ土木工事取締規則第三條ノ規定ニ準シ願書ヲ差出スヘシ但シ簡易ノ工事ニ在リテハ第一號様式ニ依ルモ妨ケナシ
- 第六條 河川法第十八條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第二號様式ニ依リ願書ヲ差出スヘシ
- 第七條 明治三十三年勅令第三百號第四條第三號中竹木伐採ノ許可又ハ本規程第三條第二號ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ第三號様式ニ依リ願書ヲ差出スヘシ
- 第八條 河川法第十八條又ハ前條ノ許可ヲ受ケタルモノハ關係行政廳若ハ其委任ヲ受ケタルモノ、命スル所ニ依リ料金ヲ納付スヘシ
- 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ料金ヲ免除若ハ減額スルコトアルヘシ
- 一、河川法第二十條第二號乃至第四號又ハ又六號ニ依リ許可ヲ取消若ハ其效力ヲ停止シタルトキ
 - 二、天災其他不可抗力ニ依リ占用若ハ採取ノ目的ヲ達スルコト能ハサルトキ
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ許可ヲ取消シ若ハ其效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ原形ノ回復ヲ命スルコトアルヘシ

- 一、許可ノ條件ニ違反シタルトキ
 - 二、第八條ニ依リ命シタル期限内ニ其料金ヲ納付セザルトキ
 - 三、河川法第十八條又ハ本規程第三條ニ依リ許可シタル區域外ニ出テ占用又ハ採取シタルトキ
- 河川法第二十條第五號又ハ前項第一號第三號ノ事由ニ依リ許可ヲ取消シ若ハ許可ヲ受ケタル者ノ都合ニ依リ占用又ハ採取ヲ廢止シタル場合ハ既納ノ料金ハ還付セス
- 第十一條 河川法第十七條明治三十三年勅令第三百號第四條又ハ本規程第三條ノ許可ヲ受ケタルトキハ所轄土木管區事務所員ノ指揮ヲ受ケ工事ノ施行若ハ目的物ノ採取ヲ爲スヘシ
- 前項工事ノ竣功若ハ目的物採取ヲ了シタルトキハ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
- 第十二條 河川法第十八條明治三十三年勅令第三百號第四條又ハ本規程第三條ニ依リ許可ヲ受ケタルトキハ所轄土木管區事務所員ノ指揮ヲ受ケ第五號様式ノ標識ヲ建設スヘシ
- 第十三條 第三條第二號又ハ明治三十三年勅令第三百號第四條第三號中竹木木材採ノ許可ヲ受ケタルモノニ於テ其ノ目的物ヲ採取スルトキハ知事ヨリ下附シタル證票及第八條ニヨル料金納付濟證ヲ攜帶シ當該官吏員又ハ證察官吏ノ要求アルトキハ之ヲ提示スヘシ
- 第十四條 許可ヲ受ケタル者ノ義務履行ニ關シテハ共同出願者ハ連帶ノ責ニ任ス
- 第十五條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ占用ノ目的又ハ工事ノ計畫若ハ設計ヲ變更セムトスルトキハ又

- ハ占用ノ期間ヲ更新セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十六條 本規程ニ依リ與ヘタル許可ニ依リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移轉セムトスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十七條 許可ヲ受ケタルモノノ死亡シ其相續人ニ於テ權利義務ヲ繼承セムトスルトキハ一箇月以内ニ出願シ知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ第十九條第三項ニ依ル義務ニ關シテハ此限ニ在ラス
- 前條及前項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ第四號様式ニ依リ願書ヲ差出スヘシ
- 第十八條 許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ行衛不明トナリタルトキハ其ノ相續人若ハ共同出願者ニ於テ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ
- 第十九條 許可ヲ受ケタル者ニ於テ占用ノ期間滿了シタルトキハ特ニ期限ヲ指定シタル場合ヲ除クノ外二十日以内ニ私有物件ヲ取拂ヒ原形ニ復シ知事ニ届出ツヘシ
- 第三條第三號又ハ明治三十三年勅令第三百號第四條第三號中竹木伐採ノ許可ヲ受ケタルモノハ採取ノ期限滿了シ若ハ採取ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ツヘシ
- 第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テハ地形ノ狀況ニ依リ必要ナル工事ヲ施行セシムルコトアルヘシ
- 許可ヲ受ケタル者死亡シ又ハ行衛不明トナリタル場合ニ於テ前各項ノ義務ハ其相續人ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十條 許可ヲ受ケタル者改氏名又ハ轉任シタルトキハ十五日以内ニ知事ニ差出スヘシ

第二十一條 許可ヲ受ケタルモノハ其占用セル河川敷堤防敷河岸地又ハ流水保護ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 河川法第四十五條ニ依リ河川附近ノ土地若ハ工作物ノ所有者ヲシテ其土地ノ缺壞若ハ土砂流出ヲ豫防スル爲又ハ其工作物ノ河川ニ及ホス損害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ノ全部若ハ一部ヲ爲サシメ又ハ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第二十三條 河川法第四十六條第一項ニ依リ行政廳ニ於テ植付タル竹木芝草ハ其土地所有者ヲシテ其收益ノ全部若ハ一部ヲ收得シテ之ヲ培養セシムルコトアルヘシ

第二十四條 本規程ニ依リ差出スヘキ願書又ハ届書ハ地元町村役場郡市役所ヲ經由スヘシ

第二十五條 第二條及第三條ノ規程ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第二十六條 本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條 河川法第十七條又ハ第十八條ニ依リ許可ヲ受クヘキ事項ニシテ水車設置ニ關シテハ水車取締規則其他ノモノニ在リテハ土木工事取締規則施行以前ニ許可シタルモノ及舊來ノ慣行ニ依リ權利ヲ有スルモノハ本年八月九日迄ニ本規程ニ依リ出願許可ヲ受クヘシ

第五、上、下流各堰ノ水利事情

白川分水ニ於テ問題トナレル主ナル堰ニ付キテ其水利概況ヲ記ス。

上流堰ニ於テハ瀬田上井手、下井手兩堰、下流ニ於テハ渡鹿、十八口兩堰ニ付キテ記ス。

一、瀬田上井手普通水利組合

(イ) 堰ノ概況

瀬田上堰ハ畑堰ニ次ク白川上流位ニアル堰ニシテ、前記ノ如ク用水取入歩合ハ白川筋ニ於テ最大ノ堰ナリ。

其築造ハ加藤清正公ノ手ニナルト傳ヘラレ、今日尙其遺跡トモ見ラルヘキ工作物遺レドモ、今日ノ堰ハ明治三十五年ニ縣費補助ニテ改築セラレタルモノニシテ、延長一三八メートル幅二五メートル石張コンクリート塗施行ノ堅牢ナル溢流堰ナリ。白川筋堰ニ於テコンクリートニテ改築セルモノハ此瀬田上堰ヲ嚆矢トシ、當時下流側ヨリ下記ノ如キ反對陳情アリタルモ、筏通ハ長四間五分トステフ條件ノミニテ明治三十四年十二月二十八日許可セラレタルモノナリ。

當時ノ許可命令書寫ハ下記ノ如シ。

上堰ハ其後數回ノ破損、修理ノ際、筏通、其他ヲ無願ニテ修理改築シ全部堰止メ、縣ヨリ無願工作

物ノ除去ヲ命ゼラレタルモ其儘ニナレリ。
故ニ今日ハ復通竝放水路等ハ全ク名ノミナリ。

白川筋瀬田堰復舊工事ニ付請願

白川ノ水流ハ其源ヲ阿蘇郡南北ノ山中ヨリ發シ菊池上益城飽託ノ三郡ヲ通過シテ有明海ニ注クノ公
流ニシテ前記四郡ハ古來此水流ヲ利用シテ田畝ノ灌溉ニ供シ其川筋各所ニ引水ノ爲メ築設シタル堰
樋ノ如キモ上流下流互ニ權衡ヲ保チ反別ノ廣狹ニ應シテ或ハ數百町步或ハ數千町步皆公平ニ配水セ
シハ勿論ナリ是ヲ以テ昔時加藤氏ノ治政ニ在リテハ此水流ヲ引用灌溉シ得ヘキ田畝ノ反別ヲ限定ニ
テ濫リニ堰積ヲ築クヲ許サス其後細川氏ノ治政トナリテ一々堰積ノ増設アリシト雖モ配水ノ法ハ專
ラ舊慣ニ依リテ敢テ改ムルナク各堰公平ニ引水セシメ來リ候處明治維新百度變更ノ際ニ至リ前記配
水法殆ト弛解ニ歸シ上流ニ於テ下流ニ照會セス瀬田上下ノ堰積ヲ切石ヲ以テ強固ニ築設シ此公流ヲ
橫斷專用センコトヲ圖リタルモノ、如ク爲メニ下流ノ村々ハ用水大イニ缺乏シ夏時ニ至リテハ飽託
郡ノ如キ田畝ノ移植シ得サル者數百町步ニ及ヒ非常ノ困難ニ陥ルノ有様ト相成候然ルニ客年七月
白川洪水ノ爲メ瀬田ノ堰積破壞セシガ今般其關係町村ハ復舊工事ヲ名トシテ從來ヨリモ一層完全ノ
設計ヲ爲シ堅牢鞏固ノ工事ニ着手セリ若此工事竣成スルトキハ下流ノ村々ハ舊ニ倍シテ用水ノ缺乏
ヲ訴ヘ幾千町步ノ田畝ヲ擧ケテ涸渴ニ陥ラシムヘキハ決シテ疑ヲ容レズ其不幸實ニ言フニ忍ヒサル

ナリ瀬田堰積關係町村ノ所爲ハ全ク配水法ノ舊慣ヲ破壞シ他ノ利害ヲ顧ミサル專横ノ施設ト云ハサ
ルヘカラズ依テ今般該工事ノセメント及ヒ漆食ヒ等ヲ用ヒシメズ且ツ上下ノ水田反別ヲ比較シ其割
合ヲ以テ堰積ノ内ニ水落ヲ設ケ適當ニ配水セラレ得ル様公平ノ御處分被成下度此段奉懇願候也

飽託郡力合村長

内 藤 範 輝

同 郡日吉村長

高 見 季 九 彦

同 郡八分字村長

中 村 長 八

同 郡中島村列組合村長

江 藤 七 彌 太

同 郡濱田村列組合村長

白 石 郡 平

同 郡藤富村長

後 藤 郡 八

明治三十四年五月十八日

同 郡本山村長

甲 斐 和 平 次

同 郡本庄村長

倉 岡 又 三

同 郡出水村長

荒 木 繁 平

同 郡部田村長

大 村 德 次 郎

同 郡供合村長

山 田 盛 熊

同 郡田迎村長

平 野 平 四 郎

同 郡春竹村長

内 田 犀 象

同 郡畫圖村長

山 田 正 方

同 郡大江村長

上井手堰普通水利組合管理者

菊池郡長 坂 本 到

熊本縣指令第二八七號

明治三十四年十二月四日付組第一二七號上申用水堰工事施行之件聞届ク

但復通ハ長四間五分ニ訂正シ工事着手之際ハ當應へ届出ツヘシ

明治三十四年十二月二十八日

熊本縣知事 德 久 恒 範圍

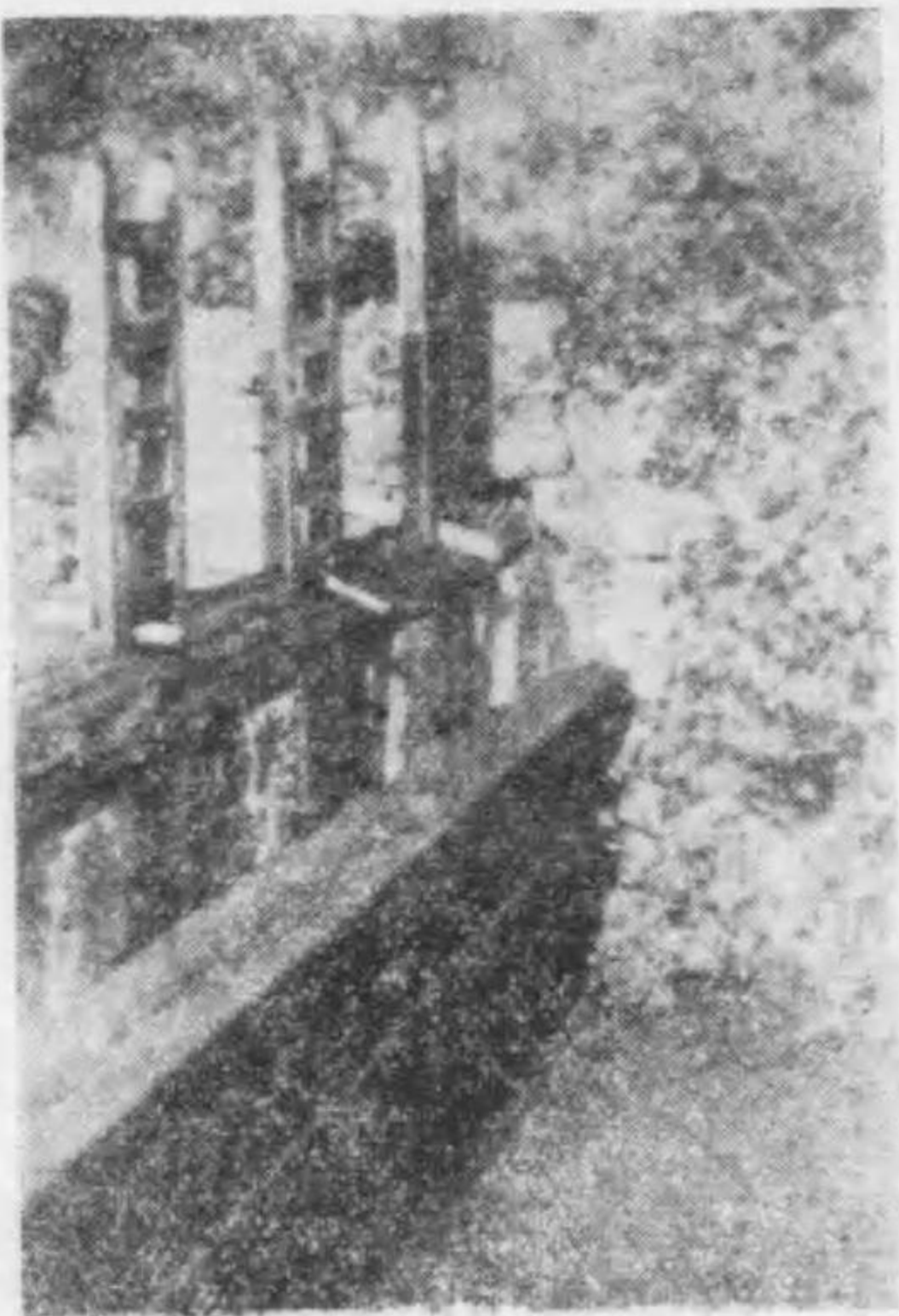
(ロ) 配 水 施 設

上堰ノ灌溉面積ハ四六〇町步ニシテ、堰ヨリ引水セラレタル水ハ幹線水路ニ依リ導カレ、幹線水路ヨリ七十九ヶ所ノ樋管ニ依リ配水セラル。

配水路ハ延長七千三百五十一間ノ長大ニ及ビ内二千五百六十九間ハ瀬田村ニアリ、千二百五十間ハ陳内村ニ、二千二百十八間ハ大津町ニ、千三百十四間ハ原水町ニアリ。

取入水量ハ三五三個ニシテ、此水ヲ全區ニ配水スルモ、此水ハ六對四ノ割ニテ白川下流ニ落水トシテ出スナリ。

配水規約トシテハ別ニ定メタルモノハナク、唯組合規約第三十三條ニ配水ハ從來ノ慣行ニ依ルトシ、同第三十四條ニ幹線ヨリノ取入樋管ノ變更ハ管理者ノ許可ヲ要スト規定セルノミナ



(口入取堰上)

然シ、配水ヲ從來ノ慣行ニ依ルトスルモ、取入樋管ノ大サハ大體灌溉面積ニヨリ定メラレ、大ナルモノ幅二尺、高一尺九寸、小ナルモノ幅二寸高二寸ニシテ適當ニ配水セラレ居ル狀況ニアリ。尙、取入水量ニ對シテ測水設備ハ無シ。

(ハ) 旱魃時ニ於ケル處置

常時ノ配水ハ上述ノ如ク從來ノ慣行ニ依ルコトニナレルモ、旱魃時ニ於テハ特例ヲ設ケ、配水ノ方法ハ管理者ニ於テ適宜處分シ得ルコトニシ(組合規約第三十四條)管理者ハ組合内ニ於テ關係者ト協議ノ上時間ヲ定メ、上流ノ樋口ヲ閉塞シ下流ノ灌溉ヲ計レリ。

本堰區域ニ於テ、旱魃ニ依リ被害ヲ受クル水田ハ用水路支線ノ末端ニ位スル耕地ニシテ、此用水不足ハ取入水量ノ不足ニ因スルコト大ナレドモ亦、用水路ノ不完全ナルコトニ原因ス。

(ニ) 組合規約

本用水堰ハ明治二十四年四月水利組合條例ニ依リ設立セラレ、明治四十一年水利組合法發布セララル、ヤ、該法ニ依リ統制セラル、コトニナリ、大津町長其ノ管理者タリ。

組合規約並昭和四年度豫算書ハ次ノ如シ。

菊池郡瀬田上井手普通水利組合規約 (明治四十二年二月二十八日議決、大正十五年一月二十九日一部改正)

第一章 總 則

第一條 本組合ハ菊池郡瀬田上井手普通水利組合ト稱ス

第二條 本組合ハ瀬田村外三ヶ村ノ田地灌溉ニ要スル瀬田上井手堰ヲ修築保存スルヲ以テ目的トス

第三條 本組合ノ關係區域左ノ如シ

瀬田村大字瀬田

陣内村大字森

大津町大字引水

大津町大字室

大津町大字新
 大津町大字大津
 原水村字中尾
 原水村字南方
 原水村字新
 原水村字入道水
 原水村字柳
 原水村字馬場

第二章 組合會ノ組織及選舉

第四條 組合會議員ノ定數ハ十四名トシ選舉區ノ數及其區域竝ニ各選舉區ヨリ選出スル議員ノ數ヲ左ノ如ク定ム

- 第一區 大津町大字引水 議員一名
- 第二區 同 大津町 同 二名
- 第三區 同 同室 同 三名
- 第四區 同 同新 同 一名
- 第五區 原水村馬場、入道、柳水 同 二名
- 第六區 原水村中尾、新、南方 同 二名
- 第七區 陣内村森 同 二名
- 第八區 瀬田村瀬田 同 一名

第五條 組合員ニシテ滿二十五年以上ノ男子區域内ニ於テ地租壹圓以上選舉期日前滿一年以上間斷ナク納ムルモノハ選舉權ヲ有ス但禁治產者準禁治產者ハ此ノ限リニアラス
 家督相續ニヨリ土地ヲ取得シタルモノハ其土地ニ付キ被相續人ノ所有シタル年限ヲ通算ス
 共有者其共有者ノ土地ニ付キ前二項ニ該當スルトキハ總代人ヲシテ選舉權ヲ有セシム
 六ヶ年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタルモノ及舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サルモノハ選舉權ヲ有セス

第六條 選舉權ヲ有スルモノハ住所地ノ町村ニ依リ所屬ノ選舉區ヲ定ム區域町村内ニ住所ナキモノハ所有ノ土地ノ所在ニ依リ若シ所有ノ土地ニシテ數選舉區ニ涉ル場合ハ地租額ノ最モ多キ所ニヨリ其之レニ依リ難キ場合ニハ本人ノ申出ニ依リ之レヲ定ム
 第七條 選舉權ヲ有スルモノ租稅滯納處分中ハ其選舉權ヲ停止ス家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スル迄又禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦タ同シ
 陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス現役以外ノ兵役ニ在ルモノニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

第八條 組合員ニシテ區域内ニ於テ所有スル土地ノ地租額選舉權ヲ有スルモノ、最モ多ク納ムルモ

ノ三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ第五條第一項ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但前條ノ場合ニ當ルモノハ此限ニアラス帝國法律ニヨリ設立シタル法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

第九條 選舉權ヲ有スル組合員ハ被選舉權ヲ有ス但前條及第五條第三項ニ該當スルモノハ此限ニアラス

左ニ掲クルモノハ被選舉權ヲ有セス其ノ之レヲ罷メタル後一ヶ月ヲ經過セサルモノ亦同シ

一、所屬縣郡ノ官吏及有給吏員

二、組合ノ有給吏員

三、檢事警察官吏及收稅官吏

四、神職僧侶其ノ他ノ諸宗教師

五、小學校教員

組合ニ對シ工事ノ請負物件勞力其他供給契約ヲナシ若クハ組合ノ爲メ金錢出納ノ取扱ヲナスモノ又ハ同一ノ行爲ヲナス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス父子兄弟タルノ緣故アルモノハ同時ニ組合會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ得票ノ數ニヨリ其多キ者一人ヲ當選トシ同數ナルトキハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタルトキハ後ニ選舉セラレタル者議員タルコトヲ得ス

管理者又ハ其ノ代理者トノ間ニ父子兄弟タルノ緣故アルモノハ之レト同時ニ組合會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其緣故アルモノハ管理者ニ指定セラレ又ハ其代理者トナリタルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ失フ

第十條 組合會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲メ解任ヲ要スルモノハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ缺員アルトキハ其缺員ヲ以テ之レニ充ツヘシ

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲メ新ニ選舉モラレタル議員ハ次ノ總選舉迄在任ス

第十一條 組合會審員中缺員ヲ生シ其缺員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキ又ハ監督官廳ノ命令アリタルトキ又ハ管理者若クハ組合會ニ於テ必要ト認ムルトキハ補缺選舉ヲ行フヘシ

補缺議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補缺議員ハ前任者ノ選舉セラレタル選舉區ニ於テ之ヲ選舉スヘシ

第十二條 管理者ハ選舉前四十日ヲ期トシ其日ノ現在ニ依リ選舉區毎ニ選舉人ノ資格ヲ記載セル選舉人名簿ヲ調製スヘシ

管理者ハ其選舉期日前三十日ヲ期トシ其日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄指定ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供スヘシ若シ關係者ニ於テ異議アルトキハ縦覽期間内ニ之レヲ

管理者ニ申立ツルコトヲ得此場合ニ於テハ管理者ハ縦覧期限後三日以内ニ組合會ノ決定ニ付スヘシ組合會ハ其送付ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之レヲ決定スヘシ
前項ノ決定ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ管理者ハ其確定期日迄ニ修正スヘシ
選舉人名簿ハ選舉期日ノ前三日ヲ以テ確定ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ其確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ用フ
確定名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス確定名簿ニ登録セラレタルモノ選舉權ヲ有セサルトキ又同シ但名簿ハ之ヲ修正スル限リニアラス
異議ノ決定アリタルニ依リ名簿無効トナリタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其名簿ノ調製縦覧修正及確定ニ關スル期日及期限等ハ管理者ノ定ムル所ニ依ル天災地變等ニ依リ名簿ノ喪失シタルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其名簿ヲ用ヒ縦覧修正及確定ニスル期日等ハ前選舉期日ニ依リ之レヲ算定ス

第十三條 選舉ヲ行フトキハ管理者ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ七日前ニ各選舉區ニ於ケル選舉會場投票ノ日時及選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ
投票時間内ニ選舉會場ニ入タル選舉人ハ其時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

各選舉區ノ舉擧ハ同日時ニ之レヲ行フヘシ

第十四條 各選舉區ニ於ケル選舉會ハ管理者ノ求メニ依ル町村長又ハ其代理者選舉長トナリ選舉會ヲ開閉シ會場ノ取締ニ任ス

管理者ハ選舉區毎ニ臨時ニ選舉人中ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ

第十五條 選舉人ノ外選舉會場ニ入ルコトヲ得ス
但選舉會場ノ事務ニ從事スル者選舉會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者又ハ警察官吏ハ此限ニアラス

選舉會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若クハ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若クハ勸誘ヲ爲シ其他選舉會場ノ秩序ヲ紊ルモノアルトキハ選舉長ハ之レヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ選舉會場外ニ退出セシメラレタル者ハ最終ニ至リ投票ヲナスコトヲ得但選舉會場閉鎖後ハ此限リニアラス

第十六條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ選舉會場ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ
 投票用紙ニハ役舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス
 自ラ選舉人ノ氏名ヲ書スル能ハサルモノハ投票ヲ爲スコトヲ得ス
 投票用紙ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ユヘシ
 選舉人名簿ノ調製後選舉人ノ所屬選舉區ニ異動ヲ生スルコトアルモ其選舉人ハ前所屬ノ選舉區ニ於テ投票ヲ行フヘシ

第十七條 増員選舉補缺選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第十八條 第八條第一項及第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得但滿

二十五年以上ノ男子ニアラサルモノ禁治產者及準禁治產者ハ必ス代人ヲ以テスヘシ

代人ハ帝國臣民ニシテ滿二十五年以上ノ男子ニ限ル

第五條第四項及第七條ニ當ル者ハ代人タルコトヲ得ス又一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

代人ハ委任狀其他代理ヲ證スル書面ヲ選舉長ニ示スヘシ

第五條第三項ノ總代人モ亦タ此例ニ依ル

第十九條 左ノ投票ハ之レヲ無効トス

一、成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二、現ニ組合會議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタル者

三、一票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

四、被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

五、被選舉權ナキモノ、氏名ヲ記載シタルモノ

六、被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ

但爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此限ニアラス

第二十條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之レヲ決スヘシ

第二十一條 組合會議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス

前項ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年齡同シキトキハ選舉長抽籤シテ之レヲ定ム

第二十二條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之レヲ朗讀シ選舉立會人二人以上ト共ニ之レニ署名スヘシ

選舉錄ハ投票選舉人名簿其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定ニ至ル迄之レヲ保存スヘシ